

全書

大日本

帝國小地理

岡野英太郎先生著

東京 三盛館藏

022694-000-5

特20-216

帝國小地理

岡野 英太郎 / 著

M26

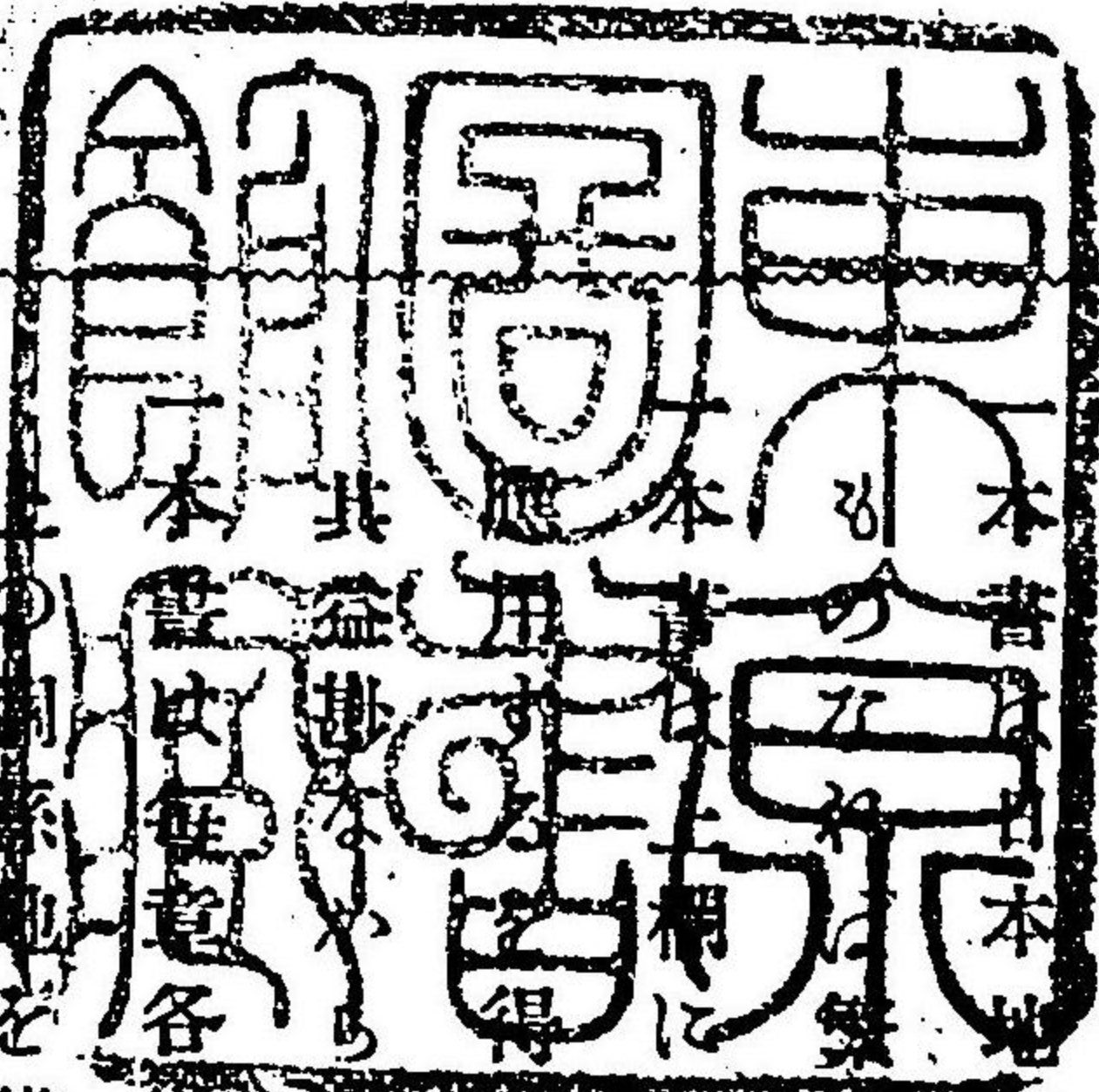
ADB-0470



特20
216

帝國小地理

例言



本書は日本地理の概要を學ばんと欲するものゝ爲めに編纂したるものなり。其の繁に走らず簡に失せざるを期せり。

本書は上欄に其概目を掲げて一は其索引に便ならしめ一は問題に應用するを得せしめたるを以て學者及び教授者の共に参考として其益甚なり。

本書は毎章各道誌の末に史談を加へ古今の沿革を概記し以て歴史上の關係地を媒介せり。

一本書は附編として萬國の略誌を加へたり是れ看者の爲めに外交上の参考に供せんとすの老婆心に過ぎず或は蛇足の批評を蒙むらんが編者は甘んじて之を受くるの覺悟たり。

例言

明治二十六年九月

編者識

帝國小地理目次

○第一編 總論

○第一章 地球の概論……………一

形狀 地軸 兩極 想像線 運動 五帶 動植

物 水陸 風俗 人種 宗教 政體

○第二章 日本の概論……………九

國號 位置 境界 廣袤 邦制 府縣制 山岳

火山 河川 海岸 原野 沼湖 海洋 潮流

地震 氣候 人口 戶數 人種 地味 產物

道路 交通 宗教 教育 政體 軍制 外交

○第二編 各道誌

○第一章 畿内誌……………五十三

目次

一

位置及名稱の由來 境界 地勢 地味 山岳
 河湖 瀑布及温泉 海岸
 港灣、海、岬、崎
 漁業 都市 勝地 氣候 風俗及人情 物產
 農産、製造品、
 史談

○第二章 東海道誌。

六十三丁

位置、境界 地勢 地味 氣候 山岳及火山
 河湖 温泉及瀑布 海岸
 港灣、崎、岬、半島灘、島嶼、
 都市 勝地及神社 風俗及人情 產物
 農産、水産、製造品、牧畜
 史談

○第三章 東山道誌。

八十四丁

○中山道……………同 丁
 境界 地勢 地味 氣候 山岳及火山 河湖
 瀑布及温泉 都市 勝地 風俗及人情 山林
 物産
 農産、製造品、鑛産。
 史談

○陸羽。

九十六丁

位置及境界 地勢 氣候 地味 山岳及火山
 河湖 温泉 海岸
 半島、灣、港、岬、崎、海峽、島嶼。
 都市 勝地 風俗及人情 山林及牧畜 物産
 農産、製造品、水産、鑛産。

史談

○第四章 北陸道誌……………百四丁

位置及境界 地勢 氣候 地味 火山 河湖

瀑布及溫泉 海岸

港、灣、半島、岬、島、險路。

都市 風俗及人情 物產

農產、製造品、水產、鑛產。

史談

○第五章 南海道誌……………百一十一丁

位置 境界 地勢 氣候 地味 山岳 河湖

瀑布及溫泉 海岸

港、灣、海峽、岬、崎、浦、灘、島、嶼。

都市 勝地 風俗及人情 物產

農產、製造品、水產、鑛產。

史談

○第六章 山陰道誌……………百二十丁

位置 境界 地勢 氣候 地味 山岳 河湖

瀑布及溫泉 海岸

港、岬、崎、島、嶼。

都市 勝地 風俗及人情 物產

農產、製造品、水產、鑛產。

史談

○第七章 山陽道誌……………百三十丁

位置及境界 地勢 氣候 地味 山岳 河湖

瀑布及溫泉 海岸

港、瀨戶、海峽、岬、崎、島、嶼。

目次

五

都市 勝地 風俗及人情 物產
農產、製造品、水產、鑛產。
史談

○第八章 西海道誌……………百四十三丁

位置及境界 地勢 氣候 地味 山岳及火山

河湖 瀑布及溫泉 海岸

港灣、灘、海、海峽、岬、崎、島嶼。

都市 勝地 風俗及人情 物產

農產、製造品、水產、鑛產。

史談

壹岐 對馬 琉球

○第九章 北海道誌……………百六十一丁

位置及境界 地勢 氣候 地味 山岳及火山

河湖 瀑布及溫泉 海岸

港灣、岬、崎、海峽、島嶼。

都市 風俗 物產

水產、製造品、鑛產。

史談 千島群島

○附編 萬國誌。

○第一章 亞細亞洲……………百七十三丁

位置及境界

朝鮮 支那 安南 暹羅 緬甸 印度 阿富汗

汗斯坦及俾路芝斯坦 波斯 亞拉比亞 亞細

亞土耳其 露領亞細亞

○第二章 歐羅巴洲……………百八十一丁

位置及境界 地勢 海岸

露西亞 瑞典諾威 獨逸 和蘭比耳時、噠抹、
英吉利 佛蘭西 西班牙及葡萄牙 以太利
瑞西 澳大利 土耳其 希臘

八

○第三章 亞非利加洲……………百八十九丁

位置及境界 地勢 沙漠 河湖 動物

埃及 奴比亞 亞比亞尼亞 巴巴黎諸國 中

央亞非利加 西部亞非利加 南部亞非利加

東部亞非利加 本洲島嶼

○第四章 亞米利加洲……………百九十三丁

新舊世界 位置及境界 海岸 島嶼 地勢

○北亞米利加洲……………百九十八丁

合衆國 加拿太 墨西哥 中亞米利加

○南亞米利加洲……………百九十九丁

哥倫比亞 委內瑞拉 厄瓜多 巴西 貴亞拿

白露玻利非亞及智利 亞然多同盟國 巴拉圭

及烏拉圭

○第五章 大洋洲……………二百一丁

位置 風俗 區別

東印度諸島 メラネシア アウストラリア、

シアポリネシア

○條約國勢一覽表……………二百四丁

帝國小地理目次畢

目次

九

○地理學上の用語及定義。

○距離。此處より彼處までの間をいふ。

○地圖。地を上より見下す圖をいふ。(地圖は必ず其上部を横より見たるを寫せしをいふ。)

○山。地より大に高き所を云ふ。(海面より二)

○丘。山より低きもの即ち二千尺以下の高さあるをいふ。

○山脈。長く連れるをいふ。
○火山。山腹に穴ありて煙灰燒石などを噴くをいふ。(火山に

○活火山。噴火せるもの也。(噴火せるも往古は噴火せるもの也)

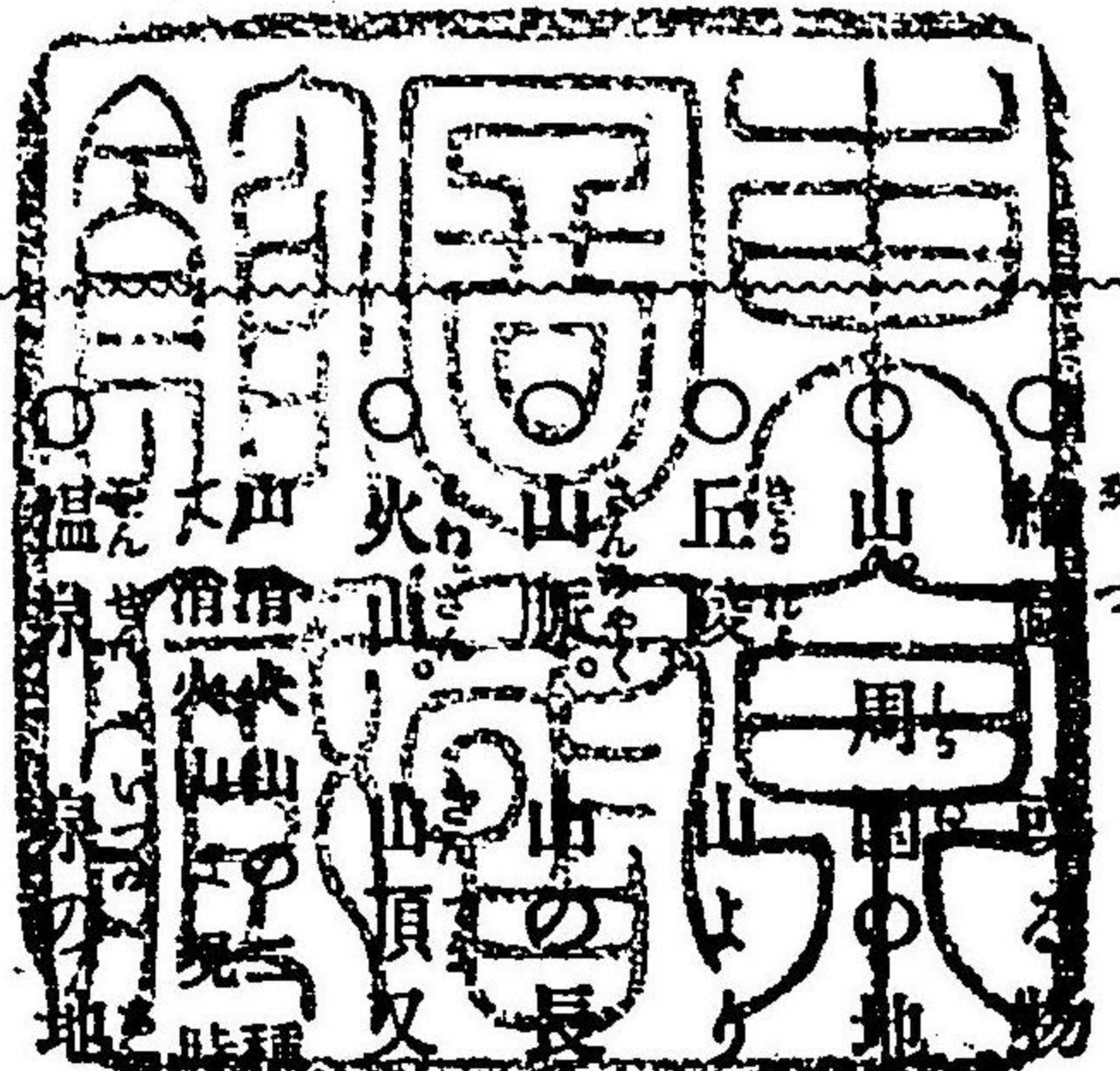
○火。山頂又は山腹に穴ありて煙灰燒石などを噴くをいふ。(火山に

○活火山。噴火せるもの也。(噴火せるも往古は噴火せるもの也)

○川。陸地を水の流るゝをいふ。

○瀑布。高處より低處へ河水の急に流れ落つるをいふ。

○湖沼。陸地の凹みたる處に溜りたる水を池といひ、池の大なるもの



を沼又は湖といふ。

○原野。平地の廣大なるものをいふ。

○海灘。海水の動搖常に烈しく船の進行困難なる所をいふ。

○灣。陸地の間に彎入せる海の部をいふ。

○浦濱。名異なるも共に海岸の名稱にして灣の別名に過ぎず。

○港。灣の深く小にして風波を防ぎ船の碇泊に便なるをいふ。

○海峡。二所の水を僅かに結び合する處をいふ。

○岬崎。陸地の一部海中に突出するものをいふ。

○島。陸地の小なるものにして水に圍まるゝをいふ。

○半島。陸の一部にして殆んど水に圍まるゝものをいふ。

○村、町、市、郡、國、縣。人家の集まりたるを村といふ。村よりも繁盛にして市店多きを町といふ。町の大なるを市といふ。郡は町村の集まり國は郡の集まり縣は大抵國の集まりたるものなり。

帝國小地理

岡野英太郎著

◎第一編 總論。

○第一章 地球の概論。

○形狀。吾人の住居する此世界は恰も平地の如く感すれども其實圓體

なり故に地球と稱す然れども完全なる圓體にはあらざるなり、其直

徑殆んど八千哩、周圍二萬五千哩、面積一億九千七百萬方哩あり。

○地軸。地球は恰も静止の如くに感すれども、其實常に回轉して止ま

るなり、其回轉の想像線を地軸と稱す。

○兩極。地軸の北端を北極と稱し、南端を南極と稱す。

○想像線

想像線。地理學上の便利の爲めに設けられたる縦横の線なり、即ち縦線は南北兩極に通ずるものにして之を經線といふ又子午線とも稱す、蓋し太陽の光線眞直にある處の線に當るときは其處は正午たるを以てなり、此線の必要とする點は地上の或る處より東西の距離を度るにありとす。

○緯線

横線は東西に通ずるものにして之を緯線といふ、抑經線は其長さ何れも等しと雖も緯線に至りては然らざるなり、緯線中央にありて最も長き線を赤道と稱す。

○赤道

經緯兩線各三百六十度に分る、而して之を起算するには緯度に於ては赤道を基線とし、其れより南北へ各九十度とし、經度は東西へ各百八十度とす、其基線とすべき天然の定めなきを以て當時は英國の「グリーンウツナ」の司天臺を假りに其基線と定め、其れより東經何度西經何度と算するなり。

○運動

一度を分ちて六十分となし、一分を分ちて六十秒となす、一度は我が二十八里六町二十四間に當れり。

○私轉

運動。二種あり、地軸により一日即ち二十四時間に一回轉するを私轉といひ、一年に太陽の周圍を一回轉するを公轉といふ、私轉によりて晝夜を生ず、即ち太陽に面する部を晝とし、反せる部を夜とす。

○公轉

公轉によりて四季(春夏秋冬)を生ず、蓋し公轉の道(軌道)といふは楕圓形にして太陽の照らす方向によりて時候に差を生ずるなり、其原因は地軸と軌道との傾き二十三度半なるに因る。

○五帶

五帶。氣候により地球面を五部に區分するを得べし、熱帶、南溫帶、北溫帶、南寒帶、北寒帶、是れなり、赤道より南北へ各二十三度半を熱帶とし、兩極より赤道へ各二十三度半を寒帶とし、其間を溫帶と稱するなり、熱帶と溫帶との界線、南にあるを冬至線といひ、北にあるを夏至線とす。

○熱帯

○温帯

○寒帯

○動物

熱帯は周歲殆んど晝夜に長短なく、太陽朝六時に昇り夕六時に没す、而して氣候多くは乾と濕との二季あるのみなり。

温帯は季候四時の變化あり。寒暖宜しきを得るを以て人皆身體健康、心智靈能にして幸福なる生活を爲すことを得べし。

寒帯は周歲氷雪の解くることなく、只冬夏の二季あるのみ、即ち夏は半歳の間晝のみにして冬は同じく夜のみなり、而して南北各其時期は反對なり。

動物。地球の表面の氣候等しからざるを以て、従つて動物の發育亦等しからざるなり。

熱帯の動物は其發育極めて盛んにして、身體巨大、性質殘忍、獍猛の者のみ多く、且つ美麗のもの多し、植物も亦極めて長大のもの多く、果實殊に多し、是れ熱帯の人は懶惰にして生業を勤むるに疎ければ、此等の物を常食として生存するによればなり。

温帯は熱寒の間にありて、總て其中を得たる樂境と云ふべし。

寒帯は熱帯に反し、動物の種類至て少なく、發育亦不充分にして、熊、鹿、海豹の類の如き嚴寒に堪ふるものと、植物の蘇苔の如きものあるのみ、人亦身體矮小にして、性質痴鈍なり。

○水陸

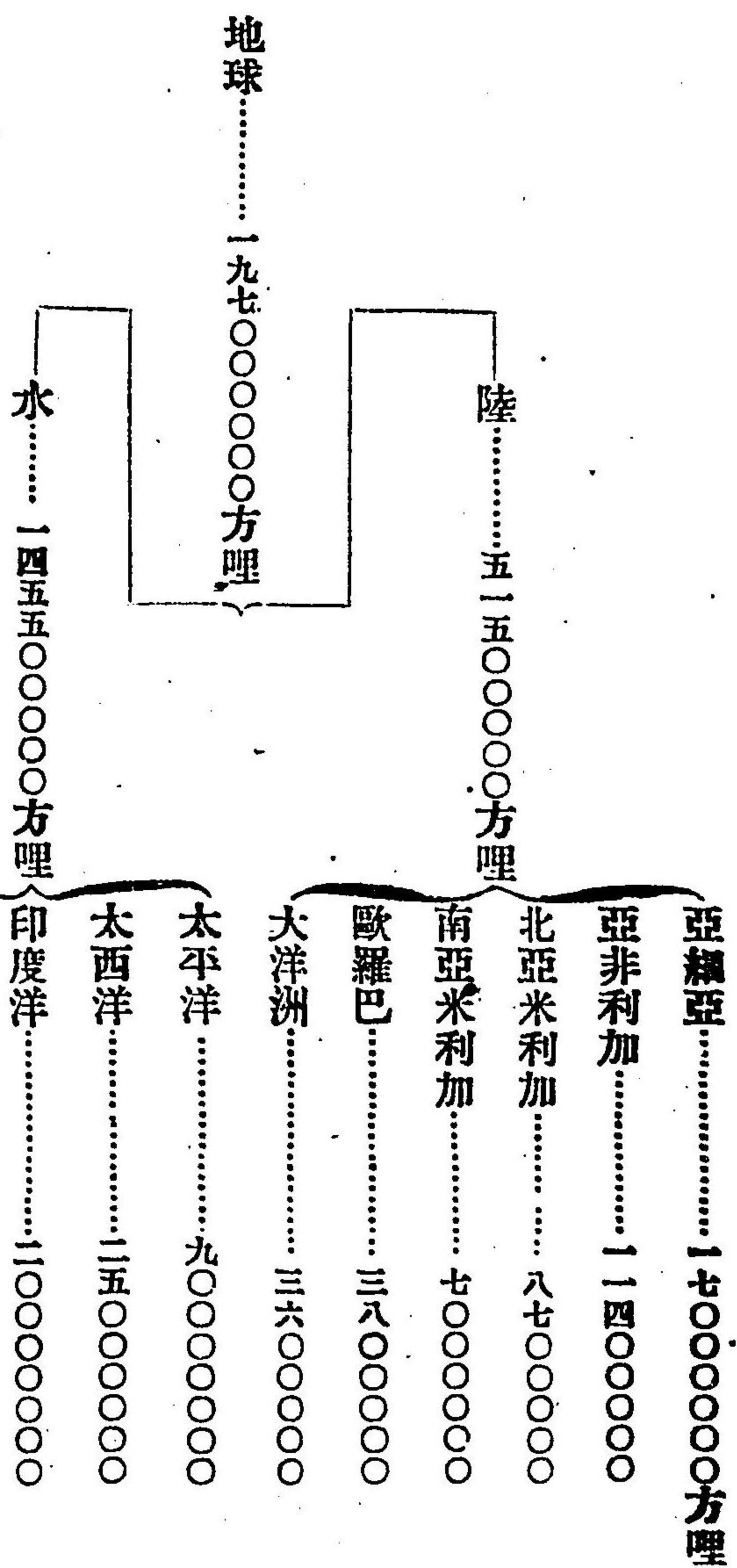
水陸。地球の表面は陸と水とより成り、其比は水は陸の三倍なり、而して陸を六大洲、水を五大洋に區分せり。

東半球には亞細亞洲、歐羅巴洲、亞非利加洲、大洋洲の四大陸と印度洋の一大洋あり。

西半球には南北亞米利加洲の二大洲と太平洋、大西洋、南冰洋、北冰洋の四大洋あり。

今左に各水陸の面積比較を擧げん。

○水陸面積の比較



○風俗 世界萬國到る處として自ら其風習の異なるは論を俟たずと雖も、今之を五大別するを得べし。

○野蠻

(一)野蠻 人類中最も愚蒙の民にして人の人たる道を知らず、餓うれば食を求め、渴すれば飲を求め、且つ多く土中に穴居して、男女往々識別し難きの風あり。

○半開

(二)半開 専ら農事を事とし、日用の器具稍整ひて家屋に住み、都城部落をなせるものなり。

○開化

(三)開化 農工商の業共に行はれ、文字を知り、禮義を重んじ、交易の要具たる貨幣を用ひ、上に君主ありて下を制御するものなり。

○未開

(四)未開 牛羊を牧し、農業をなすと雖も、礦山事業を開くことを知らず、天幕若しくは粗造の家屋に住居して、永久の計を爲さず、尊長の支配を受け、唯僅かに野蠻の域を脱したるに過ぎざるのみ。

○文明

(五)文明 分業の道を知りて、器械の精巧を極め、文字高尙にして、教育盛んに、法律明かに各自權利義務を重んずるの風にして、世界の上位を占むるものなり。

○人種

人種。容貌、膚色、頂骨、頭髮等の差異より分ちて五種とす、即ち

黄色人種(蒙古人種)

褐色人種(馬來人種)

白色人種(高加索人種)

黑色人種(エナチビア人種)

銅色人種(亞米利加人種)

是れなり、而して日本人は黄色人種の中なり。

○人種の人口別

地球上の人口は凡そ十四億餘ありて、黄色人種は五億七千萬人、褐色人種は二億三千萬人、白色人種は四億人、黑色人種は二億人、銅色人種は二千五百萬人なり。

○宗教

宗教。人文未だ開けざるの時より行はれ、世界の人民一として或る宗教を有せざるものなく、其利益とする所は、常に能く人道を正し、風俗を化し、或は政治を補ふ等にありとす。

宗教の種類多しと雖も、現今其信徒の多數を占むるものは、儒教、佛教、基督教、バラモン教、猶太教、回教等とす。

○政體

政體。又千種萬類にして一も同一なるものなしと雖も、之を君政、民政の二大別にするを得べし。

君政とは人民の上に一君主ありて、其子孫世々君位を占めて以て其國を治むるものなり、又君民同治と稱するものあり、上に世傳の君主あるは君政に等しきも、下に於て一の規律を立て、以て君主の權を制限するもなり。

民政とは子孫世傳の君を立てずして、其國中より衆望の歸する所の人物を推して、之に萬機を統轄せしむるものにして、即ち大統領と稱するものなり。

○第二章 日本 の 概論

國號。我が國號は往古種々の名ありし、曰く大八洲國、曰く蜻蛉洲、(秋津洲)曰く豊葦原中國、曰く瑞穗國、曰く大倭と、而して現時は日本國と稱

○國號

せり、日本の稱其何れの頃より言ひ始めしや詳かならず、蓋し東半球の東端に表出して日出の本といへるより起りし語なるべし。

○位置

位置。我か日本國は東半球の東端、太平洋の西北隅にあり。

○境界

境界。四方皆海を繞らせり、東南は太平洋に面し、西は日本海、黄海を隔て、支那、朝鮮、及び魯西亞に隣り、北は「チコーツク」海を隔て、魯領「シベリア」と相對す。

○廣袤

廣袤。我か國は琉球群島、波照間島の南端、北緯二十四度六分より斜めに西北に延び、魯領「カムチャツカ」海峡に近接せる千島國、占守郡の「アライト」島の北端、北緯五十度十六分に盡く、而して經度は琉球與那國島の西端、百二十二度四十分に起り、占守島の東端、百五十六度三十二分に盡く、蓋し此經度は既に第一章に於て述べたる如く、英國「グリーン、ウツナ」の司天臺よりの計算なり、我か國東京の司天臺を元として計算せば、與那國島十七度、占守島十六度四十七分なり。

四箇の大島、本土、四國、九州、北海道と數多の小島とより成立し、其長さ凡そ一千餘里、幅凡そ六十里乃至三十里とす、其面積凡そ二萬四千七百九十四方里にして、之を別細すれば左の如し。

- 本土 一萬四千五百七十一方里
- 北海道 五千〇六十二方里
- 九州 二千六百七十七方里
- 四國 一千八百八十一方里
- 千島 一千〇三十三方里
- 琉球 百五十七方里
- 佐渡 五十六方里
- 對馬 四十五方里
- 淡路 三十七方里
- 隱岐 二十二方里

壹岐 九万里
小笠原島 五万里

邦制。我か國を區分して畿内八道、八十五國、八百四郡とす。
畿内 五國

山城(城州) 大和(和州) 河内(河州) 和泉(泉州) 攝津(攝州)
東海道 十五國

伊賀(伊州) 伊勢(勢州) 志摩(志州) 尾張(尾州) 三河(參州)
遠江(遠州) 駿河(駿州) 甲斐(甲州) 伊豆(豆州) 相模(相州)
武藏(武州) 安房(房州) 上總(總州) 下總(同上) 常陸(常州)
附 小笠原島

東山道 十三國

近江(江州) 美濃(濃州) 飛騨(飛州) 信濃(信州) 上野(上州)
下野(野州) 磐城(奥州) 岩代(同上) 陸前(同上) 陸中(同上)

陸奥(同上) 羽前(羽州) 羽後(同上)

北陸道 七國

若狹(若州) 越前(越州) 加賀(加州) 能登(能州) 越中(越州)
越後(同上) 佐渡(佐州)

山陰道 八國

丹波(丹州) 丹後(同上) 但馬(但州) 因幡(因州) 伯耆(伯州)
出雲(雲州) 石見(石州) 隱岐(隱州)

山陽道 八國

播磨(播州) 美作(作州) 備前(備州) 備中(同上) 備後(同上)
安藝(藝州) 周防(防州) 長門(長州)

南海道 六國

紀伊(紀州) 淡路(淡州) 阿波(阿州) 讃岐(讃州) 伊豫(豫州)
土佐(土州)

西海道 十一國

筑前(筑州) 筑後(同上) 豊前(豊州) 豊後(同上) 肥前(肥州)

肥後(同上) 日向(日州) 大隅(隅州) 薩摩(薩州) 壹岐(壹州)

對馬(對州) 附 琉球

北海道 十一國

渡島 後志 石狩 天鹽 北見 釧路 日高 十勝 根室 千島

根室 千島

○邦制沿

邦制の沿革を案するに神功皇后の御攝政御代には畿内七道(北海道を除く)に分ち給ひ、文武帝の時之を分ちて六十六國とし給ひ、明治の御代に至り、北海道の十一國を加へ、之に陸奥を五國に分ち出羽を二國に分ち更に壹岐、對馬、琉球を合せて八十五國とし給ふ。

往古は山城、近江の境界なる逢坂に關所を設け、東方、西方各三十三國に分てり、關東、關西の稱蓋し此時に始まりしなり、以後徳川家の時代に

○關東關

に至りて、箱根に關を設けしより、其以東を關東と稱し、以西を關西と稱せり、關東八國とは、相模、武藏、上野、下野、下總、上總、常陸、安房にして又坂東の稱あり、古來中國と稱せしは山陰、山陽の二道にして、九州とは西海道の内壹岐、對馬を除きしを云ひ、四國とは南海道の内紀伊、淡路の二國を除きしを云ふ。

○府縣制

府縣制。全國を別ちて三府、四十三縣、一廳とす左の如し。

東京府 所在地 武藏 東京

日本橋、神田、京橋、芝、赤坂、麻布、四谷、麴町、小石川、牛込、本郷、下谷、淺草、本所、深川の十五區と荏原、東多摩、西多摩、南多摩、北多摩、南豐島、北豐島

南葛飾、南足立の九郡(以上武藏國)と伊豆、七島及び小笠原島とす。

京都府 所在地 山城 京都

山城の上京、下京の二區、愛宕、葛野、乙訓、紀伊、宇治、久世、綴喜、相樂の八郡及び丹波の南桑田、北桑田、船井、天田、何鹿の五郡、及び丹後の加佐

與謝中竹野熊野の五郡とす。

大阪府 所在地攝津大阪

攝津の東西南北の四區東成西成住吉島上島下豊島能勢の七郡及
び河内の石川八上古市安宿錦部志紀丹南丹北河内高安若江大縣
澁川茨田交野讚良の十六郡及び和泉の堺市泉大鳥日根南の四郡
とす。

神奈川縣 所在地武藏橫濱

武藏の橫濱市久良岐橘樹都筑の三郡及び相摸の三浦鎌倉高座大
住洵綾足柄上足柄下愛甲津久井の九郡とす。

兵庫縣 所在地攝津神戸

攝津の神戸市八部武庫菟原川邊有馬の五郡及び播磨の姫路市明
石美囊加東多可加西加古印南飾東飾西楫東楫西神東神西赤穂佐
用穴粟の十六郡及び但馬の城崎美合出石氣多養父朝來七味二方

の八郡及び丹波の氷上多紀の二郡及び淡路の津名三原の二郡と
す。

長崎縣 所在地肥前長崎

肥前の長崎市西彼杵東彼杵北高來南高來北松浦南松浦の六郡及
び壹岐の壹岐石田の二郡及び對馬の上縣下縣の二郡とす。

新潟縣 所在地越後新潟

越後の新潟市北蒲原南蒲原西蒲原東蒲原中蒲原三島古志南魚沼
北魚沼中魚沼刈羽東頸城西頸城中頸城岩船の十五郡及び佐渡の
雜太加茂羽茂の三郡とす。

埼玉縣 所在地武藏浦和

武藏の北足立新座入間高麗比企横見秩父兒玉賀美那珂大里幡羅
榛澤男衾北埼玉南埼玉北葛飾の十七郡及び下總の中葛飾の一郡
とす。

千葉縣 所在地下總千葉

下總の千葉、東葛飾、印旛、下埴生、南相馬、香取、海上、匝瑳の八郡及び上總の夷隅、望陀、周准、天羽、長柄、上埴生、山邊、武射、市原の九郡及び安房の安房、平群、朝夷、長狹の四郡とす。

茨城縣 所在地常陸水戸

常陸の水戸市、東茨城、西茨城、那珂、久慈、鹿島、行方、信太、河内、新治、筑波、眞壁の十二郡及び下總の結城、岡田、豊田、西葛飾、猿島、北相馬の五郡とす。

群馬縣 所在地上野前橋

上野の東群馬、南勢多、西群馬、片岡、綠野、多胡、南甘樂、北甘樂、碓氷、吾妻、北勢田、山田、新田、邑樂、佐位、那波の十七郡とす。

栃木縣 所在地下野宇都宮

下野の上都賀、下都賀、河内、芳賀、鹽谷、那須、安蘇、足利、梁田の九郡とす。

奈良縣 所在地大和奈良

大和の添上、添下、山邊、廣瀬、平群、式上、式下、宇陀、十市、高市、葛上、葛下、忍海、宇智、吉野の十五郡とす。

三重縣 所在地伊勢津

伊勢の津市、桑名、員部、三重、朝明、鈴鹿、奄藝、河曲、安濃、一志、飯高、飯野、多氣、度會の十三郡及び伊賀の阿拜、山田、名張、伊賀の四郡及び志摩の答志、英虞の二郡及び紀伊の北牟婁、南牟婁の二郡とす。

愛知縣 所在地尾張名古屋

尾張の名古屋、市、愛知、東春日井、西春日井、丹羽、葉栗、中島、海東、海西、知多の九郡及び三河の碧海、幡豆、額田、西加茂、東加茂、南設樂、北設樂、寶飯、渥美、八名の十郡とす。

静岡縣 所在地駿河静岡

駿河の静岡市、駿東、富士、庵原、有渡、安倍、志太、益津の七郡及び遠江の

の榛原、佐野、城東、周智、豊田、山名、磐田、長上、敷知、濱名、引佐、龜玉の十二郡、及び伊豆の賀茂、那賀、君澤、田方の四郡とす。

山梨縣 所在地 甲斐甲府

甲斐の甲府市、東山梨、西山梨、東八代、西八代、南巨摩、北巨摩、南都留、北都留の八郡とす。

滋賀縣 所在地 近江大津

近江の滋賀、栗太、野洲、甲賀、蒲生、神崎、愛知、犬上、坂田、伊香、高島、東淺井、西淺井の十三郡とす。

岐阜縣 所在地 美濃岐阜

美濃の岐阜市、厚見、各務、方縣、羽栗、中島、海西、下石津、多藝、上石津、安八、不破、大野、池田、本巢、席田、山縣、武儀、群上、加茂、可兒、土岐、惠那の二十二郡、及び飛驒の大野、益田、吉城の三郡とす。

長野縣 所在地 信濃長野

信濃の南佐久、北佐久、上伊那、下伊那、諏訪、小縣、東筑摩、西筑摩、南安曇、北安曇、更級、植科、上高井、下高井、上水内、下水内の十六郡とす。

宮城縣 所在地 陸前仙臺

陸前の仙臺市、宮城、名取、柴田、黒川、加美、志田、玉造、遠田、栗原、登米、桃生、牡鹿、本吉の十三郡、及び磐城の刈田、伊具、亘理の三郡とす。

福島縣 所在地 岩代福島

磐城の東白川、西白川、石川、田村、菊多、磐前、磐城、楢葉、標葉、行方、宇多の十一郡、及び岩代の信夫、伊達、安達、安積、岩瀬、南會津、北會津、耶麻、河沼、大沼の十郡とす。

岩手縣 所在地 陸中盛岡

陸中の盛岡市、南岩手、北岩手、紫波、稗貫、東和賀、西和賀、膽澤、江刺、西磐井、東磐井、西閉伊、南閉伊、東閉伊、北閉伊、中閉伊、九戸、北九戸の十七郡、及び陸前の氣仙一郡、及び陸奥の二戸一郡とす。

青森縣 所在地陸奥青森
陸奥の弘前市、東津輕、西津輕、中津輕、南津輕、北津輕、上北、下北、三戸の八郡とす。

山縣縣 所在地羽前山形

羽前の山形、米澤の二市、南村山、東村山、西村山、北村山、最上、東田川、西田川、東置賜、西置賜、南置賜の十郡、及び羽後の飽海一郡とす。

秋田縣 所在地羽後秋田

羽後の秋田市、南秋田、北秋田、山本、河邊、由利、仙北、平鹿、雄勝の八郡、及び陸中の鹿角一郡とす。

福井縣 所在地越前福井

越前の福井市、足羽、吉田、大野、坂井、南條、今立、丹生、敦賀の八郡、及び若狭の三方、遠敷、大飯の三郡とす。

石川縣 所在地加賀金澤

加賀の金澤市、江沼、能美、石川、河北の四郡、及び能登の羽咋、鹿島、鳳至、珠洲の四郡とす。

富山縣 所在地越中富山

越中の富山、高岡の二市、上新川、婦負、下新川、射水、礪波の五郡とす。

鳥取縣 所在地因幡鳥取

因幡の鳥取市、邑美、法美、岩井、八上、八東、智頭、高草、氣多の八郡、及び伯耆の河村、久米、八橋、汗入、會見、日野の六郡とす。

島根縣 所在地出雲松江

出雲の松江市、島根、秋鹿、意宇、能義、仁多、大原、飯石、出雲、楢縫、神門の十郡、及び石見の安濃、邇摩、邑智、那賀、美濃、鹿足の六郡、及び隱岐の知夫、海士、周吉、穩地の四郡とす。

岡山縣 所在地備前岡山

備前の岡山市、御野、津高、赤坂、磐梨、和氣、邑久、上道、兒島の八郡、及び備

中の都宇、窪屋、浅口、小田、後月、下道、賀陽、上房、川上、菅多、阿賀の十一郡、及び美作の眞島、大庭、東南條、東北條、西々條、西北條、勝北、勝南、久米、南條、久米北條、吉野、英田の十二郡とす

廣島縣 所在地 安藝廣島

安藝の廣島市、安藝佐伯、沼田、高宮、高田、山縣、加茂、豊田の八郡、及び備後の御調、世羅、深津、沼隈、安那、葦田、品治、神石、甲奴、三次、三溪、奴可、三上、惠蘇の十四郡とす。

山口縣 所在地 周防山口

周防の赤間關市、大島、玖珂、熊毛、都濃、佐波、吉敷の六郡、及び長門の厚狭、豊浦、美禰、大津、阿武、見島の六郡とす。

和歌山縣 所在地 紀伊和歌山

紀伊の和歌山市、名草、海部、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁の八郡とす。

徳島縣 所在地 阿波徳島

阿波の徳島市、名東、名西、勝浦、那賀、海部、板野、阿波、麻殖、美馬、三好の十郡とす。

香川縣 所在地 讃岐高松

讃岐の大内、寒川、三木、小豆、山田、香川、阿野、鞆足、那珂、多度、三野、豊田の十二郡とす。

愛媛縣 所在地 伊豫松山

伊豫の松山市、温泉、久米、風早、和氣、越智、野間、新居、周布、桑村、宇摩、上浮穴、下浮穴、伊豫、喜多、西宇和、東宇和、北宇和、南宇和の十八郡とす。

高知縣 所在地 土佐高知

土佐の高知市、安藝、香美、長岡、土佐、吾川、高岡、幡多の七郡とす。

福岡縣 所在地 筑前福岡

筑前の福岡市、糟屋、宗像、遠賀、鞍手、嘉麻、上座、下座、夜須、那珂、御笠、席田

怡土、志摩、早良、穩波の十五郡、及び筑後の久留米市、生葉、竹野、御井、御原、山本、三瀨、上妻、下妻、山門、三池の十郡、及び豊前の企救、田川、京都、仲津、築城、上毛の六郡とす。

大分縣 所在地豊後大分

豊前の下毛、宇佐の二郡及び豊後の東國東、西國東、速見、大分、北海部、南海部、大野、直入、玖珠、日田の十郡とす。

佐賀縣 所在地肥前佐賀

肥前の佐賀市、佐賀、神崎、養父、基肄、三根、小城、東松浦、西松浦、杵島、藤津の十郡とす。

熊本縣 所在地肥後熊本

肥後の熊本市、飽田、託麻、宇土、玉名、山鹿、山本、菊池、合志、阿蘇、上益城、下益城、八代、葦北、球摩、天草の十五郡とす。

宮崎縣 所在地日向宮崎

日向の宮崎、北郡珂、南郡珂、北諸縣、西諸縣、東諸縣、兒湯、東臼杵、西臼杵の九郡とす。

鹿児島縣 所在地薩摩鹿児島

薩摩の鹿児島市、鹿児島、谿山、給黎、揖宿、穎娃、川邊、日置、高城、薩摩、南伊佐、甑島、出水、北伊佐、珂多の十四郡、及び日向の南諸縣一郡、及び大隅の菱刈、始良、桑原、西贈嶽、南大隅、北大隅、肝屬、熊毛、東贈嶽、取謨の十郡とす。

沖縄縣 所在地琉球那覇

琉球の那覇、首里、嶋尻、中頭、國頭、久米島、宮古島、八重島とす。

北海道廳 所在地石狩札幌

渡島の茅部、龜田、上磯、福島、津輕、檜山、示志の七郡、後志の久遠、太樺、瀬棚、島牧、壽都、歌樂、磯谷、岩内、古宇、積丹、美園、古平、余市、忍路、高島、小樽、奥尻の十六郡、膽振の山越、虻田、有珠、室蘭、幌別、白老、勇拂、千歳の八郡、石

○山岳

狩の札幌、石狩、厚田、濱益、樺戸、張、空知、上川、兩竜の九郡、天鹽の増毛、留萌、苫前、天鹽、中川、上川の六郡、日高の沙流、新冠、静内、三石、浦河、襟似、幌泉の七郡、十勝の廣尾、當縁、十勝、中川、河西、河東、川上の七郡、釧路の白糠、釧路、厚岸、阿寒、上川、網尻、足寄の七郡、根室の花咲、根室、野付、標津、目梨の五郡、北見の宗谷、枝幸、紋別、常呂、網走、斜里、利尻、禮文の八郡、千島の國後、擇捉、振別、紗那、蕤取の五郡とす。

止む。

○山脈

奥州山脈は本州の東北端より起りて下野國に入り北陸山脈と合す。北陸山脈は藏王岳の西北に當る月山より起りて、乗鞍岳を合せて三國峠を経て青葉山に至る。中國山脈は北陸山脈を承けて西に走り、本州の西南端に盡く、其他九州、北海道の山脈其外種々あれども皆支脈たり。

○火山

火山 我か國火山の數は凡そ百七十二にして、内活火山三十七、消火山百三十五なり、之を世界の全數六百七十餘に比すれば實に四分の一を占めたり、然らば火山を以て我邦特有の一とするも亦過言にあらざるなり。

- 本土及伊豆七島に活火山二十、消火山七十七あり。
- 北海道及千島に活火山八、消火山三十八あり。
- 九州及薩摩七島に活火山九、消火山十七あり。
- 四國に消火山三あり。
- 而して、活火山の著名なるものを舉ぐれば
- 駒ヶ岳(渡島) 惠山(同上) 恐山(陸中) 那須岳(下野)
- 淺間山(信濃) 三原山(伊豆大島) 甌峯(八丈島) 阿蘇山(肥後)
- 鶴見山(豊後) 櫻島ヶ嶽(大隅) 硫黄島(薩摩)

○河川

河川。我が國の諸川は中央に連亘せる山脈の兩側より源を發し、重なるに左右即ち東西に流れて海に注ぐもの多し、故に長流と稱すべきもの甚だ少し。

河水多く平野に注ぐを以て旱燥の患少しと雖も、春季山上の雪融解するの際漲りて洪水となり、害を興ふる甚からず。

○海岸

海岸。我が國海岸は彎曲甚しきを以て、海岸線甚だ長く、四大島及び他の諸島を合せ、凡て四千七百里ありといふ、而して西南岸は西北岸に、比して殆んど二倍の長さを超えたり。

斯く海岸線の長さを以て、従て良港多く舟楫の便を極め、國の文明を以て、其歩を進ましむること多しと雖も、概するに斷崖絶壁舟を近づく可らざるか、或は沿海非常に淺くして船をして進入せしむる能はざるの二大欠點あり、故に巨艦をして碇泊せしむる良港至て尠しとす。

○原野

原野。我が國山脈の中央を連亘せるを以て、底地の廣さもの殆んど無きが如し。

唯關八州の平野東西三十四里南北四十里といふ、石狩の平野、尾張の平野、陸前の低地等は、我が邦に於て最も廣き部分に屬す。

其外川の近傍は皆低地にして、就中淀川、信濃川、筑後川の下流の低地及肥後の西北部等とす。

○沼湖

沼湖。山脈の間にあるものと海岸にあるものとあり、山脈の間にあるものは總て風光明媚にして、其水清く自ら一仙境をなす者多し。

其周回三里以上のものは四十餘ありて、中に就き十里以上のものは僅かに十二三に過ぎざるなり、今其著名あるものを擧ぐれば左の如し。

琵琶湖(近江)……………周回七十三里(南北十六里東西五里半乃至一里)

霞浦(常陸)……………周回三十六里(南北八里東西三里乃至半里)

- 猿沼沼(北見)……………周回十八里
- 猪苗代湖(岩代)……………周回十六里
- 中海湖(出雲)……………周回十六里
- 八郎潟(羽後)……………周回十五里
- 榎蓮湖(根室)……………周回十五里
- 小河原沼(陸奥)……………周回十三里
- 穴道湖(出雲)……………周回十三里
- 印幡沼(下總)……………十二里
- 十和田湖(陸奥)……………十里
- 洞爺湖(膽振)……………十里

○海洋

海洋。我が國東南一帯の大洋を太平洋といひ、九州の西南を東海といひ、本州の西北を日本海といひ、北海道に接する最北の海を「チヨック」海といふ。

而して山陽道と四國との間を内海といひ、肥前の東海岸より筑後の海岸の間を筑紫海といひ、尾張伊勢の海岸を以て包みたるを伊勢の海と云ふ。

又海水の動搖殊に烈しく常に船の進行をして困難ならしむる所あり、之を灘と稱す即ち日向灘(日向の東方一體)玄海灘(筑前の北方)響灘(長門の北西一體)遠州灘(遠江の南方一體)播磨灘(播磨淡路讃岐の間)水島灘(備中備後讃岐伊豫の間)周防灘(周防の南方)等あり。

○潮流

潮流。我が國潮流の最も大なるものは、黒潮にして琉球の南方に沿ふて西南より斜めに東北に流れ、九州の南端に於て二派となり、一派は日本海に入り、一派は四國の南に來り、東海道(南邊)に於て、更らに二派に分れ、一は太平洋に赴き、一は北向して北海道の南に流るゝなり。此潮流晴雨によりて其色を變化せり、即ち晴天の時は濃藍色となり曇天の時には灰色となるといふ。

○地震

地震。我が國火山の多きことは、世界に比なく従て地震多きこと夥しく、實に我が國を地震國と稱するも、誣言にあらざるなり。西南地方は地震少なく従て其震動激烈ならざれども、本州の部は地震多く且つ其震動亦激烈なりとす、就中富士山の近傍及び其北東は殊に甚しとす、而して、近年測量せしものに依れば一年の震動四百八十回なりといふ。

○氣候

氣候。琉球の南端は炎熱甚しく、冬間嚴寒を感せざるも、千島の北端に至りては全く之と相反す、我が國は斯く寒暖に差異ありと雖も、之を概言せば實に寒暖中和なり、今各地夏冬の寒暖の度を左に示し以て参考とすべし。

地名	冬	夏	一年平均
那覇	十六度一	二十七度七	二十二度四
長崎	五度六	二十七度三	十六度

○人口

人口。我が國の人口は年々増加し現時四千萬と稱す、明治廿二年末の統計によれば、凡そ四千六萬人とす、而して一方里の人口平均一千六百十六人に當れり、更らに各道に就きて之を示さんに

畿内	五千百人	東海道	三千百人
東山道	一千百人	北陸道	二千四百人
山陰道	一千六百人	山陽道	二千四百人

南海道 二千二百人

西海道 二千人

北海道 二十九人

○人口男
女別

又男女の数を比較するに男は女より多きこと三十九萬三千餘人なり。

○人口品
類別

又華族、士族、平民の三に區分するときは華族四千人、士族二百萬人、平民三千六百萬なり。

○戸數

戸數 七百七十七萬一千餘戸あり、即ち一戸内の人口平均六人弱に當る。

○人種

人種 我か邦の人種は黄色人種即ち亞細亞人種にして歐米の人に比すれば、其體軀矮小なり、頭髮黒く、性敏捷なり、且勇壯活潑にして古來より人倫の道を守り、殊に愛國の思想に富めり、品類を四種とす、即ち皇族、華族、士族、平民、是れなり、而して皇族を除くの外は品位元より同じからずと雖も、權利義務皆平等なり。

○地味

地味 一般に豊沃にして火山地方を除くの外は概ね植物繁茂し陸産極めて富めり、就中本洲及び四國九州は最も早く開けたる地方なるにより、農業盛んに行はれ、到る處田圃あらざるはなく、其穀物、菜蔬、菓物等の收穫の夥しきこと、實に驚くべし、而して我か邦目下の田圃山林は左の如し。

田 二百六十四萬九百八十五町歩

圃 百八十八萬五千九百九町歩

山林原野 八百七十七萬五千三百二十九町歩

○産物

産物 今農産、畜産、林産、水産、鑛産、工産の六種に分ちて説くべし、農業は古來より勸業の法ありしを以て、其進歩最も著しく、今日農夫の數は一千二百八十六萬餘人、即ち全國人民の三分之一を占め、田畑は租金三千七百七十萬餘圓に達し、實に政府歳入の二分之一を補ふに足れり、其重なるものは、米、麥、大豆、甘藷、綿、麻、烟草、藍草、生絲、茶、砂糖等なり、而し

○農産

○畜産

て毎年の收穫高米は三千八百六十萬餘石、茶は六百五十萬貫、生絲は八十八萬貫餘に達せり。

畜産は農業に次ぐの産物にして、牛、馬、豚の類に過ぎず、牛は内國種、外國種雜種の三種ありて、九州中國を以て其牧畜の盛んなる地とす、馬は又牛と等しく三種あり、東山、西海の二道地方を以て盛んなるものとす、豚は西南地方に盛んなり。

家禽の事未だ盛んならずと雖も各地往々飼養流行し、漸次盛大を來さんとす。

○林産

林産は松、杉、檜、椴、栗、梅、樺、樅、檜、山毛櫸、樺、椴等の類最も多く其數凡そ三百八十五億五千六百餘萬本あり。

○水産

水産の業亦盛んにして、沿海の民大抵漁を業とす、又河沼の漁量尠なからず、即ち其重なるもの海には鰯、魚、油、鯡、鯉、鯛、鮑、鱈、鱈、章魚、鰻等あり、川には鮭、鱒、鮎、鯉、鮒、鰻等あり、目下漁業に従事するもの八十六萬

○礦産

餘人漁船二十七萬餘艘といふ、

食鹽の業又盛んにして我が邦にては専ら海水より製出す、播磨、周防、讃岐、阿波、備前、伊豫、能登、備後、三河等は其重なる製出地にして、竈數一萬八千餘、製出年々五百四萬餘石に達すといふ。

礦産の重要なるものは、石炭、銅、鐵、金、銀、鉛、石油、硫黃、陶土、岩石等なり、其産出高の多き國は左の如し。

- 金、佐渡、羽後、但馬、加賀、越後、陸前、薩摩、陸中、岩代、
- 銀、陸中、羽後、佐渡、岩代、但馬、飛騨、
- 銅、下野、伊豫、羽後、越後、加賀、備中、
- 鐵、安藝、出雲、石見、備後、伯耆、
- 鉛、羽後、飛騨、備中、
- 錫、美濃、薩摩、豐後、
- 綠礬、備前、備中、豐後、

アンチモニー、土佐、羽前、下野、

石炭、肥前、筑前、筑後、豊前、肥後、長門、石狩、

石油、越後、羽後、石狩、

硫黄、羽後、陸奥、豊後、薩摩、釧路、北見、

陶土、尾張、肥前、三河、美濃、信濃、肥後、

我國輸出品中鑛物は米、茶、生絲の次に位し其額年々五百萬圓に及ぶといふ。

○工産

工業は重もに一個人の營業に過ぎずといへども、又會社ありて其數一千三百六十餘に達す、即ち製糸會社、織物會社、摺附木製造會社、陶磁器製造會社、製鋼鐵會社等なり。

今其重要なるものを舉ぐれば生絲、綿絲、織物、陶器、磁器、紙類、油類、製革、酒醬油、漆器、砂糖等あり。

○道路

道路 我か國の道路は、國道、縣道、里道の三と定められたり。

○國道

國道は幅五間以上七間以内にして、其延長二千五十一里あり、乃ち東京より、各府縣、及び道廳、各開港場、伊勢の大廟に至る道、且つ各鎮守府

○縣道

各鎮臺に達するの道、及び以上を聯結するの道なり。縣道とは幅四間乃至五間にして、其延長六千七百五十七里あり、乃ち各府縣を接續するもの各鎮臺より各分營に達するもの、各府縣廳より其支廳に達するもの、著名の區より都會に達するもの等をいふ。

○里道

里道とは其地の便宜に従ひて別に幅制を設けず、乃ち彼此の區を貫き、或は神社佛閣、或は田圃耕耘の爲め、或は其他の爲めに人民の協議を以て開設せる者をいふ。

○私道

右の外一個人の私用に供するか爲め、自費を以て設けたるものを私道と稱す。

交通 我か國は實に一小島國に過ぎずと雖も、天然の産物に富むを以て、水陸の運輸極めて便なり、殊に維新後は郵便、電信、鐵道等の設けあ

○陸運

○東京より各府縣への里程

るにより、益其迅速じゆんそくを極むるに至れり。陸運には現時使用するもの車輛しやりやう、人夫じんぷ、馬うま、牛うし、駕籠かご、橋はし等あり、其重なる街道は東海道路（昔五十三驛と稱す）、中仙道路、奥州街道、甲州街道等ありて其他數多の街道あり。今東京日本橋より各府縣應の元標げんひょうに至る里程りていを擧げて參考に供すべし。

京都	百三十一里	兵庫	百五十里
大阪	百四十四里	長崎	三百四十四里
神奈川	八里	新潟	百九里 <small>（最近九十里）</small>
埼玉	六里	宮城	九十二里
千葉	十里	福島	七十一里
茨城	二十九里	岩手	百四十里
群馬	二十八里	青森	二百四里 <small>（最近百九十二里）</small>

栃木	二十七里	山形	九十五里
奈良	百四十里	秋田	百五十一里
三重	二百十三里	福井	百三十七里
愛知	九十五里	石川	百五十九里 <small>（名古屋福井を経て）</small>
静岡	四十六里	富山	百七十六里 <small>（名古屋金澤を経て）</small>
山梨	三十四里	鳥取	百九十四里
滋賀	百二十八里	島根	二百二十一里
岐阜	百四里	岡山	百八十六里
長野	五十九里	廣島	二百三十一里
山口	二百六十六里	佐賀	三百十四里
和歌山	百六十一里	大分	三百七十七里
徳島	百七十八里	熊本	三十二十五里
香川	二百七里	宮崎	三百六十八里

○水運

愛媛 二百三十七里 鹿兒島 三百八十一里
 高知 二百三十四里 沖繩 五百七十四里
 福岡 三百三里 北海道 二百七十六里

水運又大に開け、大にしては海外に航するより、小にしては河川を上
 下するの船舶甚からず、其汽船の總數一千二百四十餘艘にして、和船
 五十四萬餘艘ありといふ。
 今内國諸港の距離を左に擧げん。

○横濱より諸港の距離

- 横濱港より
- 清水港(駿河) 五十海里 四日市港(伊勢) 百九十海里
- 神戸港(舞津) 三百四十三海里 赤間ヶ關港(長門) 五百六十六海里
- 長崎港(肥前) 七百七海里 那覇港(琉球) 千三十五海里
- 鹿兒島港(薩摩) 五百六十五海里 萩濱港(陸前) 二百七十里
- 青森港(陸奥) 四百六十二海里 函館港(渡島) 五百十八海里

○長崎港より内地諸港の距離

○新潟より同上

○函館より同上

- 小樽港(後志) 八百十海里 根室港(根室) 八百海里
- 伏木港(越中) 八百三十九海里 新潟港(越後) 七百三十八海里
- 神戸港より尾道港(備後)へ百八里
- 長崎港より
- 博多港(筑前) 九十六海里 島原港(肥前) 五十五海里
- 嚴原港(對馬) 百十海里 鹿兒島港(薩摩) 百五十二海里
- 新潟港より
- 馬關港(長門) 四百九十三海里 敦賀港(越前) 二百三十海里
- 伏木港(越中) 百二十二海里 酒田港(羽後) 六十八海里
- 直江津(越後) 六十三海里
- 函館港より
- 青森港(陸奥) 五十九海里 酒田港(羽後) 百十九海里
- 根室港(根室) 二百九十五海里

又外國有名の諸港への航路は左の如し。

長崎港より

上海	四百三十海里	芝罘	四百九十二海里
天津	六百六十三海里	釜山浦	百六十二海里
仁川	四百五十六海里	元山津	四百六十海里
浦潮斯德	六百五十五海里		

○長崎港より外國諸港への距離

○横濱より同上

横濱港より			
香港	一千三百五十六海里	柴棍	二千二百四十九海里
新嘉坡	二千九百六十三海里	錫蘭	四千三百七十三海里
亞丁	六千五百七海里	「スヘス」	七千八百十五海里
伊國「ナール」	九千三十二海里	佛國「マルセル」	九千五百廿八海里
布哇	三千二百四十三海里	桑港	三千九百十二海里
「パナマ」を経て「ニューヨーク」			八千九百二十四海里

○鐵道

濠州「メルホルン」 四千百二十九海里

又航海上の便利を計り、陸地の方向を知らしめ或は船舶の危険を避けしむる爲めに、燈標、浮標、立標、等を設置せり。

我が國鐵道の創業は、今を距ること二十二年、實に明治五年にして、即ち東京、横濱間の布設を以て、第一着とす。爾來年と共に増加し、目下左の線路ありと雖も、尙ほ陸續と敷設に着手せり。

新橋神戸間(凡三百七十六哩)	大船横須賀間(凡十哩)
大府武豊間(凡十三哩)	上野前橋間(凡六十八哩)
新宿八王子間(凡三十哩)	上野青森間(凡四百五十五哩)
長野直江津間(凡六十哩)	四日市草津間(凡五十哩)
神戸笠岡間(凡百十七哩)	輕井澤長野間(凡六十哩)
米原金崎間(凡三十五哩)	新橋赤羽間(凡十七哩)
小山前橋間(凡六十六哩)	小山水戸間(凡五十二哩)

日光宇都宮間(凡二十五哩)

高崎横川間(凡二十五哩)

難波堺間(凡六哩)

神戸有年間(凡五十三哩)

松山三津間(凡四哩)

九龍琴平間(凡十哩)

湊町柏原間(凡十哩)

博多久留米間(凡二十三哩)

手宮幌内間(凡五十七哩)

幌内大幾春別間(凡五哩)

(備考) 一哩は我か十四町七五一九に當り一海里は同じく十六町五十八間三尺一六に當る。

郵便物は各郵便局に於て取扱ふものにして、其種類四あり、乃ち第一種信書、第二種郵便端書、第三種定時印刷物、第四種書籍帳簿、各種の印刷物、寫眞、書畫、野紙、營業品の見本、及離形農産種子等とす、而して此外郵便爲替及貯金の二業をも取扱ひ、現時又小包郵便なるものをも取扱ふに至る、其局又一等、二等、三等に分れ、明治二十年の調査によれば、郵便局三千九百二十一、郵便受取所二萬四千九百八十四、郵函二萬

○郵便

○電信電話

八千九百四にして、人口一人に付郵便物三個餘に當れり。電信局又一等、二等、三等の三に分ち、郵便局と並置す、其延長電線七千一百六十二里餘に達せり、又電話の架設日に月に進歩し、爾來益々其隆盛を見んとす。

○宗教

○神教

宗教 神教、儒教、佛教、基督教の四種あり。

神教は其起源遠く神代に出で、所謂我國固有の宗教にして、全國の神社十九萬三千餘、神官一萬四千五百餘人に達し、神道、黒住教、神宮教、修成教、大社教、大成教、扶桑教、神習教、實行教、御嶽教等の十教派あり。儒教は所謂漢學の渡來より時勢に従ひて、其盛衰ありしが、現時大に退歩の姿となれり、乃ち孔子の學說なり。

○儒教

○佛教

佛教は上古渡來せしより、又盛衰一ならざりしが、現時分れて天台、眞宗、淨土、臨濟、曹洞、黃檗、眞日蓮、時融、通念、佛法、相華、嚴の十二宗となる、其寺院の數七萬千九百七十餘、住職五萬千三百七十餘人あり。

○基督教

基督教は現時に至りて大に其隆盛を極め、會堂四百餘、傳導師凡そ六百、信徒六萬五千の多きに至れり。

○教育

教育。現時各學校設置の制は左の如し。

幼稚園(公立)小學校(公立)尋常中學(官公立)高等中學(官公立)帝國大學(官立)高等師範(官立)尋常師範(公立)專門學校(官公立)高等女學校(官公立)各種學校(官公立)等にして校數總計二萬七千五百、教員六萬三千二百餘人、生徒二百八十三萬三千餘人なり。
其他書籍館を設置し、書籍、新聞、雜誌の發刊夥しく、文物の旺盛實に空前絶後なりとす。

○政體

政體。我が大日本帝國は立憲君主政體にして、上に萬世一系の天皇ありて國政を統轄し下に又古來より同族同種敢て異種を混せる人民ありて至尊を奉戴す。
抑我が皇統は遠く天祖天照大神に出で、列聖相承け神武帝に至り

○軍制

て始めて皇基を建て給ひ爾來皇統連綿として二千五百五十三年の今日に及ぶ、是れ實に世界萬國に其比を見ざる所なり。

軍制。兵馬の權は至尊の統轄し給ふ處にして海陸の二制とす、殊に我國は四面茫々たる洋海なれば海軍の擴張實に其急務とする所なり。

○陸軍

陸軍各師團配置の地左の如し。

第一師團 東京鎮臺

第一旅團 東京營所 高崎分營

第二旅團 佐倉營所

第二師團 仙臺鎮臺

第三旅團 仙臺營所 新發田分營

第四旅團 青森營所

第三師團 名古屋鎮臺

第一編練團○第二章日本の概略

第五旅團 名古屋營所 豊島分營

第六旅團 金澤營所

第四師團 大阪鎮臺

第七旅團 大阪營所 大津分營

第八旅團 姫路營所

第五師團 廣島鎮臺

第九旅團 廣島營所

第十旅團 松山營所 丸龜分營

第六師團 熊本鎮臺

第十一旅團 熊本營所

第十三旅團 小倉營所 福岡分營

○海軍

海軍區の配置左の如し。

第一海軍區 横須賀鎮守府

第二海軍區 吳鎮守府

第三海軍區 佐世保鎮守府 第四第五の二海軍區未定

○外交

外交。現時我が國の同盟條約國は亞米利加合衆國、魯西亞、和蘭、大不列顛、獨逸、佛蘭西、瑞西、葡萄牙、伊太利、丁抹、白耳義、瑞典、諾威、埃太利、西班牙、布哇、白露、暹羅、清國、朝鮮、墨西哥の二十國たり。

○第二編 各道誌。

○第一章 畿内誌。

○位置

位置及名稱の由來。畿内は我が帝國の中央部に位し、歴代帝王の皇城の在りし處にして五國より成る、故に又五畿内とも云ふ。

○境界

境界。東は東山道及東海道に界し、南は南海道の紀伊に接し、西は山陽道に界して内海に臨み、北は山陰道に接す。

○地勢

地勢。東北南の三方は、山岳相重り殊に紀伊の境は最も高峻を極め、内都大和、河内は山脈連亘せり、然れども山城の中部淀川沿岸の地、大和

○地味

の北方及西部内海に瀕したる沿岸地方は概ね低平なりとす。地味。概ね肥沃にして穀果に宜しく、殊に山城の如きは茶に適す、而して和泉のみ砂土にして綿花、甘蔗の培養に適す。

○山岳

山岳。畿内は山脈少なからず従つて名山亦多し其主なる者は山城に比叡山あり、近江に跨る愛宕山は丹波の境に峙てり、比叡山は寺を以て著はれ、愛宕山は神社を以て名あり、而して其高さ共に三千尺に満たず。

金剛山は河内の東南に聳え、直立四千三百尺、楠氏父子の城きて王事に勤めし千劍破は今尚ほ故趾を存せり。

吉野山は大和の中央に在り、山甚だ高からずと雖も櫻花を以て名あり、花時の風景一々名状すべからず、遠く之を望めば模糊として全山白雲の翳くが如し、南朝五十餘年間の行在所たり、

大峯一名山其南に屹立し大和群峯中の高山なり、直立六千二百尺餘、又伊勢の

○河

境に大臺原山あり、此外攝津に武庫、摩耶の諸山あり。

河湖。宇治川は近江の琵琶湖より發し山城に入り更に丹波より來る桂川と會し淀川となり、河内攝津の間を過ぎ更に攝津に入り分れて大坂灣に注ぐ。

吉野川は大和の東境に發源し、中央を西流し、紀伊に入り紀川となる。大和川は大和の北部諸川の會流せるものを云ふ、西流して和泉攝津の界に入る。十津川は大和南部に發し、諸川を合せ南下して紀伊に入り、熊野川となる。

○湖

巨椋池は山城に在り、周圍四里餘、宇治川の氾濫を防ぐ爲め、豊臣秀吉の穿ちし處、狭山池は河内に在り、崇神帝の開鑿に係る、灌漑の便を得ること多しと云ふ。

○瀑布

瀑布及温泉。布引瀑は武庫山麓に在り、遠く之を望む、殆んど白練を曝

すが如し、故に此名あり、此外大盃原山中にも在りと雖も略す。有馬の温泉は、武庫山の北に在り、古來有名にして、遠近の浴客常に絶えずと云ふ。

○海岸

海岸。畿内は海岸短かく従つて、屈曲亦少なきを以て、良港に乏し、只攝津の神戸、兵庫、大坂及和泉の堺港のみ船を泊するに足る。

○海

内海を茅渟海と稱し、又大坂灣とも稱す。神戸は五港の一にして、大坂を距る凡そ十里許、灣内水深くして、碇泊

○港

の間に、鐵路を敷き、行旅運輸の便を得、商業大に盛んなり、人口凡そ三萬、外人の居留地あり。

此港より、湊川を隔て、兵庫港あり、亦良港とす、兵庫縣廳所在の地に、して人口凡そ四萬餘人あり。

堺港は、往時外船往來して、互市を開きし地なり、然れども、港内水淺く

○岬

して、大艦巨舶を撃ぐに足らず、四萬餘の人口ありて、製造の業盛んなり、近時大阪と鐵路相通じ、甚だ便利なり。

和田岬は、兵庫港口を扼して、遙に和泉の觀音崎に對す、往時平清盛港内の船舶をして、風波を避けしめんが爲めに、築きし處なりと傳ふ、岬

頭に燈臺を設く。

○漁業

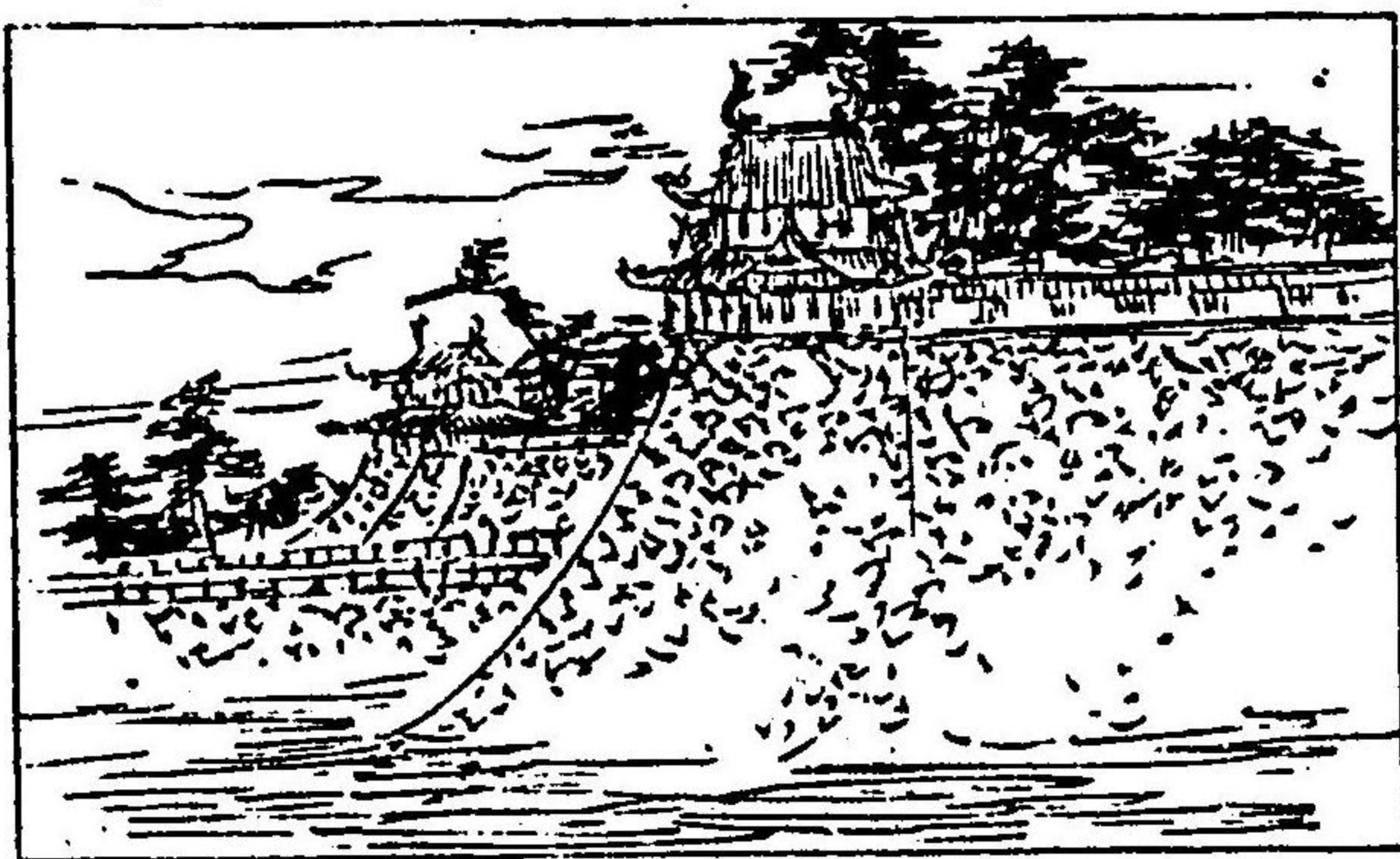
漁業。和泉の海岸は、漁網の利あり、櫻鯛最も有名なり。

○都市

都市。京都は山城の中央に在り、三府の一にして、鴨川に沿ひ、西を洛中と云ひ、東を洛外と云ふ、現今は上京、下京の二區に分つ、桓武帝都を茲に奠め給ひしより以來、一千餘年間の帝京たり、街衢端正にして、九條の大路を通じ、家屋の結構壯麗なりしが、數回の兵



第二編各道誌○第一章畿内誌



斐に罹り大に其規模を變せり、舊皇居は一條通り鴨川に近き處に在り、二條城は維新以後離宮となり、尙は舊觀を存す、其他名勝故跡の存する者甚だ多く、東山には圓山、清水等あり、西山には嵐山、嵯峨、御室、及金閣寺あり、而して銀閣寺は月待山の麓にあり、今尙は遺跡を存する者少なからず、市街般賑にして染織の業甚だ盛んなり、人口凡そ二十六萬五千、美術上の建築物の現存する者多きを以て、内外人の來り遊ぶもの甚だ多し。大阪は攝津に在り、是れ亦三府の一にして淀川の分流市内を貫流し、溝渠疏通して舟楫の便あり、此地山陰、山陽の要路に當り、水陸の便他に冠絶するを以て、百貨輻輳して貿易繁盛、商估皆殷富なり、人口凡そ四十三萬餘、大阪城

は現今僅かに牙城のみを存して以て、鎮臺の本營たり、造幣局は川崎に在り、結構極めて宏壯なりとす、近時鐵路の便四通せるを以て、商業益々盛大に赴けり。

奈良は大和の北部に在り、元明帝以來、七代八十餘年間の帝都たりしを以て、遺跡亦少なからず、人口凡そ二萬三千餘、大佛あり、聖武帝の建立に係り甚だ有名なり、此地奈良縣廳の所在地たり。伏見は京都を距る僅かに二里、豐臣氏の築きし城壁唯其遺跡を存す、昔時は繁華の都會なりしが、今は衰微して人口も僅かに二萬に過ぎざるなり。

○勝地

勝地。吉野山は吉野川の沿岸に在り、前に出づ、月瀬は伊賀の國境名張川の upstream に在り、梅花の勝地と稱せらる。須磨浦は攝津の國に在り、前は淡路島に對して海濱一帶、青松白波と相映じ、風光絶佳、最も親月に宜しとす、住吉も亦眺望に富めり。

嵐山は櫻花の勝地にして、箕面山(攝津)及び高雄山は何れも紅葉を以て著はる。

○氣候

氣候。概ね温和なれども、北部は稍寒冽を覺ゆ、但し海に濱する地は暖燠なりとす。

○風俗及人情

風俗及人情。概ね都雅にして淳樸なり、然れども都會には京阪風なるもの流行して華奢の風をなす、一般に心匠精密にして美術の思想に長ず、其大阪の人は商機に敏にして世事に通ずるもの多し。

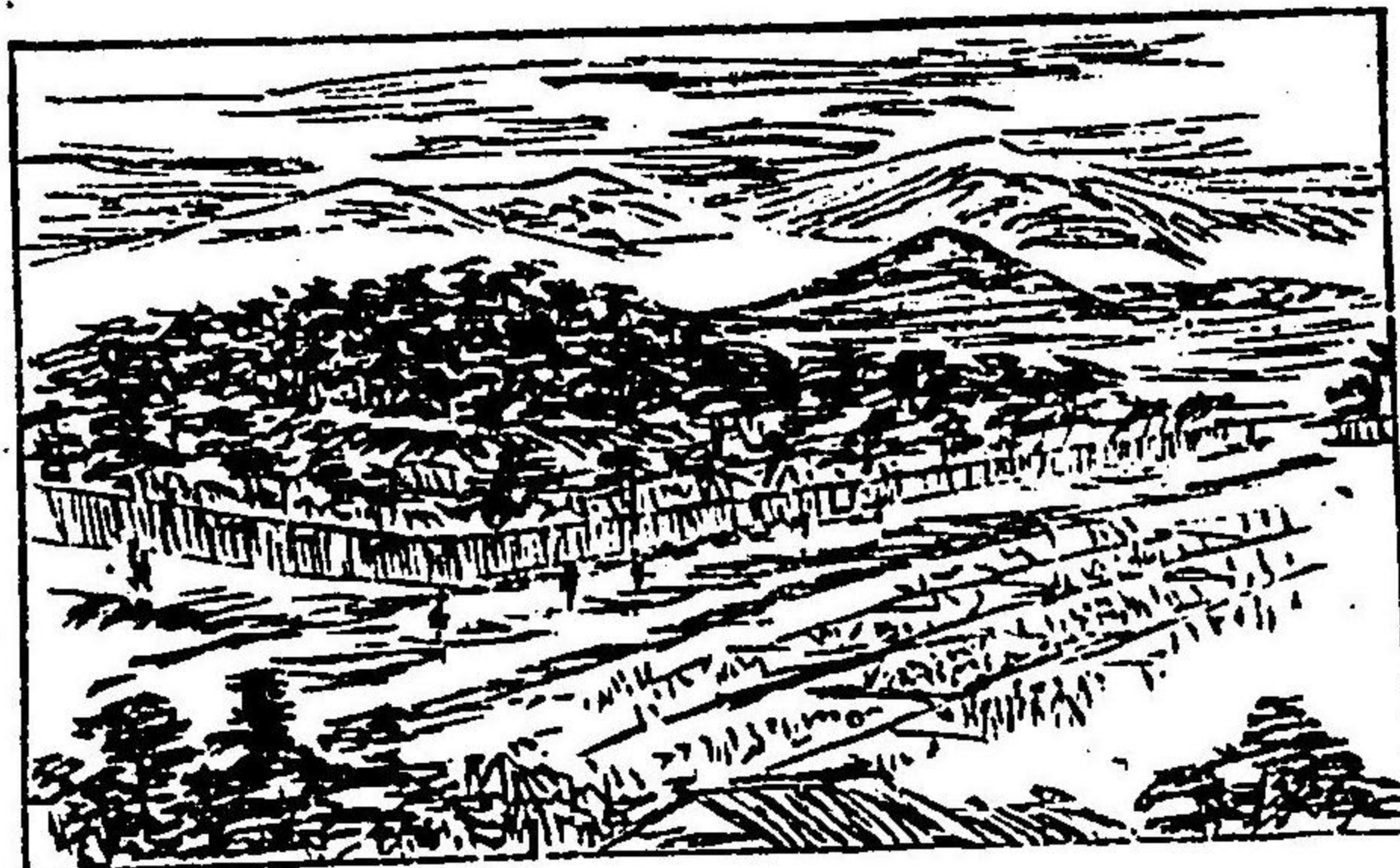
○物産

物産。五穀菓實及び山城の宇治茶、攝津の花崗石等あり。其製造品には山城の西陣織、漆器、陶器、大和の奈良晒、和泉の鐵器、及び堺の緞通、煉化石等有名にして攝津の灘酒亦著名なりとす。

○史談

史談。畿内は我が國に於て最も早く開け、且つ政令の茲より出づること最も久しかりしを以て史談に乏しからず、今其概要のみを擧げん。山城は舊と山背と稱せり、桓武帝の都を此國に奠め給ひしより、今の

名稱に改む、而して其京都は保元、平治の亂及び尊氏の叛、應仁の亂等の戦區となりしこと幾回なるを知らず、宇治は頼政の平家を謀つて



戦敗れ討死せし處にして、宇治川は佐々木、梶原兩氏の先登を争ひしによつて著るしく、山崎は秀吉の光秀を敗りし地たるを以て名あり、其伏見、淀は維新の際官軍の徳川勢を破りし處なり。大和の吉野及笠置は後醍醐帝の賊鋒を避け行在所となし給ひしより、南朝の據る處たり、橿原は神武天皇の長髓彦及び八十島帥を討平して帝位に即かせ給ひし地にして、最も早く王化に沾ひし國たり。

河内は楠正成、勤王の師を擧げし地にして、金剛山、今尙ほ巍然として

長く忠勳を存す、正行の父に別れし櫻井驛及び戦死せし四條畷皆此國內に在り。

攝津の難波は仁徳帝の宮室を卑ふして仁政を施されし處而して其福原は平清盛の安徳帝を奉じて暫時の帝都となせし地たり、楠正成の王事に斃れし湊川は今尚ほ水清く公を祀りし湊川神社は其河畔に在り、大阪は秀吉の城を築きし處城地宏壯なりしが、秀頼に至り冬夏兩度の戦争に、徳川家康の爲に破られ、今は僅かに牙城のみを存するに至れり、降つて天保に至り、大鹽平八郎の亂を起せしも、城代の爲に討平せられき。

畿内は神武帝以後百二十一代の間帝京の在りし地たるを以て(近江の滋賀に都せし帝もありき)歴代帝王の山陵各國に散在す其他堂塔佛閣等の古趾頗る多しとす。

○第二章 東海道誌。

○位置。殆んど本州の中央部に位して、太平洋に面せる一帯十五國を稱して東海道といふ。

○境界。東南は太平洋に面し、北は東山道と腹背相接し、西及南の一隅は畿内及び南海道の紀伊に界す。

○地勢。地形は東西に長く、南北に短し、これ全國の形勢より生ずる自然の區分なり、而して東山道に接する處は、山脈連亘して甲斐信濃の境は殊に高峻を極む、然れども南方海岸の地、及び下總、武藏、尾張(過半)等は概ね低平なりとす、故に河流皆南下太平洋に潮す。

○地味。伊勢、尾張の低地及び武藏等は土地肥沃にして五穀豐熟し、伊豆、志摩、安房、駿河の北部等は砂磧相交り、其他の諸國は肥瘠相半す。

○氣候。本道は北に山岳を負ひ、南方海に面するを以て氣候温暖なり、而して函嶺以西は概して冬より春に至り海風多く、以東は陸風多しとす。

○山岳

す。

山岳。富士山は駿河、甲斐に跨り、直立一萬二千三百七十尺餘、我が國第一の高山なり、頂上は四時白雪絶えず、形白扇を倒に懸けたるが如く、



四方より之を望むも、其形相同じ、此山は火山にして、寶永年中砂土を噴出して山腹に一山を現出す、寶永山是れなり、現今消火山の如くなれども、向後何れの日爆烈するやも知るべからず、山麓原野數里に亘る、所謂裾野なり、登山の道は東に須走あり、南に村山あり、夏時内外人の登山する者頗る多しといふ。白峯山は甲斐に在り、直立一萬二千餘尺、八岳其北境にあり、直立九千餘尺、地蔵岳は西境に、金峯山は東北境に屹立し、共に其高さ八千

五百尺餘あり、其他七面、大菩薩、雁坂等の諸山あり、皆高峻なりとす。甲斐は土地既に高きを以て従つて山岳も海面を擡ぐこと高し、是れ甲斐の高山多き所以なり。

天城山は伊豆の中央に在り、直立四千五百尺餘、山中巨木多く、良材を出すこと夥し。

箱根山は相摸の西境に峙ち、山中に湖水あり、又温泉七ヶ所あり、所謂箱根七湯是れなり、山道昇降八里と稱し、往時關所の設あり、東海道を往來する者の頗る難所と稱す、近時に至り、或は鑿開し、或は堅道を設け、以て鐵路を敷設す、旅人險坂を攀づるの苦を知らずして通過するを得るに至れり。

黒法師山は遠江の北部に在り、直立七千餘尺と稱す。

武庫三峰の諸山は武藏の西部に聳え、總稱して秩父山と云ふ、其最も高きは四千三百餘尺あり。

愛鷹山は富士山の南に屹立す、直立四千尺餘、山麓より海邊に至り、平原遠く連る、稱して浮島原といふ。

筑波山は常陸にあり、曠野の間に、双峰相對して峙立す、直立五千尺餘、東國の名山なり。

飯峰は八丈島に在り、山巔常に烟を吐く形の似たるを以て八丈富士と稱す。

三原山は大島に在り、雄山は三宅島に在り、共に噴火山なり。

河湖。川流は皆源を東山道の境に發し、或は東山道より來り、南下して太平洋に注ぐ。

利根川は坂東太郎と稱し、源を上野に發し、武藏下野の間を流れ、下總に入り、常陸の境に沿ひて、銚子港に注ぐ、長さ七十餘里、舟楫の便あり、

支流は武藏下總の境を貫流して、東京灣に注ぐ、江戸川是れなり。木曾川は信濃より發し、尾張に來り、伊勢海に入る、舟筏の便あり、長さ

○火山

○河

五十餘里、灌溉の便をなせども、時に河水漲溢して、沿岸の良田を害する事あり。

天龍川は信濃より遠江に入り、直下して海に注ぐ、水勢急にして、舟楫の利に乏し。

大井川は、白根山より發源し、遠江、駿河の間を流れ、海に入る、平時は水流數條に分れ流るゝも、河水一たび漲れば、其幅數町に及ぶ、舟楫の利に乏しとす。

富士川は源を甲斐に發せる、釜梨、笛吹二川の會流せる者にして、富士山の西を流れ、駿河灣に入る、奔流激湍にして、橋を架するを得ず、舟筏の降る其疾きこと、矢の如きも、溯るときは、皆之を曳き行くを以て大に困難なりといふ、長さ凡そ三十里許、我が國三急流の一とす。

荒川は武藏の西北境に發し、東南に流れ、東京を貫きて、品川灣に入る、下流を隅田川と云ふ、長さ四十餘里、舟楫の利多し。

○湖

那珂川は下野に發し常陸に入り東海に注ぐ長さ四十餘里亦舟筏の利に乏しからず。

此他相摸に馬入川あり三河に三流あれど略す。

湖の大なる者常陸に霞浦あり周回凡そ三十六里琵琶湖に亞げる大湖なり其東に北浦あり周回五里許下總に印幡沼あり周回十二里餘共に漁業の利ありとす此外尾張の入鹿池甲斐の川口湖山中湖及び相摸の蘆湖下總の牛久大資等の湖沼少なからず。

遠江の濱名湖は舊と陸地を以て海水を隔絶せしが地震の爲め陸地陥没して今は海水相通するに至れりとぞ。

○温泉

温泉及瀑布。熱海は伊豆の海岸に在り風景絶佳且つ往復の便なるを以て四時浴客絶ゆることなく殊に夏月暑を避くる者來り浴するを以て頗る繁盛なり修善寺湯原松原等も亦伊豆にあり箱根七島亦有名にして病を養ふもの及び暑を避くる者續々來つて浴するを以て

○瀑布

繁華熱海に讓らずといふ。

此他冷泉の湧出する者各地に多しと雖も略す。

布引瀧は伊勢に在り高さ凡そ九十丈頗る雄壯なりとす。

袋田瀧は常陸に在り高さ四十餘丈幅四十間壯觀實に云ふべからず。

○海岸

海岸。本道は東南太平洋に面せるを以て海を有せざる國は僅かに伊賀甲斐の二國のみ岬灣の出入多く良港亦少なからず。

安房上總は海中に突出して一大半島をなし相摸の三浦郡亦半島をなす二半島の間海水灣入して一大灣をなす所謂東京灣なり一名品川灣灣内に横濱及び横須賀の二良港あり又七基の砲臺あり往時徳川氏政權を執るの時に當つて外舶の來寇を禦がんが爲めに築造せし者に係る今は廢物に歸して其用をなさず只僅かに舊觀を存するのみ。

横濱は五港の一にして神奈川縣廳の在る處港内水深くして碇泊に

宜し、貿易繁盛にして内外の貨物常に港内に充積す、大船巨舶帆檣林立し、出入の頻繁なる他港に冠絶す、街衢清潔にして人家稠密、人口凡そ十二萬、外人の居留地には商館巍然たり。

横須賀は相州三浦郡の東北端にあり、鎮守府の所在地にして東洋第一の軍港と稱す、造船處あり、其船渠の如きは、歐米にも尙ほ稀に見る處なりといふ、外人の來つて觀覽する者多し、人口凡そ一萬三千餘、近時益々繁盛に赴けり。

灣内に三燈臺あり、一は灣口の觀音崎、一は横濱、一は品川とす。

伊豆の國も亦海中に斗出せる半島國にして、其南端を石廊崎とす、遠江の御前崎と相對して、一大灣を擁す、駿河灣是れなり。

清水港は灣内にある良港にして、駿遠の産物皆此より輸出す。

三河の渥美郡長く海中に斗出し、其極端を伊良胡崎といひ、岬前に志摩の菅島あり、相對して、一大灣を扼す、灣内に尾張の知多郡突出して

東西に分れ、東を衣浦といふ、西は即ち伊勢海なり、四日市及び鳥羽の良港あり、桑名、津等も船舶の碇泊地たり。

四日市は北伊勢の佳港にして、貨物の此港を経て輸出する者多く、商業繁盛なり。

鳥羽は志摩北端の港にして、港口に答志島横はり、風伯を避くるに宜し、故に海洋を航するの船舶此に寄り、天候の順なるを待つて帆を揚ぐといふ、海客呼んで我が國の喜望峰となすも、宜なりと謂ふべし。

此他の屋港(志摩)亦碇泊に宜しく、下田港(伊豆)は往年外船の入港せし處たり、常陸の那珂港、下總の銚子港、上總の木更津、相模の浦賀、三崎の二港、遠江の掛塚、三河の大濱等亦船を泊するに足るべき港なりとす。

志摩の大王崎は海中に斗出する三里許、岬端暗礁多く、舟行甚だ險なり、麥崎は其東端にあり、亦危險の處とす、羽豆岬(又師崎)は知多郡の極端の岬角なり、伊良胡崎と相對す、御前崎は其岬端に燈臺あり、富津及

○岬崎

び大東崎は上總にあり、石廊岬の角端に燈臺あり、犬吠岬は下總に在り、岬端亦燈臺を設く。

○灘

野島崎は、安房の南端にあり、以東は風浪險惡にして、房州沖と稱す。常陸一帯の海岸を鹿島灘といひ相摸一帯を相摸灘といひ御前崎と大王崎との間を總稱して遠洲灘といふ、風荒く波高く舟行最も險と稱す、又上總の大東岬より犬吠岬に至る一帯を稱して九十九里の濱といふ。

○島嶼

本道に屬する島嶼其數頗る多し、其大なる者を舉ぐれば、伊豆に七島あり大島、利島、新島、三宅島、神津島、御倉島及び八丈島是れなり、其中大なるは大島、八丈島及び三宅島にして、最小なるは利島なりとす、各島皆地質礫礫にして五穀登らず、僅かに麥、粟、甘藷及び青芋等を耕種すれども収獲少く米を内地に仰ぐ、然れども草木繁茂し果實成熟す、島民一般に漁業に従事す、新島及び八丈島等の婦女は紡

織の業に従事するもの多し。

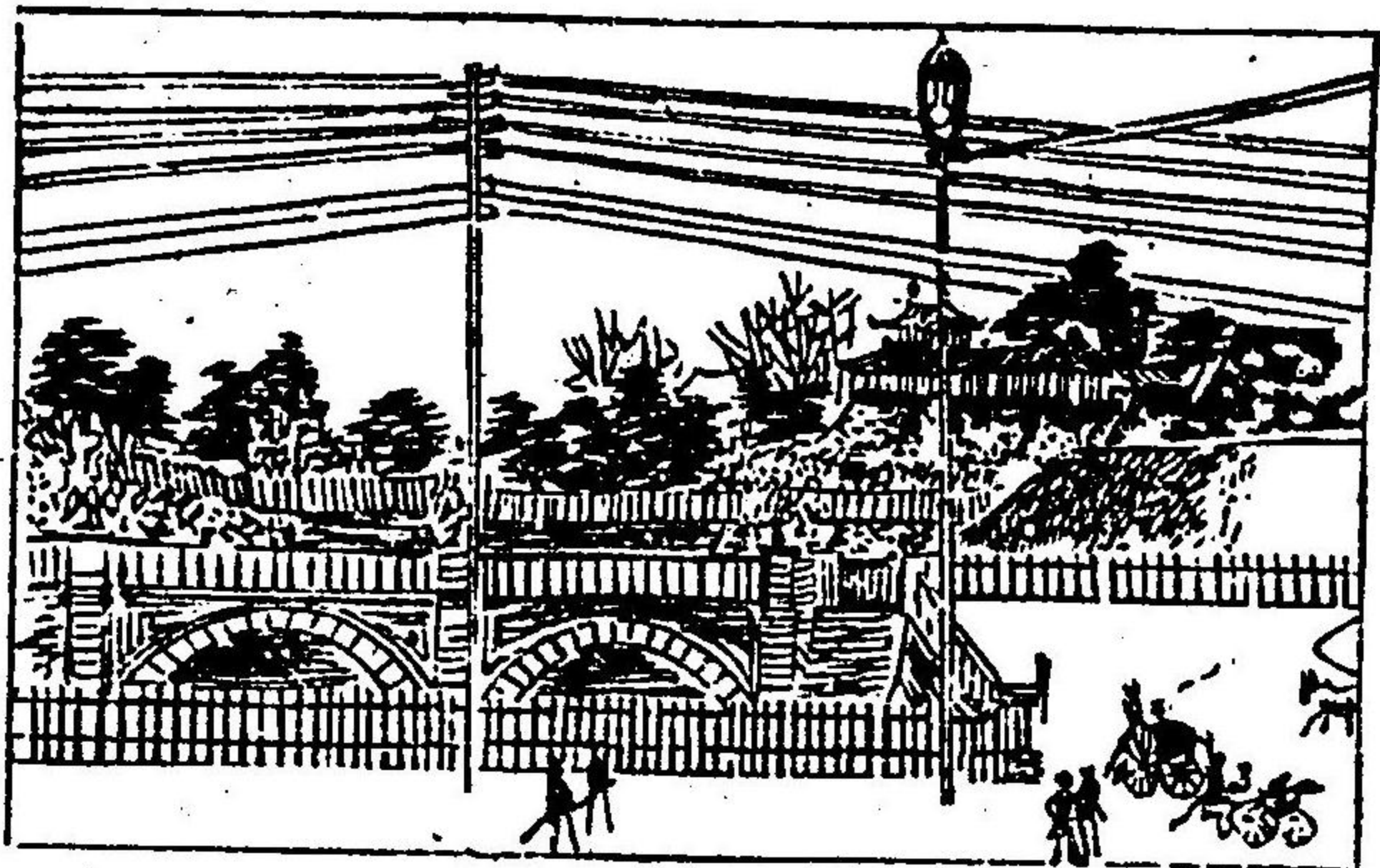
八丈島を距る凡る百八十里、洋中に群島あり、小笠原島といふ、舊に住民なし、故に無人島とも云へり、文祿年中、小笠原貞頼の發見に係る、故に氏名を以て島に冠す、文久年中、殖民せしが皆逃れ歸りしを明治八年更に内地の人を移住せしめ、現今は島民殆んど二千を超ゆ、各島の氣候温和にして、地味膏腴、耕作牧畜に適す、之を我が國最南の叛國とす。

志摩に答志、菅の二島あり、此他小島多しと雖も略す。

○都市

都市。東京は皇城の在る處にして、我が國の首府なり、人口凡そ百五十萬、市街方四里餘に亘り、街衢整齊、人家櫛比し、車馬絡繹として、肩摩轂擊、往來の人投梭して織るが如し、官衙第宅巍々、義々として、峙ち、煙突は空を摩して、黒煙天を燒かんとす、中央煉瓦屋の櫛齒相駢ぶが如く、商業繁盛なるを銀座通とす、道路の中央に鐵路を敷設して、馬車の行

路とし、兩側を行人の通路とす、電線縱横空に架して、蜘蛛網を欺き人は東西に奔走して宛ら狂ふが如し、學校あり、病院あり、博物館あり、一として具備せざるなく、又各處に公園を設けて、四民群遊の處とす、隅田川及び其支流には、許多の石橋鐵橋を架し、夜に入れば、無數の瓦斯燈及び電氣燈を點じて、白晝の如く、絲竹の聲管絃の響歌舞に和して、豪奢を競ふあり、雑踏熱鬧晝夜を分たず、其繁盛なること實に東洋第一と稱す。



○皇城

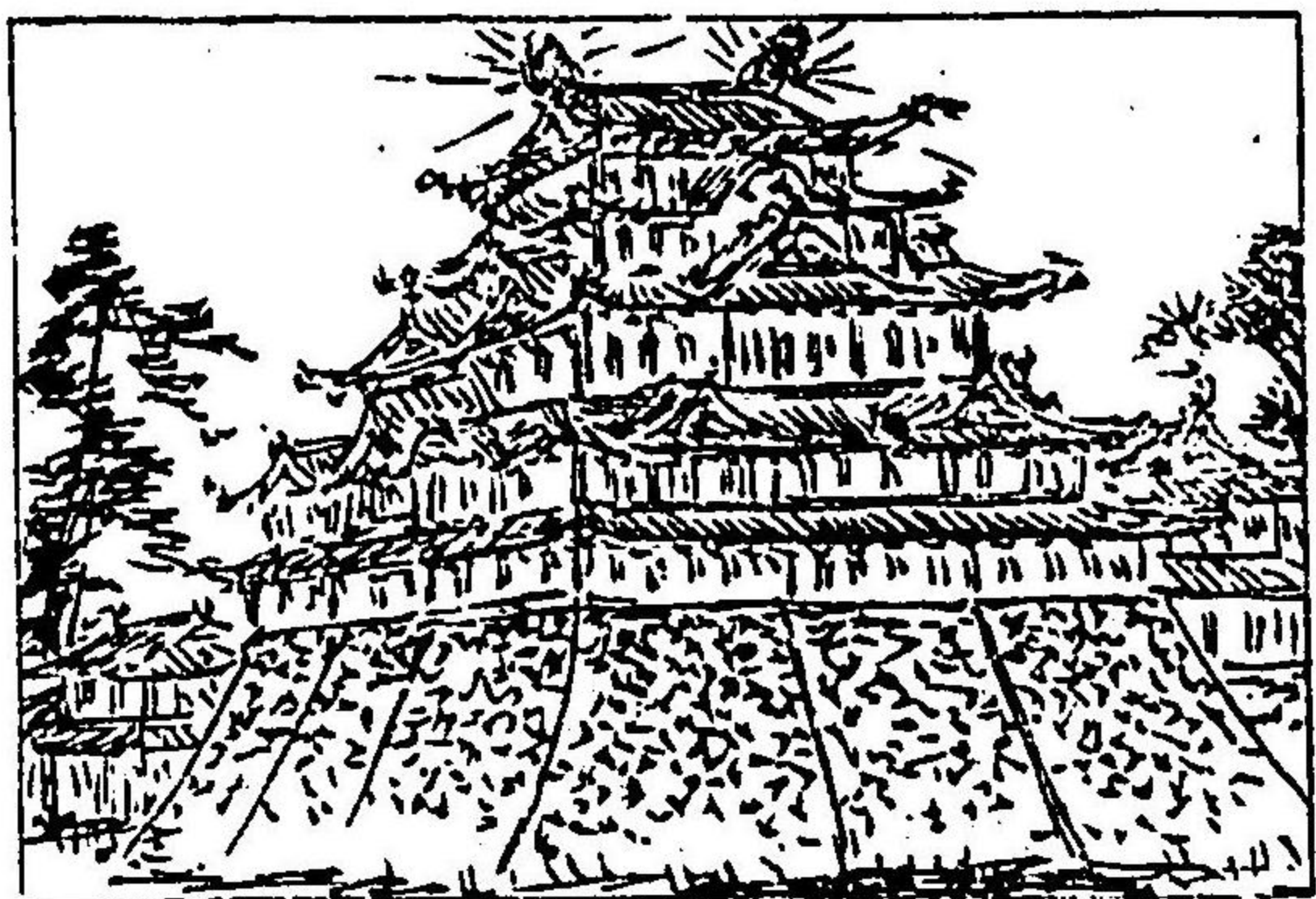
皇城は中央に在り、繞らすに濠濠を以てし、規模宏壯にして、正門は二重の石橋を架設し、頗る壯嚴を極む。上野は都下第一の公園にして、徳川累代の

墳墓の地たりしを以て、堂塔佛閣尙は存す、松杉森然として、幽邃の情掬すべく、櫻樹其間を點綴して、花時の景殊に美なり。

向島は隅田川の東岸にして、十里の長堤、悉く櫻樹を植え、春風一たび吹て、花咲ふに方つては、櫻雲漠々として、流水爲めに香はんと欲す、士女群集して、歌吹の海となり、閑靜の地、俄かに

變じて、雜鬧の巷となる、東國に於ける花の名所たり。

名古屋は尾張の國にあり、愛知縣廳の在る所にして、人口凡そ十五萬家、屋宏壯にして、商況頗る繁昌せり、此地は徳川義直の封せられし處にして、有名なる名古屋城は、今尙は舊形を變せず、其天主閣上の金鋪魚は、光輝燦然として、天日に映射し、頗る奇觀たり、故に金城の稱



第二編各道誌○第二章東海道誌

あり、今や宮内省の有に歸し名古屋離宮と稱せらるゝに至れり、蓋し建築の保存より特に教旨に出でられしならんか、郭内の雉堞尙は舊觀を存し、師團の兵營たり、此地は三府に亞ける大都會たり。

静岡は駿河に在り、元府中と稱す、人口三萬五千餘、本道中名古屋に次げる都會なり、毎年製茶の候に至れば商賈殊に繁盛なり、静岡縣廳所在の地たり。

津は伊勢に在り、三重縣廳の所在地たり、人口凡そ二萬五千。

甲府は山梨縣廳の在る所にして、甲斐の中央に在り、人口凡そ一萬七千、綿帛の製造盛んなり。

水戸は茨城縣廳の所在地にして、常陸國那珂川の南岸に在り、人口凡そ二萬餘、此地は徳川頼宣の封せられし處にして、城市宏壯なり、千波湖に臨みて公園あり、偕樂園あり、景山(齊昭)公の創設にして、梅樹數千株を植へ、皆老幹古木たり、園内に好文亭及び樂善樓等あり、天下の書

を集め、藏する弘道館も亦此市中にあり、近時鐵路の便あるを以て商況従つて繁盛に赴けり。

下總の千葉は縣廳の在る所、人口凡そ二萬許、其東南に方りて佐倉あり、師團分營の在る所とす。

此他伊賀の上野、伊勢の桑名及び山田(外宮所在地)、尾張の熱田(日本武尊を奉祀したる地)、三河の岡崎及び豊橋、遠江の濱松、相摸の小田原、武藏の八王子、浦和、埼玉縣所在地の地、川越、安房の館山等あり。

○勝地
勝地及神社。田子浦は清水港の南に斗出する三保、岬より以東沿岸の一帶の總稱にして、富士山の眺望極めて佳なり、三保、岬は海中に斗出すること半里餘、青松其上に叢生し、白沙と相映じ、風光殊に絶佳にして三景に亞げる勝地と稱す。

江ノ島は相摸にあり、風光頗る佳なり、島中天女を祀る祠前に貝細工を商ふ頗る美麗なり、鎌倉は八幡の祠なり、源氏の祈願所たり、此近傍古

跡多く護良親王の幽せられし石窟等尙は存す。

伊勢の二見浦は大石海中に雙立し瘦松其上に生じ景色殊に佳なり而して海岸より之を望めば旭日其間より出るを見る名稱の因りて起る所ならんか。

伊勢の大神宮は我が國鎮護の天照皇大神を祀る養する者常に絶えず。

下總の香取常陸の鹿島の二社は我が國古社の一たり。



此他尾張の熱田神社及び下總の成田不動遠江の秋葉神社等亦著名なり。

○風俗及人情

風俗及人情。古は東國武士なを稱し風俗粗野にして京坂人士の嘲笑

○神社

を受けしも遷都以來風俗一變し人皆華奢を競ふの風を生じ流行を追ふて唯後れざらんを欲するの風となる然れども村落僻遠の地は尙は敦撲の風ありとす其人情に至つては關東の人は概ね轄達任俠の性を帯び殊に東京の人は古より江戸兒と稱し俠氣を貴ぶの風あり甲斐の人は強悍にして險是れ尙信玄の遺風を傳ふるか常陸の人は概ね固陋にして剛直伊勢の人は恰惻尾張の人亦類す其他の各國都鄙に因て異なり概して都會の人は敏捷の風ありとす。

○産物
○農産

産物。本道の物産著名なるもの少なからず其農産は武藏伊勢尾張の米産出夥しく且つ良品なり甲斐常陸上總等も米麥を産する少なからず其他常陸の烟草は有名にして駿河上總も亦之を産す茶は駿河を第一とし上總下總常陸亦之を出す更に國に就て之を擧ぐれば尾張甲斐下總の綿伊勢尾張下總の篋常陸の寒水石伊豆安房の材木薪炭等とす。

○水産

水産又乏しからず、伊勢の海、相摸の海、房州沖、九十九里の濱等最も漁業盛んなり、其重なる者は鯉、鯉、鰻、章魚、鰯、鱈、鯛、比目魚及び海草等にして伊勢海は捕鯨の業盛んなり。

○製造品

製造品には伊賀の陶器、伊勢の萬古焼、尾張の七寶焼及び瀬戸焼、常陸の陶器、伊勢、駿河の漆器、駿河常陸の紙、甲斐の絹、武藏の八王子織、秩父の絹、淺草海苔、相摸の貝細工、麥藁細工、尾張の織物、下總の結城紬、上總の鯉節、下總の酒、味酢、醤油等名あり。

○牧畜

安房は牧牛をなすもの多し、然れども身体矮小の和種を多しとす、上總は家畜を飼養するもの多く、東京に輸出す、下總の小金原は牧馬の場たりしが近年開墾すると共に牧場愈々微々たり。

○史談

史談。本道は古昔蠻夷の巢窟にして駿河以東は蝦夷と稱せし地なり、後箱根に關所を設けしより、以東の諸國六國と及び東山道の上野下野を稱して關東八國といへり、本道亦史談に乏しからず、今其大綱を

舉ぐれば。

伊勢の内宮は垂仁帝の時、天照大神を祀り、外宮は雄略帝の時、豐受大神を丹波より遷し奉りし處、尾張の桶狭間は信長の今川義元を討ちし地にして、長嶽は秀吉の軍、家康の爲めに敗北せし處たり、名古屋は徳川義直の封せられし處、所謂親藩と稱せし者、其中村は秀吉の生れし地、三河は家康の生國にして、岡崎は其居城たり、長篠は家康の信長と合して勝頼を破りし地、遠江の濱松は家康の徒封せられし地にして、味方原は家康の信玄の爲めに攻撃を受け大敗せし處たり、駿河の浮島原は日本武尊、賊園の中に在て草薙の寶劍を以て賊軍を討ち靡けし處、其富士川は平維盛の頼朝と對陣して水禽に驚き敗走せし處、富士の裾野は曾て曾我兄弟の工藤祐経を撃つて父仇を報せし地、静岡は舊と駿府と稱して徳川氏の封せられし地たり、甲斐は源義光の領せし地にして、武田信玄の據りし處、頗る天險の地たり、子勝頼に至

り織田信長、家康及び北條氏康の兵を合して來り攻むるに會し、天目山に自刃せり。伊豆の大島は源爲朝の流竄せられし處にして、蛭ヶ島は頼朝の久しく銳氣を養ふて一蹶せし地たり。其修禪寺は頼家の時政の爲めに弑されし處、相摸の小田原は伊勢長氏の茶々を殺して據りし處にして、韭山(伊豆)は其居城たり。後秀吉に至り、氏政、氏直を小田原に圍み、遂に之を降せり。鎌倉、相摸は頼朝府を開きし以來、北條氏の久しく據りし處、高時滅びて後、足利尊氏の叛せし地にして、次子基氏を置き、關東を管領せしめしより、上杉氏長く管領たり。武藏の東京は舊と江戸と稱し、徳川氏府を茲に開き、天下の諸侯をして伺候せしめし處、其江戸城は太田道灌の經營、築造せしものにして、徳川氏に至り、其規模を擴大にせり。今は萬乗の至尊、今上陛下の宮城たり。道灌は上杉氏の臣にして、築城の術に長じ、川越城も其建築に係る。隅田川は頼朝の兵を觀せし處、古の所謂武藏野は新田義興、義治の足利高氏を破

りし處、其矢口、渡は義興の誘殺せられし處たり。川越は北條氏康の上杉氏と争ひし地とす。横濱は嘉永年中、外國船の來航、後條約締結するに及んで、港を開きて互市場とせし處なり。上野、東叡山は維新の際、徳川の遺臣等の據りし處、山上の樹木、今尙は銃丸の痕跡を存す。安房は里見氏の久しく據る處、上總は其領土に歸せり。下總の猿島は平將門の叛して、偽宮を建てし處、結城は結城氏朝の足利持氏の遺孤、春王安王を奉じて兵を擧げし處、御弓は足利成氏の孫、義明の兄、高基と隙ありて之に據りし地にして、鴻臺は義明の北條氏綱の爲に敗れし地たり。古河は即ち成氏の居りし處なりとす。常陸の水戸は徳川頼宣の封せられ、後頼房の封せられし地たり。維新前に至り、攘夷の論盛なるや、脱藩の士十七人、櫻田門外に井伊閼老を刺しぬ。已にして藩論二派に分れ、藤田小四郎等、攘夷を唱へ、正義黨と稱し、市川朝比奈等を除かんとし、筑波山に據りしに、武田耕雲齋等之を援け、れば幕府兵を遣は

し之を討ちぬ、後一條帝の時平忠常反し湖水を控へて固とせしが源頼信の爲めに討平せられき、南北朝の時小田、佐竹、二氏此地を分領し北朝に黨せしが戦國の時に至り全く佐竹氏の有に歸せり。

○第三章 東山道誌

畿内の東より東海、北陸二道の間を貫き東北に長く亘りて十三國より成る、地勢により二分して近江より下野に至る海を有せざる六國を中山道とし、其他の七國を陸羽と稱す。

○中山道

境界。中仙道は西畿内及び山陰道に界し、北は北陸道に接し、南は東海道に界す、而して東北は陸羽(又奥羽と稱す)の磐城、岩代に連接す。

○地勢

地勢。各國皆高地にして信濃、飛騨は最も甚しく海面を抽くこと二千尺以上とす、然れども近江琵琶湖の沿岸及び美濃、下野の南部は低平

なりとす。

○地味

地味。近江、美濃は地味肥沃にして耕作に適し、信濃、上野は桑樹の培養に適す、而して下野の南部亦肥沃の地たり、唯飛騨は瘠鹵にして穀果登らず。

○氣候

氣候。近江及び美濃は地勢低平なるが故に従つて氣候も温和なれども、飛騨、信濃の高地は寒氣殊に甚だしく積雪丈餘に及ぶとありといふ。

○山岳

山岳。乗鞍岳は飛騨、信濃の境に跨り、直立九千餘尺あり、國師岳は本道第一の高山にして、直立一萬二百餘尺、富士山に亞げる高山とす。

御岳は信濃の西隅に聳え、高さ乗鞍岳と伯



第二編各道誌○第三章東山道誌

仲す、其錫杖岳、駒岳、戸隠山等皆高峻なり。

碓氷嶺は信濃、上野の境に在り、三國峠は信濃、上野、越後に跨れる高山なり。

上野の中央に赤城、榛名、妙義の三山鼎立し、各直立三千尺餘許あり。日光山は下野の西北隅に聳え、其最も高きを黒髪山(又男體山と云ふ)と云ふ、直立八千餘尺、其脈分れて大真名子山、高原山となる。八溝山は常陸、下野、磐城に跨れり。

淺間岳は信濃、上野に跨れる高山にして、山上常に烟を吐く我が邦第一の噴火山にして、全山赭色を帯び、草木生せず、直立八千二百餘尺あり。

白根山は、上野の東境にあり、高さ六千五百尺、那須嶽は下野の北境に聳え、直立六千三百餘尺あり。

上野の赤城山は、建長年間噴火せしも、今時は熄みて、消火山の姿をな

○火山

し、黒髪山も往古は火山なりしといふ。

○河

河湖。千曲川は甲斐、信濃の國境に發源し、信濃を灣流し、犀川を合せ越

後に入り、信濃川となる、舟楫の利あり。

木曾川は信濃の西部に發源し、木曾山中を過ぎ、美濃に入りて飛驒川と合し、尾張、伊勢の界を過ぎて伊勢の海に入る、灌溉の便、舟筏の利多し、雖も時に洪水の懼れありとす。

諏訪湖水の流れて南遠江に入るを天龍川と云ふ。

飛驒は水流の源を此に發して北流して越中に入る者多し、宮川、白川等是れなり。

利根川は上野の北境に發し、諸川を會流して、武藏、下總の間に入る。

下野の絹川は、西北隅の絹沼より發し、中禪寺湖より落る大谷川を合せ、常陸を過ぎ、利根川に入る、東北の諸川は相合して漸く大となり、常陸に入りて那珂川となる。

湖の大なるものを近江の琵琶湖とす、周回七十三里餘、形の似たるを以て名く、湖中に奥沖竹生の三島あり、竹生島最も大なり、湖水狭りて瀬多川となる、即ち宇治川の上流なり、湖中漁業盛んにして、源五郎鮎最も有名なり、近時は湖上に汽船を泛べ、行旅荷物の運輸便なり。中禪寺湖は、下野國日光山中に在り、湖水清冽、黒髮山、倒に湖底に落つるを見る、周回八里湖中に上野島あり、其水溢れて華嚴瀑となる、大谷川の上流なり、近時湖に鯉を放養せりといふ。

諏訪湖は信濃の中央より少しく東部に在り、周回四里餘、冬時は湖水堅氷を結びて人馬氷上を行くべし、其水流れて天龍川となる。此他近江の余吾湖、飛驒の大沼、上野の板倉、尾瀬の二湖、下野の赤間沼等あり。

瀑布及温泉。養老瀑は美濃の養老山中に在り、古來有名の瀑布とす。華嚴瀑は日光山中の湖水より落つ、高さ七十五丈巾十五間、頗る壯觀



(高さ百二十丈)青垂瀑あり。

信濃川の上流に米子瀑あり、二條に分れ一は直下九十丈一は六十丈あり、共に巾一間許たり。本道は火山多きを以て、従つて温泉亦少なからず、信濃に靈泉寺温泉あり、其他院内、淺間等の温泉あり。伊香保及び草津は共に上野に在り、古より其名著しく病を治するの効あるを以て、浴客常に絶ゆることなし、近時は鐵道の近傍に通ずる

を以て、益、繁盛なりといふ、此他尙ほ澤渡等の温泉あり。
下野も温泉に富み、鹽原温泉、那須及び日光等の温泉あり、此國亦鐵路の便あるを以て、夏時浴客大に雜開するといふ。

都市。大津は琵琶湖の南岸に在り、滋賀縣廳の在る所、東海道より京都に至るの要路に當るを以て、古より繁華の宿驛なりしが、近年汽船の琵琶湖に泛ぶあり、鐵路の通ずるありて、益、繁盛の都會となれり、人口凡そ二萬五千に近し、此他彦根、長濱等の都會あり。

岐阜は美濃の中央部に在る都會なり、現時縣廳の在る所、人口二萬餘、大垣も國中の繁華の都邑なり、先年の大地震にて、二市共災害に罹り大に損害を被れり。

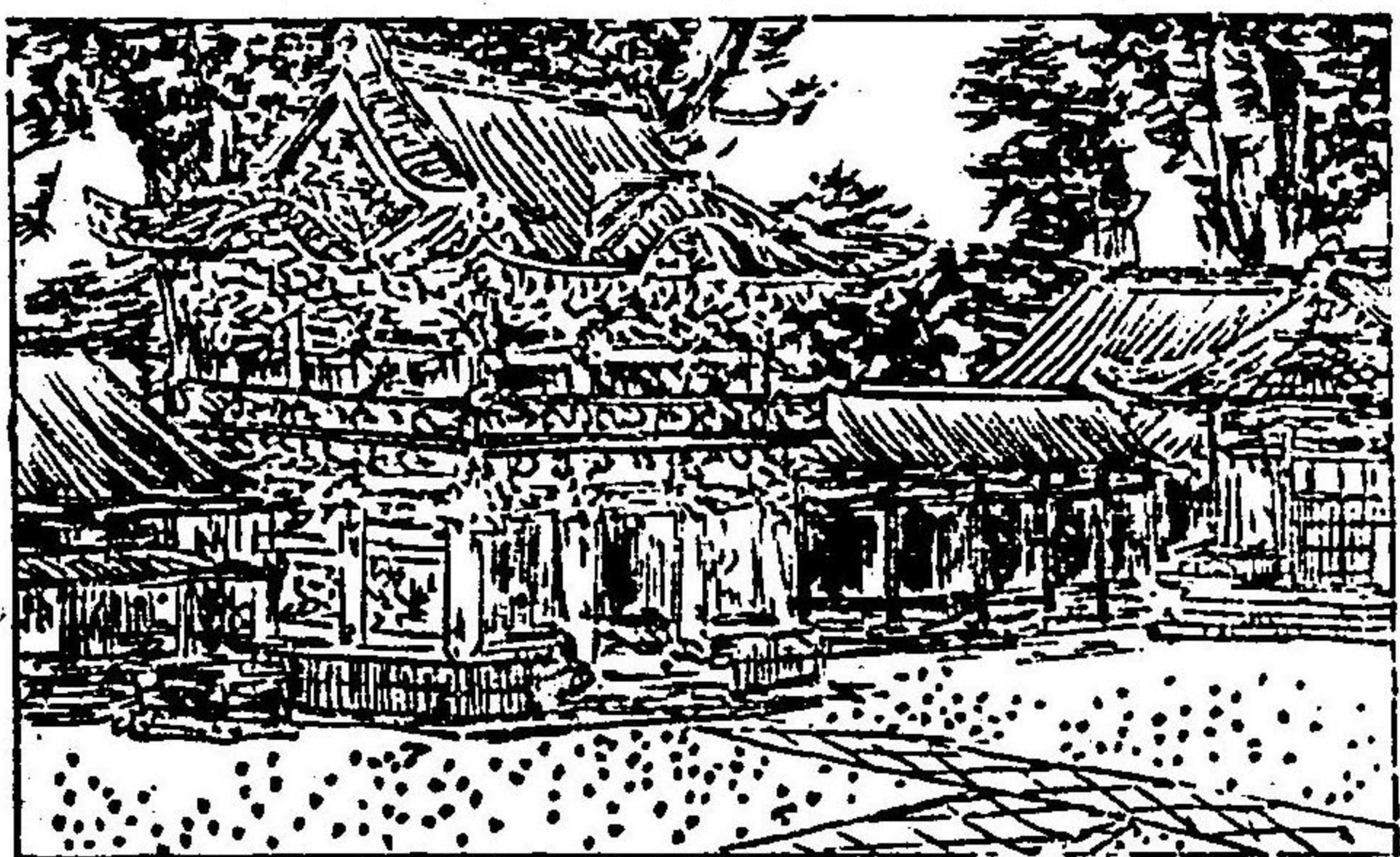
長野は信濃の國、犀川の北岸に在り、縣廳所在地にして有名の善光寺の大伽藍あり、賽する者常に絶えず、人口二萬五千餘あり、此他松本、飯田、上田等の市街あり、何れも繁盛なり。

前橋は上野利根河の東岸に在り、群馬縣廳の在る所にして、人口凡そ二萬餘、製絲の業盛んに従つて商況活潑なり、利根を隔て、二里許高崎の市街あり、繁華、前場に劣らず、二市共鐵路の通ずるあるを以て、他方の商人來りて賣買熾んなり、富岡に有名の製絲場あり、此他桐生、館林、伊勢崎等亦名邑にして織物の業盛んなり。

宇都宮は下野の殆んど中央に在り、栃木縣廳の在る所にして、陸羽街道の要衝に當るを以て、市街殷賑なり、人口凡そ二萬餘あり、近年奥羽鐵道の通ずる外、此地より日光山に至るの鐵路を敷設せるを以て、登山の客日に市内に充つるに至れり、此他足利は織物の産地にして、栃木は舊と縣廳の在りし處、佐野、鹿沼亦繁盛なり、日光は游觀者多きが爲めに、旅館殊に雜開を極め、小山は奥羽及び水戸線、兩毛線の鐵路縦横して四達の要路に當るを以て、頗る殷賑の地たり。

勝地。琵琶湖畔景色殊に佳にして、近江入景の勝あり、曰く、堅田の落雁

曰く比良の暮雪曰く石山の秋月曰く粟津の晴嵐曰く勢多の夕照曰く唐崎の夜雨曰く矢橋の歸帆曰く三井の晚鐘是れなり是れ支那の



洞庭湖の八勝に擬せし景なりとぞ。姨捨山は觀月の勝地にして信濃に在り山麓の水田鱗次として明月東山に登るときは各其影を分つ所謂田毎の月と稱する者は是れなり。

日光山は東照公家康を祀るの地にして山秀で水清く老松古杉天を挽し巨巖苔滑かにして幽遠の情掬すべし社殿の規模宏壯にして山水花鳥を彫刻し金銀珠玉を鏤め光輝燦然人目を眩射す實に塵外の靈場たり中禪寺湖畔酒樓あり登臨すれば湖中の

○風俗及人情

景双眸の間に入り頗る壯快を覺ゆ秋霜一たび到れば全山悉く錦繡を織るが如く眺望亦一段の風致ありといふ。

風俗及人情。本道の人は概ね樸直而して其近江の人は伶俐にして節儉男子は行商に従事し女子は紡織を業とす美濃の南部は俠氣を帯び飛驒の人は簡樸優長に信濃の人は敦頑にして勤儉の風あり其上野の人は概して巧慧にして浮華下野の南部亦上野に類し而して奢侈の風あれども北部は朴野なり。

○山林

山林。木曾川の上流は兩岸深林相連る之を木曾山中と稱す杉檜森然として風伯甚しきときは山中往々火を發することありと云ふ此樹を斫つて河中に投すれば水に従つて下流に至る故に樵夫日に斧を携へて入り深山幽谷伐木の音丁々たり。

○物産

物産。本道中重なる農産は近江美濃信濃の米麥等を最とし飛驒及び近江の茶亦多しとす下野の薪炭當時東京人の使用に供して輸出盛

んなり。

製造品には近江の長濱縮緬麻布伊吹艾壘表美濃の生絲及び陶器信濃上野下野の生絲及び蠶卵紙上野の桐生及び伊勢崎等の織物下野の足利絹麻烟草及び干瓢等有名なりとす。

礦産には近江飛驒下野の銅飛驒の銀信濃上野の鐵等あり而して下野足尾の銅礦は殊に著名なりとす。

○史談

史談。本道は之を陸羽に比ぶれば頗る史談に富めりとす。

近江の滋賀は天智帝の都せし地にして其勢多は範頼の義仲の兵を破りし處而して粟津は義仲及び今井兼平最後の處たり叡山は山城の境に在りて後醍醐帝の賊兵を避けて再び行幸せし處後信長の命を拒んで悉く焚燒せられし事ありき其賤岳は秀吉の七將を遣はして柴田勝家の將佐久間信盛を討ちし處なり。

美濃の洲殿川は源行家の平家と戦ひし處岐阜は信長の城きて居り

し地にして後信孝の信雄の爲めに此處に圍まれて出奔せしことありぬ而して其大垣は信孝の秀吉と戦ひて敗れし地たり關原は三成の兵を擧げて家康の軍と會戦せし處凄風今尙は蕭條たるの感あり。信濃の川中島は武田信玄と上杉謙信と十餘年兵を結び數回の對戦ありし處有名の古戰場たり其上田は眞田昌幸の領地にして關原の役此に據つて西軍に應せし處たり。

上野の新田郡は義貞の起りし地にして其利根川は北畠顯家の足利義隆を破りし處後北條氏康平井を攻めて上杉憲政を走らせ尋で謙信兵を擧げて來り國中の數城を陥れぬ。

下野の唐澤山は藤原秀郷の城きし處那須の高館山は與市宗高の城趾なりといふ其小山は家康の上杉景勝を攻めんとして兵を帥ゐて來り次せし處たり戊辰の亂宇都宮は賊の據る處となり其小山及び宇都宮は共に激戦ありし處太平山及び出流山は水戸の藤田等の據

りし處なりといふ。

○陸羽

○位置及境界

位置及境界。陸羽は中山道の東北に連りて三方海に面し、西南の一隅は北陸道に接し、東南の一隅僅かに東海道の常陸に連る。

○地勢

地勢。中央一帯山脈重疊して峻嶺多く、河流皆此に發して、一は東海に注ぎ、一は日本海に入る、海岸一帯は概ね土地低平なりとす。

○氣候

氣候。奥羽地方は概して寒冽にして降雪甚だし、日本海に沿ふたる地方は寒潮の爲めに殊に甚だしとす、然れども太平洋に沿ふ地方は、黒潮の潮流あるを以て寒氣甚だしからずとす。

○地味

地味。陸前の中央部及び陸中の盛岡以南等は膏腴にして米穀に適す、其他は肥瘠稍錯り殊に磐城の如きは礫确の地多しとす。

○山岳

山岳。阿伽井岳は磐城に在り、駒岳は岩代の西南に峙ち上野、越後の境をなす、直立七千三百尺餘、此他赤安及び燈の二山も亦高き山岳にし

て、共に高さ六千五百尺許あり、岩手山は陸中の西境に聳え直立六千七百餘尺、早池峯、酢川の二山亦國中の高山たり、八甲田山は直立岩手山に相比し陸奥の中央に在り、岩木山は形ち肖たるを以て津輕富士と稱す、月山は羽前の中央部に聳え、高さ亦岩手山と相若けり、其近傍に羽黒、湯殿の二山ありて鼎足の勢をなせり、西隅に朝日岳あり、岩代、越後の境に飯豊山あり、共に直立六千餘尺とす、此外山岳甚だ多しと雖も一々記載すべからず。

磐梯山は岩代の北方に在り、山麓に猪苗代湖あり、大同年間の噴火口なりといふ、先年再び破裂して人畜爲めに壓死せらる、高さ凡そ六千尺、今回吾妻岳俄然破裂して噴烟甚だしといふ、藏王岳、陸前、羽前の境に峙ち亦火山なり、岩木山は現時尙ほ火烟を吐く、此外陸前の寒風山、陸奥の恐山、羽後の鳥海山も皆火山なりとす。

○河

河湖。阿武隈川は磐城の西南隅より發源し、國中の諸川を合し岩代の

境に沿ふて北流し、東南に折れ陸前の界を経て海に注ぐ、長さ五十餘里、下流は舟楫の便あり。

北上川は陸中の北境より發し、國の中央を南流し、諸川を會して益、大河となり、陸前に入り、石巻港に注ぐ、長さ七十餘里、舟楫の便甚だ多し。最上川は羽前の南境に發源し、國中を環流し、羽後の境に沿ひ、日本海に注ぐ、水勢快駛、我が國三急流の一たり。

猪苗代湖より流出するを日橋川といふ、西流して越後に入る、此他羽後に御物及び能代の二川あり、陸奥に岩木川あり。

湖の大なるは羽後に八郎潟あり、周回十五里、猪苗代湖は周回十六里餘あり、陸奥に十輪田湖、周回十里、十三湖、同六里等あり。

温泉 岩代の磐梯山麓に在りしが、噴火後、浴客再度の破裂を危ぶみて、入浴殆んどなきに至るといふ、羽前に田川の温泉あり、羽後に大瀧湯、澤等の温泉あり、皆病を治するの効ありといふ。

○湖

○温泉

○海岸

○港湾

海岸 陸羽は中山道に反し、岩代一國を除くの外は皆海を有す、然れども海岸屈曲少なく、良港に乏し。

陸前の牡鹿郡海中に斗出して半島をなし、一灣を形成す、仙臺灣是れなり、灣中石巻港あり、東海に於ける良港なり、此他東岸には陸中に宮古、釜石等の港あり。

陸奥は海岸屈曲して一大灣入をなす、陸奥灣又青森灣と稱す、灣内に青森、野邊地の二港あり、青森は當時縣廳所在地にして、奥羽鐵道の最北端の地なり、此國岬角多く、東北端に尻矢崎あり、燈臺を設く、北に廻りて大間岬あり、更に西方相對する處に龍飛崎あり。

日本海に面せる處には唯羽後の能代港のみ大船を泊するに足る、此他酒田港あり、男鹿郡海中に突出して一大半島をなせり。仙臺灣内數百の島嶼羅列す、所謂松島なり、牡鹿半島の岬端に小島あり、金華山といふ燈臺を設く。

○島嶼及海峽

青森灣口海水の狭りたる處を平館海峡と云ふ、又龍飛崎と渡島の白神崎との間を津輕海峡(松前海峽)と稱す、此間潮流急にして舟行甚だ險なりとぞ。

○都市

都市。岩代の福島は縣廳の所在地にして人口凡そ一萬五千許、近時鐵路の便あるを以て商業日に繁盛に赴けり、若松は西部地方の都會にして人口二萬餘、繁華福島に過ぐ。

磐城の白川は古より奥羽咽喉の要地にして人口一萬餘あり、此他三春、平等の小都會あり。

仙臺は陸前に在り、宮城縣廳の所在地にして師團兵營あり、人口七萬餘、奥羽第一の都會にして商業繁盛市街殷賑なり。

陸中の盛岡は國の中央に位し、岩手縣廳の在る所、人口凡そ三萬餘、奥羽街道の衝に當るを以て商業繁昌なり。

青森は灣の西南岸に在り、縣廳の在る所にして人口凡そ一萬五千、鐵

路敷設以來東京より二日を出でずして達するを以て市況日に繁盛を至せり、弘前は岩木川の東岸に在り、人口凡そ三萬商業繁盛にして國中第一の都會なり。

羽前の米澤は國の東南隅に在る都會にして、人口三萬二千餘、紡織の業盛んなり、山形は縣廳の所在地にして國の中央部に位し、人口凡そ二萬五千市街殷賑なり、此他鶴岡、新莊亦繁華の都會なり。

秋田は羽後第一の都會にして縣廳の在る所、人口凡そ三萬、畿内、北海諸國と海路の便あるを以て商況頗る繁盛なりとす。

勝地。松島は日本三景の一にして數百の島嶼、碁布羅列し、青松其上に茂生す、舟を此間に泛ぶ、千態萬狀、愈現はれて愈奇なり、近時鹽竈まで汽車の便あるを以て來り遊ぶもの頗る多し。

○風俗及人情

風俗及人情。風俗は通じて朴直なりと雖も少しく都鄙の別あり、其岩代の女子は勤勉の風を帯び、陸前は優暢の風あり、陸中の南部は華奢

○風俗及
人情

○山林

○牧畜



酒、陸前の埋木細工、藁席、羽前の薄荷等にして、生絲及び織物を産するは、岩代、陸前及び羽前等とす。

に傾き陸奥は陋野に近し、羽前は概して樸實勤儉に、羽後の大半は粗野なれども都市は少しく華美に趨るの風ありとす。山林及牧畜。羽後男鹿半島に深林あり鬱然として其數を知らず我が邦第一の良山林とす。陸中及び陸奥の一戸近傍に牧場あり古より良馬を産するの地と稱す。物産。農産には米を以て第一とし、羽前羽後、陸奥を多しとす。

製造品には磐城、陸中の烟草、岩代會津の

沿海の地は皆漁鹽の利あり、就中陸前、羽後は其最たり、獲る處の者鮑、鰓、鱈、鮪、鰯、鰯、鰯、鰯及海草等多く且つ各川より鮭、鱈等を産すること少なからず。

礦産には陸中の尾去澤、羽後の阿仁の銅、岩代の半田及び輕井澤、陸中の小坂、羽後の阿仁及び院内の銀、磐城の石炭、磐城、陸前の鐵等にして、金坑は陸前栗原郡にあり。

○史談

史談。奥羽地方は古昔蝦夷の巢窟たり、白川の險を恃み反服常なく坂

上田村磨之を討平してより漸く服従するに至れり、後冷泉帝の時、安倍頼時、子貞任、宗任叛し源頼義之を討ち九年にして誅に伏す、後清原武衡、家衡等亂を起し、義家陸奥守となりて之を討平したりき、治承中義經逃れて藤原秀衡に依り、子泰衡に至り義經を襲ふて首を京師に傳へしが、後泰衡頼朝の爲めに攻め滅されぬ、義經嘗て幼少の時より秀衡に客として生長したりしなり、後醍醐帝の時北畠顯家國司たり、

後伊達政宗久しく會津に據りしが、秀吉に降り、浦生氏郷封せられき、
戊辰の役、松平容保、會津に據り、近傍諸侯之に應じ、久しく拒守せしが、
遂に降を乞ふに至り、其封を削りぬ、羽後の鳥海柵は即ち貞任の據り
し處にして、厨川の柵は遂に降伏せし處、羽前の米澤は上杉氏の移封
せられし地たり、勿來關は義家の馬を止めて和歌を詠せし處、今尙ほ
僅かに舊趾を存すといふ。

○第四章 北陸道誌

○位置及境界

位置及境界。東山道の北背に接し、西山陰道に界す、北方一帶は日本海
に面す、六國一島を包む。

○地勢

地勢。東山道の界は山岳重疊し、支派各國の境を繞る、海に面する地は
概ね低平にして、信濃川沿岸の地も亦平野遠く連れり、河流は悉く東
山道より來るか、或は兩道間の山脈より發し、皆北流して日本海に注ぐ。

○氣候

氣候。東南は山岳を負ひ、西北日本海に濱するを以て、氣候寒冷降雪甚
だしく、且つ北海の寒風甚だしきを以て、冬時は皆爐を擁して外出す
る者少なし、殊に高田邊は積雪簷を埋め、僅かに穴を穿ちて光線を導
くといふ。

○地味

地味。越後及び越前の低地は地味肥沃なれども、若狹能登は斥鹵其他
は肥瘠相半ばす。

○火山

火山。白山は加賀に在り、越前、飛驒に跨り、直立八千九百餘尺、本道第一
の高山たり、山上常に白雪を戴く、天文、中噴火せしことあり。
立山は越中の東南隅に峙ち、高さ五千餘尺、亦噴火山なり。

○河

越後の南境に妙高山あり、是れ亦噴火山とす。
河湖。信濃川は信濃より來り、國の中央を貫き、北海に注ぐ、長さ通じて
百餘里とす、下流は舟楫の便あり、阿賀川、岩代より來り、亦北海に注ぐ、
長さ四十五里とす。

越中の神通川は飛驒より來り富山を過ぎて海に入る、射水川亦飛驒より來り、伏木港に注ぐ、黒部川は東部を流れ海に入る、共に舟楫の便ありとす。

此外加賀に手取川あり、越前に日野川、九頭竜川あり。

湖の大なる者なし、若狭の三方湖、加賀の柴山湖等、其大なる者たり、共に周回三里に過ぎず。

○湖

瀑布及温泉。加賀に千仞瀑あり、高さ凡そ二百丈、本道第一の瀑布にして頗る壯觀とす。

○瀑布

此他越中の早乙女山中に稱名瀧あり、越後守門岳の麓に布引瀑あり。

○温泉

加賀能登、越中、越後、皆各所に温泉あり、各病を治するの効あるを以て浴客多しといふ。

○海岸

海岸。本道の各國は皆海に面す、然れども屈曲少なく、且つ北海の風浪

險惡なるを以て、良港と稱すべきは、僅かに二三のみ。

若狭は本道中最も海岸の屈曲多き國にして、小灣多し、小濱港、其中央にあり、北海を航する船舶多く、此に寄港す、造船所あり。

越前の西隅に立石崎あり、海中に斗出して一灣をなす、灣内敦賀港あり、鐵路相通じて水陸運送の便あり。

能登は北海に突出せる大半島にして、其端を珠洲岬と云ふ、燈臺を設く、七尾の入江は深く、陸地に灣入し、能登島其中央に在り、南岸に七尾港あり、人口凡そ一萬、船舶常に港内に碇泊す。

新潟は信濃川の河口に瀕し、北海の要港にして、五港の一なり、然れども信濃川年々泥沙を流すを以て、港内漸く淺く、大艦巨舶を容るゝ能はず、市街は商業繁盛にして、人口凡そ四萬五千、當時縣廳の在る所なり。

○險路

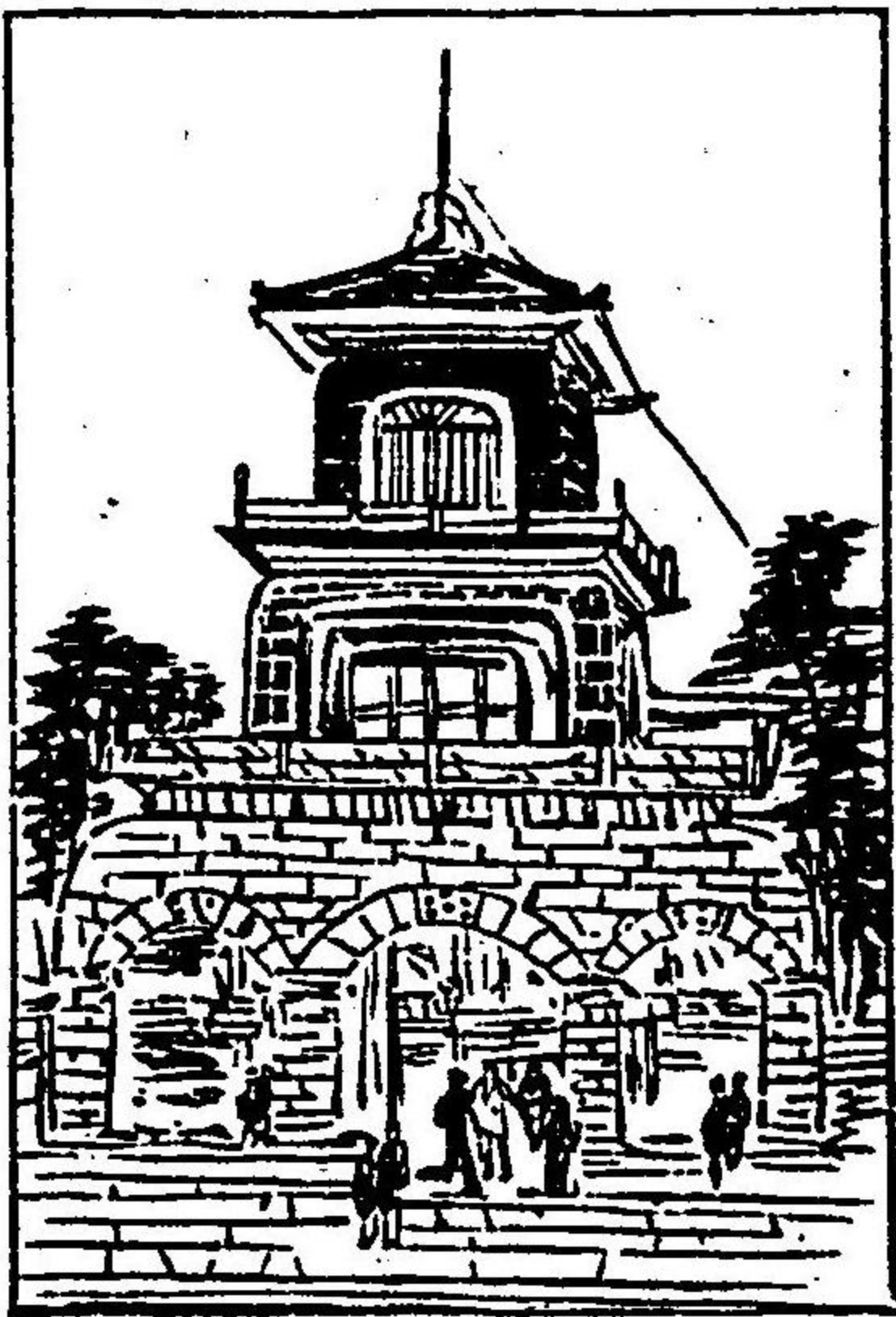
越後越中の相通する海岸に親不知の險あり、斷崖の間僅かに一條の

○都市

細路を通ず、激浪岸を打て來るときは倉忙として洞窟に避く、其危険なる親子相援くる能はざるを以て此名ありと云ふ。

都市。越前の福井は足羽川に跨り人口四萬餘、市街富豪多く商況亦繁華なり。當時縣廳の所在地たり。

金澤は加賀の東北に位し石川縣廳の在る所にして人口十萬餘、本道



第一の都會にして人家櫛比し市街殷賑なり、舊城は今師團の兵營たり、西北凡そ二里にして金石港あり、金澤と相通じて運輸の便あるを以て繁華なり、此他小松、大聖寺等あり。

富山は越中の中央に位し人口凡そ五萬餘、縣廳の在る所にして四方より要衝に當るを以て商況頗る繁盛なり。

○風俗及人情

此外越後の高田、新發田、師團分營の在る處、長岡、能登の輪島、越前の武生、越中の高岡、氷見、魚津、佐渡の相川等あり。

風俗及人情。本道の人は大抵淳朴、越前の都會に住する人は少しく浮華、其加賀は少しく固に近く、都會の人は巧慧なり、而して越後の人は少しく優暢の風を帶ふ、越中及び越後の人は遠く國を離れて行商を業とするもの多し。

○農産

物産。農産の重なるもの、内、米穀は越後を以て最とし、越中之に亞ぎ、藍は越中、越後及び若狹等より産し、苧及び麻は越中、越後より多く産し、若狹、越前亦之を産す。又越後よりは石腦油を産すること夥しとす。

○製造品

製造品には越前の蚊帳及び奉書紬、加賀の九谷焼、象眼細工、紙類、能登の輪島塗及び食鹽、越中の織物類、越後の紬織及び縮布、麻布等孰れも有名なりとす。

○水産

漁業の盛んなるは佐渡を最とし、加賀及び其他の諸國皆多少此業に従事せざるはなし、其主なるは鯛、鯉、鱒、鱈、海草類とす、

○礦産

佐渡は金坑最も名高く又牧蓄を業とする者あり牛馬を産す。

○史談

史談。上古は若狹及び佐渡島を除き總て之を越國と稱せしが後五國に分ちぬ。

若狹の小濱は細川清氏の據つて佐々木氏と權を争ひし處たり、越前の高向は弘計、億計二王暫く下りて民間に潛み給ひし處、其金崎は新田義顯、尊良親王を奉じて城に籠り足利高經の爲めに圍みを受けて城を枕にせし處、藤島は即ち義貞最期の地たり、姉川は朝倉義景の信長の爲めに敗れし處、家康に至り子結城秀康を此地に封じぬ、加賀は戰國の時上杉氏の領に歸し、後織田氏の領となり、其後前田氏の封せられし地たり、越中礪波山は平維盛等の義仲の爲めに敗績し、俱利伽谷に陥りしを以て有名なり、越後は戰國の時上杉謙信の兵を擧ぐる

處、四隣悉く其有に歸しぬ、關原役後徳川氏に歸せり、佐渡の孤島は順徳帝の蒙塵し給ひ、終に北海道荒く風凄き間に崩御し給ひし處にして、後日野資朝、高時の爲に流竄せられし處たり、後上杉氏に歸し、尋で徳川氏の領する所となり、天保年間佐渡奉行を置きて此島を管せり。

○第五章 南海道誌

○位置。本州の西南隅にある紀伊國と其西南に當る四國及び其中國に位せる淡路島とを以て成立す。

○境界。四國は西北、内海を隔て、山陽道に接し、東南太平洋に面し、紀伊國の北部は畿内、東北部は東海道に交はれり。

○地勢。紀伊の南方は高山起伏して西南に至るに従ひ、低地となる故を以て諸川皆東南西の三方に流る。

四國は山脈東西に亘りて地勢を南北に區別せり、諸川皆源を中央部

○氣候

に發し四方に流る、其海邊に接するの地は大抵低地なり、而して北方即ち内海の邊には無數の小島羅列せり。氣候。山陽道に比すれば一層温暖なりと雖も其山間に至りては却て寒冽の度高きに居る。

○地味

地味。低地は概ね肥沃にして能く果穀に適せりといふべし、山間は探礦樵獵を事とし低地は農商工及び漁を以て事とす。

○山岳

山岳。那智山、大塔山、八鬼山は共に紀伊にあり高野山は紀伊の西北に聳え高さ二千六百餘尺、巨剎を以て古より有名なり、即ち金剛峯寺是れなり。雲邊寺山は阿波に在りて伊豫讃岐に跨る、又劍山あり。象頭山、八栗山は共に讃岐にあり、象頭山は西北部に聳え山腹に琴平神社ありて其名著はれ、八栗山は山上の岩石五劍を樹つるか如き狀あるを以て、又五劍山の名あり北端に峙つ。

○河

石槌山は四國第一の高山にして、高さ六千四百七十餘尺、伊豫の東北端に位して土佐に跨る。

河湖。紀川は紀伊にありて其上流は大和の吉野川なり、西流して和歌浦に注ぐ。

熊野川又紀伊にありて其上流は河内の十津川なり、國の南隅より東北に流れ熊野浦に入る。

日高川、在田川共に又紀伊にあり、何れも舟楫の便少なからず。

吉野川は土佐の山間に發源し、東に流れ阿波を横斷して海に注ぐ、長さ六十餘里、本道第一の長流たり。

那賀川は阿波の山間より發して紀伊海に注ぎ、四萬十川は土佐に發し、仁淀川は伊豫に發して土佐に入り、物部川又土佐の東部に發し、何れも土佐灣に注ぐ。

肱川は伊豫にありて西南に流れ内海に入る。

○沼湖

本道に於ては沼湖の著大なるものなく唯讚岐の北條池は周回三里餘あり、其他阿波の海老沼、伊豫の鹿子池、讚岐の神内池、松尾池等あれども皆周回一里内外なり、而して讚岐は尙ほ數多の沼池を有せり。瀑布及温泉。那智瀧は那智山中にありて高さ八十四丈幅十八間、日本第一の大瀑布とす、熊野浦を航する時遙かに山間白布の如く見ゆるものは即ち是れなり、此の外此山中には尙ほ三四十の瀧ありといふ。高瀧は伊豫の千足山中にあり、高さ百三十丈幅五十間、又一大奇觀たり。

○瀑布

○温泉

湯崎の温泉は紀伊にありて又瀬戸崎ともいふ、風景宜しきを以て浴客毎歲一萬を超ゆといふ、古は牟婁の温泉と稱し、持統帝の浴し給ひし處なり。道後の温泉は伊豫松山の東方にあり、通路宜しきを以て浴客殊に多く、毎歲七十萬人の多きに達すといふ、今を距る一千有餘年より其名

高く天智帝の浴し給へる處なりとか。

○海岸

海岸。紀伊に大島田邊、加太、由良、有田等の諸港、四國に撫養、津田、丸龜、多度津、高松、志度、浦宇和島、三津、今治、浦戸、須崎、下田、清水等の諸港あり。

○海峽

大島港は南海に在りて第一の良港たり、丸龜港は讚岐にあり、多度津又讚岐にありて大坂馬關の往復船の碇泊する要路なるを以て頗る盛大なり、浦戸港は土佐にありて其龍頭岬に燈臺あり。海峽は由良海峽(又昔島海峽といふ)及び鳴門海峽とあり、由良海峽は淡路と紀伊の友ヶ島との間にあり、鳴門海峽は淡路と阿波との間にありて大鳴門小鳴門の稱あり、乃ち海流の通りて大小二個の渦を爲すより名づけらる、航路甚だ困難にして古來より船の害を蒙ふること甚なからず。

○岬崎

江崎は淡路の北方にありて燈臺あり、由良海峽を照らす、室戸岬は土佐の東南に、蹉陀岬は西南にありて、兩岬相擁して一大灣をなす、即ち

土佐灣是れなり。

三崎は讃岐にあり海中に突出すること殆んど三里遙かに伊豫の大島と相對せり、佐田岬は伊豫の西端に突出すること十五里に及び、以て遙かに豊後の地蔵崎と相對せり、此二岬は本道に於ての最も長きものなり。

浦生田岬は阿波に在りて其近傍岩礁甚だ多し、航海者の最も注意すべき所とす。

比井岬は紀伊にありて紀伊海に突出し、潮岬其南端にあり、而して潮岬、友島、檜野浦に各燈臺ありて熊野浦を照らせり、熊野浦は紀伊の東南海にして伊勢の海より鳴門海峡に連る一帯の稱なり、又伊豫の西北に當りて内海の西口にありて海を硫黄灘と稱す。

都市。和歌山は紀伊に在りて北紀川を控へ南和歌浦に接し、人口五萬七千、和歌山縣廳の所在地にして商業の繁盛なること本道第一たり、

○都市

近時盛んに綿フランネルを製出す所謂紀州ネル是れなり。

徳島は徳島縣廳所在の地にして阿波吉野川の南岸にあり、人口五萬八千、水陸の運輸自在にして四國第一の大都會なり。

高知は土佐にあり、又高知縣廳の所在地にして南海岸の中央に位し、人口四萬二千あり。

松山は伊豫にありて愛媛縣廳所在の地たり、又師團の分營あり、交通貿易甚だ盛んにして人口三萬四千あり。

其外紀伊に新宮、讃岐に丸龜、伊豫に宇和島、今治、土佐に中村等の都邑あり。

○勝地

勝地。紀伊國は名所古蹟に富めり、和歌浦は和歌山の西方一帯の海岸にして風光明眉最も歌人の愛する所となる、聖武帝行幸ありて、光明浦の名を賜へりといふ、實に我か邦三景に亞ぐの勝地とす、高野山の金剛峯寺は僧空海の眞言宗を唱へ始めたる巨寺を以て著はれ、其他

熊野神社、道成寺、三井寺、粉河寺等も亦有名なり。
讚岐の象頭山は琴比羅神社を以て其名夙に著しく賽するもの今尙
は陸續たり、屋島は高松の東方一里許にありて半島たり、源平の古戦
場を以て著はる。

○風俗及
人情

風俗及人情。概ね敦厚の風あれども土佐の人は少しく武健なり、阿波
讚岐の人は又少しく寛裕なるの點あり、而して紀伊の人は商機を見
るに敏し。

○物産
○農産海
産

物産。農業物は紀伊の密柑、材木等にして海産には紀伊、土佐の鯨、及び
土佐の鯉節、珊瑚あり。

○製造品

製造品には紀伊の高野紙、雲齋織、淡路の綿布、漆器、陶器、阿波の藍玉、讚
岐の砂糖、食鹽、伊豫の織物、土佐の半紙等にして其砂糖の製出高は本
邦第一の高位を占むるといふ。

○礦産

礦産には紀伊、阿波、讚岐に石炭あり、伊豫、土佐にアンチモニーあり、且

○史談

伊豫に蠟石、温石を出し、淡路に陶土を出す。

史談。本道は上古四國なりしが文武帝の時、紀伊、淡路を合せて六國と
なれり。

紀伊は孝靈帝の朝、秦人徐福なるもの此土に來りしことあり、南北朝
に至りて龍門山、銀嶽其戰地となりし以來、山名氏、大内氏、畠山氏交之
を領し、豊臣氏に至りて根來寺の僧徒、猖獗を極めし際、秀吉の征討あ
り、徳川氏頼宣を此地に封せしより、爾來其子孫の領する所となり、維
新に至りて現今の政治に復せり。

淡路は惠美押勝の亂に孝謙帝、淳仁を廢して淡路廢帝となし、此地に
遷し給へり。

阿波は承久の亂に土御門帝、土佐より更らに遷行し給ひし行宮跡たり。
讚岐は保元の亂に崇徳帝の遷行し給ひ、數年の後崩御し給ひし處に、
して、又平氏の末路に至り、其北海濱の屋島に安徳帝の行宮を營みし

ことあり、其福原の皇居と稱するものは何れの邊なりしか、未だ詳ならずといふ。

伊豫は天慶の亂に藤原純友兵を擧げて將門に應せし地なり、當時勢ひ鋭く、南海、山陽を掠略せしが尋で誅せられたり。

土佐の灣は天武帝の朝、四國大震ありし時、其邊岸爲めに陥没して此灣を爲すに至れりといふ、承久の亂に土御門帝の遷行し給ひし所なれども、尋で阿波に遷幸せられたり、天正年間に至り、長曾我部元親此地を占領して其勢日々に盛んに、終に四國を攻略して自ら四國の主稱とせしが、秀吉の征討に事平ぐるに至れり。

○第六章 山陰道誌。

○位置

位置。本州の西端に延長したる北部にして八國より成る。

○境界

境界。東は畿内、東山、北陸の三道に接し、南は中國山脈を以て山陽道に

○地勢

依附し、北方一帶日本海に面せり。

地勢。南境一體中國山脈を負ふるを以て漸次北方に低く諸川皆源を此山脈に發して北方日本海に注ぐ、而して丹波のみ海に接せず、他は皆一方乃至二方海岸を有せり、獨り隱岐は絶海の孤島たり。

○氣候

氣候。南方山を以て閉ぢ北方に開くを以て、西北及東北の風烈しく氣候甚だ寒冽なり、冬期山間の如きは雪積殊に甚し、概するに北陸地方と略ぼ相等しとす。

○地味

地味。一般に瘠薄の地なるを以て、採礦、樵獵に従事するもの多し、但し伯耆の西北部及び出雲は地味少しく肥えたるを以て、農業を事とするものあり、又西南部は工業に、海岸は漁業に従事す。

○山岳

山岳。大江山は丹波の北境にありて高さ三千七百餘尺あり。大山は伯耆の西南にありて高さ五千八百八十尺、本道第一の高山なり。

○河

三瓶山は石見出雲に跨り、高さ三千八百七十尺あり。
其他氷山は因幡但馬の境に跨り、由良嶽丹後にありて丹後富士の稱あり、概するに本道は中國山脈の蜿蜒たるに比して高山至て甚なし。
河湖。保津川は發源二あり、一は丹波に、一は山城に發し、合して大堰川となり、山城に入りて桂川となり、以て淀川に注ぐ、長さ五十五里餘、本道の第一長流たり。

由良川は丹波に發して丹後を經、由良港に注ぐ、長さ三十里にして舟楫の便あり。

石見川は長さ五十里にして、下流二十里は舟楫の便あり、本道第一の巨流とす、其源を石見と山陽道の安藝との國境に發し、一たび山陽道の備後に迂流し、再び石見に入りて日本海に注ぐ。

其他石見に高津川、出雲に大川、神門川、伯耆に日野川、因幡に千代川、但馬に朝來川等あり、何れも二十里乃至十二三里の流にして舟楫の

便灌漑の利あり。

○湖

中海は出雲伯耆の海濱にありて、一方海に通じ、周回十六里半あり、湖山池は因幡にありて、池の中央に青島と稱する小島あり、周回三里二十町、即ち千代川の支源たり、其他出雲の宍道湖、周回十三里、神西湖、周回一里、伯耆の東郷池、周回二里等あり。

瀑布及温泉。布引瀧は丹波にありて高さ二百七十丈、幅五間あり、又深山瀧といふものあり、當時は涸れて其形なきも、一朝降雨に會すれば奔激して一瀑布を爲し、一奇觀たり、猿尾瀧は但馬の妙見山中にありて高さ三十丈、又天瀑は同じく筏村の山中にありて四十餘丈の高ありといふ。

温泉の數多く、其重なるものは、丹波に木津泉、但馬に湯島湯、伯耆に三朝山、山田引地、出雲に玉造、牛尾三澤、因幡に吉岡湯、石見に有福湯等ありて、何れも有名なりとす。

○温泉

○瀑布

○海岸

海岸。舞鶴宮津の二港は共に丹後にあり、宮津港は昔より繁盛を極め、北海航行の船皆茲に碇泊せり、當地港内に燈臺を設く、其他但馬の諸寄港、伯耆の境浦港、隱岐の西郷港等皆北海の要港たり。

○岬

經岬は丹波にありて近傍岩礁甚だ多く、本道第一の大岬とす、成生岬、黑崎、熊崎等皆丹後にあり。

○海

地藏岬は出雲美保關の東方にあり舟行尤も危し。與謝海は丹後にありて成生岬、熊崎の間を云ふ。米子浦は伯耆に、大浦は石見にありて、美保關は出雲にあり、茲に燈臺を設く。

○島嶼

本道の海岸は總て屈曲の度少なく著大なるものなし。冠島、小島、毛島等は丹後に屬し、津居山島は但馬に、大根島は出雲に、高島は石見に屬す、而して大根島其大なるものにして、周回三里餘あり。

○都市

都市。丹波に龜山、福知山、篠山、綾部、柏原等あり、稍繁昌なる市街とす、何

れも人口七千に過ぎず。

丹後の市邑は宮津、舞鶴を其大なるものとす、何れも船舶輻輳して甚だ盛んなり、其他國の西北部に當て峰山の市街あり。

但馬の豊岡、出石、生野は共に一商地にして殊に生野は銀鐵を以て名あり、何れも人口七千に過ぎず。

鳥取は因幡にあり人口三萬六千餘、本道街路の衝に當りて繁盛に、鳥取縣廳所在の地なり、其他此國には賀露、潮津等の市邑あり。

伯耆には米子、境の二邑其大なるものにして何れも沿岸にあるを以て船の便あり。

松江は出雲宍道湖の東岸にありて、島根縣廳の在る處、人口三萬七千、本道第一の大市邑とす、其他出雲には杵築、平田、廣瀬、安來等の名邑あり。

石見に濱田、津和野の二邑あり、國中第一の商區とす。

○勝地



を以て有名なり。

生野は但馬にあり、其銀鑛を以て著はる、往昔小式部内侍以上の三勝區を借りて、大江山生野の道の遠はけれどまだふみもみず天の橋立と詠まれたる歌は既に世人の膾炙する所なり。

隠岐は出雲より北二十七海里を距つる處にありて、四島より成れり其最大なる市街を西郷とす良港なり。
勝地。天橋立は丹後にありて我が邦三景の一たり、與謝海に突出すること二十七町幅三十二間の沙洲たり、青松一帶其上に繁茂して海水と相映じ風景絶美なりとす。
大江山又丹後にありて酒頼童子の談柄

○風俗及人情

出雲、杵築は出雲大社あるを以て其名夙に著はる、官幣大社にして大國主神を祀れり。

其他出雲の美保關、石見の高角山、床浦は共に勝地たり。

風俗及人情。本道は中國山脈の險峻の爲めに交通開けざるを以て、往古より智識を他に求めず、故を以て民俗概して質樸温直の風あり、而して丹波、丹後は最も此風あり、但馬は古風未だ脱せず、全くの淳朴にして出雲は少しく溫柔なり。

○物産

○農産

物産。農産の著名なるものは、丹波の煙草、牛、繭、生絲、茶、栗、柿、薪炭、丹後の牛、繭、但馬の牛、蠶絲、麻、因幡の牛、藍、茶、伯耆の綿花、烟草、藍、甘藷、牛、馬、家禽、出雲の米、麥、棉花、人參、麻、密柑、牛、馬、石見の牛、麻、楮とす、隠岐は土地薄瘠なるを以て農産を出さず。

○製造品

製造品には、丹後に縮緬、紬あり、但馬に陶器、柳行李、紙あり、伯耆に陶器、瓦、飛白地あり、出雲に陶器、石見に陶器、瓦、紙等あり。

○水産

水産には丹後の乾魚、海草類、因幡の白珊瑚尤も名高く、出雲の海苔、鯛、鯖、烏賊、乾鰯、松江鱈、隠岐の鯖、鱈、鰯等其名高く、概して沿海の地は漁業盛んなり。

○礦産

礦産には銅坑、丹波、丹後、伯耆、出雲、石見にありて銅を出し、銀坑には但馬の生野全國に著はれ、石炭坑は出雲にあり、其他金、砥、鐵、滑石、水晶、石材等各地に産す。

○史談

史談。丹後は元明帝の和銅年中丹波の五郡を割きて置かれたる國なり。

但馬の生野は徳川氏の季年諸國の士尊王攘夷の説を唱へて兵を集め根據となせし處なり。

後醍醐帝、足利高時の反亂に際し隠岐に遷行し給ふに及び、潛かに出で、伯耆に幸し給ふ、時に本國の人名和長年一族を擧げて勤王し、帝を船上山に奉じて以て四方勤王の士を招ぎ、且つ賊を討ち敗り帝を

して京都に還幸し奉らせし有名の國なりとす、船上山は大山の北にあり。

出雲國は本道中史談に富むの最たり、乃ち神代に於て既に大己貴命此國を鎮し以て四方を征服し給へり、又素盞鳴尊嘗て天祖の怒りを受け、逐はれて此國に來り給ふや、笹上川の上に於て八頭蛇を斬り寶劍を得給ひしことあり、毛利元就、尼子氏を此國の富田に圍むこと七年に及びしことあり、其他戰國時代に於て戰區となりしこと屢なりとす。

隠岐は至尊の遷幸し給ふを以て著はる、承久の亂に京都の軍大に破れ北條氏悖逆の爲めに後鳥羽帝此國に遷幸し給ひ、數年の後崩御し給ふ、其中、島に帝の陵廟尙は存せり、元弘中北條高時反して後醍醐帝を此地に遷し奉れり、然れども其翌年帝潛かに出で、伯耆に行幸し給へり、其西、島に帝の黒木御所の宮趾あり。

○第七章 山陽道誌

○位置及境界

位置及境界 本道は山陰道の南に位し、北方一帯中國山脈を以て山陰道に界し、南は内海に臨みて四國九州と相對し、東隅畿内の攝津に連り、西北の一隅日本海に面せり。

○地勢

地勢 北方一帯、中國山脈を控ゆるを以て漸次南方に低く、諸川多く此山脈に發して内海に注ぐ而して本道の各國皆一面乃至二面海に瀕するも獨り美作のみは陸地を以て四圍となす。

○氣候

氣候 地勢、山陰と反對せるを以て、本道の南岸は概して温和にして冬間積雪少なく且つ強風なし、然れども北方の山地及び日本海に接する長門の北部は寒冷積雪山陰に等し。

○地味

地味 長門の東北部及安藝を除くの外は大抵肥沃にして田圃開けり、故に農業に従事するもの最も多く商業に従事するもの之に次げり、

○山岳

沿岸の地は大抵漁業に従事す、且つ製鹽事業に至りては最も盛大を以て、我が邦最第一の盛地たり、北部の山間に至りては採礦と製絲との事業に従事するもの多し。

山岳 本道は山岳の著しきものなしとす、雪彦山、笠形山は共に播磨の北部にありて高さ又共に三千四百餘尺あり、西部に白旗山あり、熊山は備前にありて高さ一千七百餘尺あり、其他那岐山、美作の東北隅に峙ち、蛭山、美作と山陰の伯耆との界に跨り、赤灘山、劍山は共に備中に發えり。

御神山、備中の中央に兀立し、高からざるも奇岩怪石の山中に多く、彼の帝釋の神橋と稱せる石を以て成せる天然の橋の如きは、最も其奇を極めたるものとす。

○河

河 西大川又旭川と稱す、源を美作に發して備前を流れ内海に入る、其長さ三十七里餘あり、川中岩石出沒せるを以て水勢相打ち奔激し

て頗る奇観なり。

東大川は發源、經過、注入、何れも西大川に等し、而して其長さ三十里。河邊川は備中の巨流にして内海に注ぎ、加古川丹波より來りて播磨を過ぎ内海に注ぐ、又瀧野川の稱あり、此二川共に二十八里の長流なり。岩國川は周防にあり、末流二となり共に内海に注ぐ、長さ二十四里之に架せる錦帯橋は古來より有名なれども、現時其觀大に衰微せりといふ。大田川又八木川といふ、長さ二十三里は安藝にありて末流數派となり共に内海に入る、其他揖保川、千種川、長さ共に十五里、共に播磨に發源し、瀬戸内海に注ぎ、廣瀬川、長さ十四里、長門にあり、其小川に至りては尙は數十流ありとす。

長門の常盤池は周回三里あり、備前の大池、周防の長澤池、何れも周回

○湖

一里に過ぎず。

瀑布及温泉。本道瀑布の最も著はるゝものを備後の那智瀧とす、其高さ六十五丈幅一間あり、之に次ぎて其奇觀を極むるものを常青瀑となす、又備後にあり、其直下三層を爲すを以て名あり、乃ち高さ上層十二丈、中層二十三丈、下層七丈、幅何れも六間あり。其他美作に、神庭瀑(高さ三十六丈幅八間)、岩井瀑(高さ百八十丈幅四間)あり、安藝に二河雄瀑、雌瀑(高さ十八丈と二十四丈)あり、播磨に大田瀧(高さ三十丈幅三間)あり。温泉又數なからず、其著しきものは播磨に瀧、湯、湯谷、美作に湯、郷、湯原、奥津、備前に三石、備中に高末、上熊谷、備後に矢野、油木、安藝に、有留、湯山、周防及び長門に、各湯本と稱するありて、何れも浴客甚だ多しと云ふ。海岸。良港多く、其概要を擧ぐれば、明石港、坂越港、室津港以上播磨、日比港、大多府港以上備前、玉島港、笠岡港以上備中、尾道港、鞆津港以上備後。

○瀑布

○温泉

○海岸

○海峡

吳港(安藝)三田尻(港)周防(赤間)關(長門)等ありて赤間關は又下關とも稱し其繁盛五港に亞ぐ常に外航の要路に當るを以て船舶輻輳せり、吳港は海軍鎮守府の所在地なるを以て又繁榮なり。燈臺は長門の六連島、鞆津、明石、大多府、笠岡に設けらる。赤間關海峡は長門と九州の豊前との間にして、其東方の口を速鞆、瀬戸といふ航路最も危ふし。明石海峡は明石港と淡路との間にして、隠戸、海峡は安藝と瀬戸島との間をいひ、大島海峡は周防と大島との間をいふ、此海峡亦舟行甚だ危険なりとす。

○岬

岬の有名なるものを長門の川尻岬、高山岬、共に北海岸にあり、周防の赤石崎、安藝の石瀬崎、備後の阿武兔崎等とす。

○島嶼

本道は附屬の小島甚だ多し、今其有名なるものゝみを列擧すべし。播磨に屬するものを西島(周回五里)、家島(同四里)とす。

備前に屬するものを鹿久居島(周回七里)、長島(同四里)とす。

備中に屬するものを北木島(周回五里)、神島(同四里)とす。

備後に屬するものを因島(周回十里)、向島(同七里)、田島(同四里)とす。

安藝に屬するものを倉橋島(周回二十五里)、能美島(同十五里)、大崎上島

(同十二里)、江田島(同八里)、嚴島(同七里)、生口島(同上)、大崎下島(同六里)とす。

周防に屬するものを屋代島(又大島ともいふ)、周回三十里、上關島、笠戸

島各同九里、平群島(同七里)、屋島、大津島(同各四里)とす。

長門に屬するものを青海島(周回九里)、見島(同四里)とす。

以上は周回四里以上の有名なるものゝみにして各人口一千以上を有せり、三里以下の者其數を擧ぐるに違なしとす。

○都市

都市。播磨には南部の海濱に姫路市あり、人口二萬五千、國中第一の繁華地とす、東端の海濱に明石あり、人口一萬八千、名勝の一に數へらる、此外赤穂、室津、飾磨、大鹽、高洲の諸港及び龍野等あり。

美作には中央に津山あり人口一萬五千、津山川に沿ふ足袋の製出を以て有名なり、其他倉敷、久世等の小邑あり。

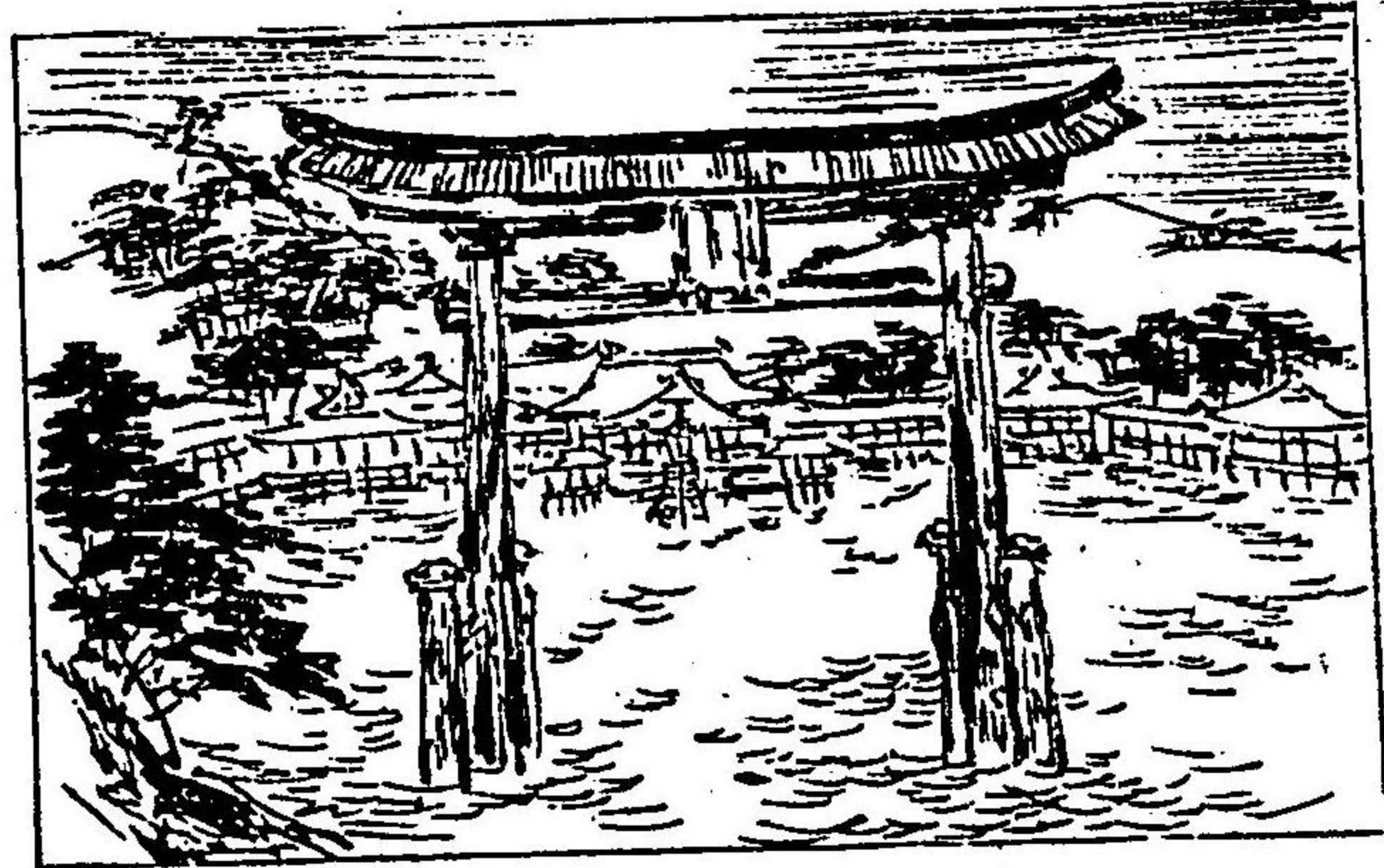
備前には西南隅岡山川の沿岸に岡山市あり、岡山縣廳所在の地にして人口四萬三千、水陸の運共に便且つ盛なりとす、其他南部に西大寺、牛窓港、虫明港等の名邑あり。

備中には中部に高梁あり、海岸に笠岡玉島あり、東南隅に倉敷あり、何れも五千乃至七千の人口を有す。

備後には、東南海岸に福山あり、人口一萬五千、又福山の西五里の海濱に尾道あり、人口一萬七千、共に國の繁盛地たり、其他鞆津、三原等の名邑あり。

安藝には南岸の大灣に広島市あり、人口八萬四千、本道第一の都市たり、広島縣廳及び第五師團の營所地とす、広島市の東南岸に吳港あり、其前面の江田島に海軍兵學校を設く、又東北部に吉田の有邑あり。

○勝地



第二編各道誌○第七章山陽道誌

周防には西境の平野に山口あり、人口一萬一千、山口縣廳所在の地たり、南岸に徳山あり、人口一萬、東岸に岩國あり、又一萬の人口を有す。

長門には西南岸に赤間關あり、人口三萬二千、赤間關海峽に臨み九州豊前の小倉と僅かに五町餘を隔てり、又北岸に萩あり、人口二萬とす、南部に小田野工業地あり、硝子、硫酸等の製造に従事し、日に月に繁盛に赴く。

勝地。嚴島は安藝に屬する島にして、周回七ヶの小灣あり、各神社を祀る、其本社は市杵島姫を祀り、社殿壯麗にして、満潮に際すれば、殿廊漂搖恰も水上に浮ぶに異ならず、且斷崖奇岩の間に青松繁茂し、其

眺望言語筆紙に盡す能はず、是れ我が國三景の一なり、而して宮殿は平清盛の建營する所にして後毛利元就之を修繕せりといふ。

播磨は最も勝地に富めり、舞子濱は白沙青松を以て、高砂は高砂松或は相生松を以て著はれ、其他明石、須磨、浦石、賣殿あり、此賣殿は御影石より成り、周圍に凹所ありて水を貯へ早するも涸れずといふを以て名あり、以上は共に古來より其名高く、韻士雅客の杖を曳くもの今に陸續たり。

錦帯橋は周防岩國川に架せる橋にして長さ百十間、俗に算盤橋と稱ふとかや、此橋の奇觀とする所は即ち一の支柱なきにありといふ。長門壇浦は源平の古戰場を以て著はる。

○風俗及人情

風俗及人情 本道の人民は概言せば慧敏なりとす、其東部は京坂地方に化せられ多く新奇を好み、中部は質朴頑陋の風を脱せず、西北部は淳朴なり、而して備前は少しく輕薄、安藝亦少しく優柔の傾あるが

如し。

○物産

○農産

物産 農産には播磨本道中の最肥沃なるを以て米は殊に良種のもの、を産す、其外麥、茶、繭、牛あり、美作は煙草多く綿花、甘藷、茶、牛あり、備前は米、麥、烟草、綿花、牛あり、備中は綿花多く、蘭麥、烟草、藍、牛、馬あり、備後は烟草、綿花、麻、藍、牛あり、安藝は備後に同じく且つ甘藷あり、周防は茶、牛、長門は單に牛のみなり。

○製造品

製造品には播磨は、明石縮、龍野醬油、姫路革、紙等最も著しく、美作は綿布を出し、殊に雲齋織名あり、備前は綿糸、綿織、陶器、疊表、醬油を産し、備中は綿糸、疊表、紙を出し、備後は備後表、吳産、雁皮紙、織物等を出し、鞆津の保命酒世に著名なり、安藝は紙、疊表、綿糸、綿織を出し、周防は岩國の紙及び綿織、大島の縮木綿最も著るしく、長門は紙及び鹿子絞名あり。水産には播磨の鹽及章魚、備前の鹽、備中の鰻、備後の鹽、章魚、鯛、烏賊、鰯、海苔、安藝の牡蠣、鰻、鯛、章魚、烏賊、海苔、周防、長門の魚油、章魚、烏賊、鰯、鰻、鰯。

○水産

○礦産

鑛等を以て其著名なるものとす。

鑛産には銅坑の播磨、美作、備前、安藝、周防、長門の諸國にあるありて銅を出し、鐵坑も亦各國にあれば、安藝を以て第一とす、即ち一年の採出二百萬貫なりといふ、美作之に亞ぎ又七十萬貫を出すと、石炭坑は、備前、周防、長門にありて、其採掘少なからず、其外播磨の蠟石、美作の硯材、砥、石英、備前の綠礬、蠟石、備中の鉛、綠礬、石絨、備後の蠟石、生銀、石絨、安藝の金、周防のアンチモニー、錫、寒水石、長門の硯材、セメント等あり。

○史談

史談。明石は播磨にあり、雄略帝嘗て事を以て、市邊押磐皇子を殺し給

ふ時、其子億計、弘計の二王逃れて茲に匿れ、後數年を経て、清寧帝迎へて宮中に入れ、共に帝位に即けり、顯宗、仁賢の兩帝是れなり。

建武中興に赤松則村勤王の功を以て播磨の守護に任せられたり、尋で足利尊氏反するに及び、則村亦反せしかば、新田義貞之を白旗城に圍めり。

赤穂は淺野長矩の城趾あり、元祿中長矩江戸に在りて吉良義英を營中に傷け死を賜はる、其遺臣大石良雄四十六人の義士を糾合し、義英を江戸の邸に擊ちて復仇す、長矩及び四十七士の墳墓今尙ほ東京高輪泉岳寺内に歴然たり。

上古は備前、備中、備後を總稱して吉備と云へり、中古に至り始めて三國に分つ、又和銅年中備前の六郡を割きて以て美作の國を置けり。美作に院庄あり、歴史上の古趾たり。

兒島は備前にあり、源範頼平氏の餘兵を此に擊つや、屬將佐々木盛綱密に淺處を漁夫に問ひ之を殺し、其口を滅し以て獨り功を立てし處たり、後浮田氏秀吉の命を以て此に城けり。

岡山は又備前にあり、池田氏の城趾を存す、常山又歴史上の古趾たり、備中の水島は壽永中源義仲平氏と戰ひて敗績せし處、豊臣秀吉、織田信長の命を受け、毛利氏を擊つや、此國に來りて高松城を水を以て攻

め城兵大に苦しめり、城既に陥いらんとするや、會、信長の訃音に接し、毛利氏と和して河邊川(又甲部川)を界として其領地を定めて去る、倉敷は徳川氏の末年戦區となれり。

戦國の時陶晴賢、大内義隆を弑し、勢を以て長州、防州を領し進みて安藝に入り、嚴島に陣す、毛利元就、大内氏の爲めに義兵を擧げ、風雨の夜に乗じて晴賢を撃ち大に之を敗り且之を斬る。

山口は周防にありて毛利氏の城趾たり、戦國の時本道の國大抵毛利氏の領する所となり、其勢甚だ盛なりし。

長門は上古之を穴門と稱せり、仲哀帝の朝、筑紫の熊襲反するや、帝親征し行宮を豊浦に建て以て士卒に號令し給ひしが終に茲に崩御し給へり、文治中平氏八島に敗るゝや逃れて此國に至り已にして壇浦に源義経等と戦ひ平軍敗績、安德帝崩御し給ひ平氏一族悉く溺れて亡ぶ、北條氏執政の代に中國探題を此國に置き以て長門探題と稱せ

り、徳川氏の季年毛利氏尊王攘夷に熱心に且つ詔を以て外艦を赤間關に砲撃せり、尋で各國の兵艦來りて先きの暴行を責む、毛利又之と同所に大に戦ひ利あらず、遂に和するに至れり、幕府大軍を發し嘗て毛利氏の闕を犯すの罪を責む、長州征伐なるもの是れなり、毛利氏堅く國境を守り幕兵終に利あらずして退く。

○第八章 西海道誌

○位置及境界

位置及境界。本道は我が邦の西南端に位し九州及び壹岐、對馬の二小島國及び琉球諸島等の總稱にして東は豊後海峽を隔て、四國に對し、北は赤間、關海峽を隔て、山陽道と相對し、西北は日本海に瀕して遙かに朝鮮の南岸を望むべし、南は總て太平洋に面せり。

地勢。本道は南北長く東西短く、其北端の對馬より西南に彎曲するごとく、殆んど四百餘里に至る。

○地勢

九州は筑後川下流の兩傍及び肥後の西北部は一般に低地にして他は至る所、山脈起伏す諸川又四方に流れ低地は洪水の憂ありとす、其海岸の如き東岸一體は屈曲なく且つ屬島至つて少なきも西岸より南方に至りては全く之に反し屈曲甚しく従て半島岬灣夥多に屬島又甚だ多しとす。

○氣候

氣候。概して四國に等しけれども南方に進むに従て漸次其温度を高む。

○地味

地味。低地は皆肥沃にして耕作に適せり、就中筑後川の西方及び肥後は其最たるものなり、山地木材に富み唯對馬のみ薄瘠たり、其生業に至りては商業、農業、工業何れも皆盛なりといふべし。

○山岳

山岳。筑前には寶滿山殆んど國の中央に峙ちて高さ二千尺餘、其山脈は肥前の境をなせり、此國は東に筑紫山脈南に肥前山脈を控む。筑後には高良山、御前嶽あり。

豊前には英彦山あり、又彦山とも稱す、國の西南隅にありて高さ三百餘尺あり。

豊後には黒岳西南隅にありて、高さ六千七百尺あり、此山の西に當りて大船山あり高さ二千七百尺あり、又黒岳の西南肥後に跨るものを扇鼻山とす高さ四千六百尺、又國の南方日向に境して祖母嶽あり高さ五千八百尺とす。

涌蓋山は高さ四千八百尺ありて肥後の東北部にあり。日向には南部に小松山あり高さ四千尺中央に法華岳あり高さ三千六百尺とす。

紫尾山は薩摩の北方にありて高さ殆んど五千尺あり。本道は火山脈多きを以て活火山少なきも休火山甚だ多し、其重なるものを擧ぐれば。

肥後に阿蘇山あり東北部に聳へて高さ六千二百五十尺今尙は噴烟

○火山

せり。
日向に霧島あり高さ五千三百尺國の西南に位す。
豊後に鶴見山あり高さ六千尺肥前島原半島に温泉岳あり高さ四千九百尺大隅の櫻島に櫻島岳あり薩摩の南部に開間山あり共に高さ三千尺あり。

○河

河湖 筑後川は其源二あり一は豊後に一は肥後に發し豊後の西部に於て合し筑後の北境を過ぎて筑紫海に注ぐ其間數多の小流を合す長さ三十五里餘乃ち本道第一の大川とす而して千年川及び筑紫二郎利根の阪東太郎吉野川の四國三郎に比すの別名あり。
川内川は長さ四十六里本道第一長流とす源を日向に發し大隅薩摩を過ぎて薩摩の西海岸に注ぐ。

其他豊後に大分川(長さ十三里)大野川(長さ三十四里)日田川(筑後川の上流)肥後に菊池川(長さ十九里)白川(緑川)長さ二十一里球摩川(著名の

○湖

急流)日向に大淀川一瀬川美々津川五箇瀬川(何れも長さ三十里許)筑前に遠賀川(長さ十三里)あり。
池田湖は薩摩にありて周回五里許あり鴨生田池は筑前にありて周回三里餘大浪池は大隅にありて周回二里許あり。
其他筑前の大池大牟田池豊前の小倉池肥後の立岡池日向の御池等あるも皆周回一里内外にして本道は實に湖沼の大なるものに乏し。

○瀑布

瀑布及温泉 瀑布の有名なるもの左の如し。

千丈瀑 筑前にあり高六十丈幅三間餘。

白水瀑 肥後にあり高四十丈幅七間(筑摩川の上流にあり)

清水瀑 肥前にあり高三十五丈幅七間。

松轟瀑 薩摩にあり高十八丈。

椎谷瀑 豊前にあり東西に分つ各高十餘丈幅五間。

本道は火山脈に富めるを以て温泉又從つて多く阿蘇山中に其著名

○温泉

のものゝみ十二三あり以て其多數を推知すべし。
筑前の武蔵(天拜山下)吉井(椎原)の諸温泉、筑後の船古屋(冷泉)、豊後の別府、濱洲の二温泉、肥前の柄崎(礦泉)、肥後の山鹿(礦泉)、大隅の福山(宮下湯)、尾硫(黃谷)の諸泉、薩摩の湯浦(金花)の二泉等は其著名なるものにして何れも浴客多しとす。

○海岸

○港

海岸。長崎港は我が國五港の一にして肥前にあり、其港口の伊王島に燈臺を設く、外國と互市をなせしは抑此を以て始とす。
筑前に博多港、洲崎に燈臺あり、若松港あり、筑後に若津港あり、肥前に島原港、佐世保港(海軍鎮守府あり)、唐津港あり、薩摩に鹿兒島港、山川港ありて皆九州の西海岸にありて繁盛を極む。
鹿兒島灣は大隅薩摩の兩國内にあり。
肥後の天草島と肥前の野母崎との間を天草灘と稱す、而して早瀬海峽は其東にありて筑紫海は此海峽の内海をいふ。

○灣

○海峽

速柄海峽は豊前と山陽の長門との間にあり。
速吸海峽は舟行の最も難き所にして豊後の地藏岬と伊豫の佐田岬との間にあり。

○岬

速柄岬は豊前の北隅にありて又門司崎の名あり。
部崎は門司崎の東にありて燈臺を設く。
地藏崎は豊後にありて伊豫の佐田岬と對す。
其外筑前に鐘岬、大隅に佐多岬(燈臺あり)あり。
今左に屬島の重なるものを列擧すべし、但し壹岐、對馬は後に於て記すべきを以て茲に省けり。

○島嶼

筑前屬島。殘島、志賀島を以て其大なるものとす、周回何れも二里餘あり。
筑後屬島。大野島其大なるものにして周回三里半餘、筑後河口にあり。

肥前屬島。平戸島周回四十三里ありて、廣島、生月、大島等を有せり、其
他島原半島、宇久、奈留、中通、福江、久我の諸島あり。

肥後屬島。天草、上島、天草下島は其大なるものなり。

豊後屬島。姫島大なり。

大隅屬島。櫻島は鹿兒島灣内の中央にあり、種子、屋久の二大島は南
海にあり、屋久は八重山を以て名あり、種子は長方形にして十四里
の長さに及べり。

○都市

都市。筑前には福岡を以て最大なる都市とす、西北海岸にあり、東那珂
川を隔て、博多町に續き、人口五萬四千、福岡縣廳所在の地たり、其外
博多、姪濱、大宰府、箱崎、秋月、甘木等皆名區たり。

筑後には北境筑後河畔に久留米あり、人口二萬餘、商業盛大なり、西北
の平野に柳川あり、人口一萬三千あり、其他瀬高、榎津、若津等の名邑あ
り。

豊前には西北端に小倉あり、中國に通するの要路とす、商況盛んにし
て人口一萬四千あり、門司港其東北にあり、九州鐵道の起端なりとい
ふ、將來の繁盛思ふべきなり、北海岸に中津あり、山國川の右に位す、人
口一萬六千あり、其外宇佐、大橋等の名邑あり。

豊後には大分川の左岸に大分あり、舊と府内と稱す、大分縣廳の所在
地にして人口一萬四千あり、其東南に臼杵あり、人口一萬一千、此二都
を以て此國の最大なるものとす、其他別府、杵築、日出、佐伯等の名邑あ
り。

肥前には長崎市あり、港口西に向ひ、東南北皆高さ一千尺以上の山嶺
を以て圍繞し、港内廣く水深く貿易場の最良なるものなり、人口四萬
四千餘、長崎縣廳の所在地たり。

佐賀は又肥前の東北隅にあり、佐賀縣廳の在る所にして人口二萬五
千、商業盛んなり、此外島原、佐世保、伊萬里、唐津、平戸等の邑あり。

熊本市は肥後の西北白川を挟む人口五萬二千餘、熊本縣廳及び師團の所在地にして長崎と相距る四十八里商工甚だ繁盛なり。其外肥前には八代、長洲、山鹿、川尻、人吉、高瀬、宇土等の諸邑あり。日向には南部の海岸大淀川の下流に宮崎あり、宮崎縣廳の所在地にして人口七千九百あり、其他延岡、細島、美々津、高鍋、佐土原、廣瀬等の名邑あり。

大隅には福山、國府、加治木あり、何れも鹿兒島灣頭にあり、又南端に佐多、東端に内浦あり。

薩摩には鹿兒島市あり、東方鹿兒島灣に臨み北方、城山を負ふ、人口四萬七千、鹿兒島縣廳の所在地たり、其外谿山、揖宿、山川、加世田、日置、川内等の名邑あり。

○勝地
勝地。耶馬溪は豊前山國川の河合にあり、兩岸奇石老樹ありて風光幽邃、彼の赤壁にも劣らざるの勝地たり。

櫻島は鹿兒島灣内にありて火山の風景殊に宜しとす。

筑後の發心山は櫻花を以て名高し。

肥前海中に時として火光を發することあり、之を不知火と稱す、一奇觀たり。

大宰府神社は筑前大宰府にあり、社殿壯宏、眺望最も佳なり、又志賀の砂嘴なるもの鐘岬の西南にあり、細く海中に突出する殆んど三里、砂上青松を生じ、自ら天橋立の趣ありとす。

○風俗及人情
風俗及人情。各地方一ならず、筑前、筑後、豊前、豊後、地方は概して質朴温厚なれども、間、輕薄の風を帶ぶる所あり、肥前は敏捷にして巧智に、肥後薩摩は篤實にして勇



第二編各道誌の第八章西海諸誌

敢、日向、大隅は朴訥にして固陋の傾きあり。

○物産

○農産

○製造品

物産。農産物は筑前の米、麥、烟草、藍、牛、馬、筑後の米、麥、藍、茶、牛、馬、肥前の米、麥、甘藷、肥後の米、麥、甘藷、大豆、豊前、豊後の烟草、麥、麻、日向の甘藷、大隅の大島砂糖、國府煙草、薩摩の煙草、茶、麻、甘藷、牛、馬を其重なるものとす。製造品には、筑前の博多織、筑後の紙、油、蘭、薩、豊前の小倉織、豊後の疊表、肥前の伊萬里、有田の陶器、肥後の八代疊表、熊本綿布、日向の綿絲、半紙、薩摩の陶器、蕙等ありて有名なり。

○水産

水産には筑前の鯛、豊前の鯛、豊後の鯨、大隅の鯨、薩摩の鯛等殊に多し而して沿岸至る處魚鹽の利ありと雖も、就中肥前を以て盛大とす、即ち鯨、鯛、鯨、鳥賊蝦及海草の收穫實に夥多なり。

○礦産

礦産には筑後の三池、肥前の高島に石炭坑ありて、甚だ有名に夥しく石炭を産す、且豊前に田川炭坑あり。

豊後、日向、大隅に金坑、筑前、豊前、豊後、肥後、日向に銅坑、肥前、肥後、日向、大

○史談

隅に硫黄坑、肥前、肥後、豊前に陶土坑、薩摩に大理石坑等あり、其産出甚なからず。其外硯材、錫、綠礬、鐵、砥石、アンチモニー等あり。

史談。九州は上古筑紫と稱し、又肥前、肥後を火、國、豊前、豊後を豊、國など

と稱せり、太古より近代に至るまで歴史上の事實最も多き土地とす。

筑前の太宰府は聖武帝の時、藤原廣嗣の反せし處、醍醐帝の時菅原道

真の謫せられし處、其朝倉は齊明帝の行宮跡なり。

豊前の宇佐は應仁帝を祀り奉る、宇佐神社ありて、和氣、清原の神勅を

受けて悪僧を退けしは此社なり。

肥前の平戸島は弘安年中元兵の入寇せし時薄る處にして我が兵風

雨に乗じ元兵を塵にせし處なり、其名護屋は豊臣秀吉行臺を築き

て以て征韓の本營となせし處、其長崎は徳川氏之を以て支那、荷蘭等

の外國と互市の場となし、より爾來外船の常に入出入する處となる。

其天艸島は寛永中小西行長の遺臣等亂を起し以て徳川氏に抗せし
虞其佐賀は明治七年江藤新平等の朝に在りし時征韓論の議行はれ
ざる爲めに亂を起せし處なり。

肥後の熊本は加藤清正の築造せし堅城あるを以て其名高し現時第
六師團歩兵第十一旅團の兵營たり元と熊本鎮臺と稱せり明治十年
西南の役に谷將軍の籠城固守せし處なり其八代川尻人吉高瀬宇土
等の諸邑又皆當時の戦區たり。

肥後五家は源平の戦に平氏の殘黨潛伏せし處にして其子孫連綿以
て今日に及ぶといふ。

日向は天孫降臨の土地なるを以て我が國に於て第一に皇化に浴せ
し處なりとす高千穂の宮趾は高千穂峯にありて瓊々杵尊の宮造り
し給ひしより四世の間此に居給ひしといふ神武帝に至り上國に入
りて終に天下を統治し給へり其天岩戸高天原天浮橋等は三田井の

近傍にありといふ熊襲の反するや景行帝の親征し給ひし時此國に
暫らく行在せらる其再び反するや皇子小碓尊征して日本武の尊號
を受けられし處なり其延岡佐土原等の地は明治十年の役戦區とな
る。

大隅は稱徳帝の時和氣清麿の流されし處なり。

薩摩は戰國以來島津氏の有たり徳川氏の季年國人英人を武藏の生
麥に殺せるを以て英艦直ちに鹿兒島港に至り其罪を讓め遂に大に
戦ひ爲めに市街兵燹にて焼土に歸せしことありしが遂に償金を出
して事止む明治十年に至り西郷隆盛亂を起せし處にして其鹿兒島
の北屏たる城山は隆盛最後の戦區にして西南の亂の鎮定せし所た
り。

○壹岐

壹岐。九州の西北に位し面積八方里山低くして高原の如し人口凡そ
三萬五千あり肥前と相距る僅かに十五海里なり勝本郷浦は其市街

にして長崎より對馬に至る船舶の寄港する處たり、海魚、海草、布帛を産す。

仁明帝の時新羅の入寇を防がん爲め戍兵を置く、後一條帝の時外船の侵掠する所となり、元兵入寇の時又大に掠略せられたり。

○對馬

對馬。二島より成り南を上島、北を下島といふ、面積合せて四十四方里

山岳起伏して平地少なし、然れども壹岐と同じく低山のみなり、地味

瘠薄にして人口凡そ三萬あり、壹岐を距る二十六海里、朝鮮を距る二

十七海里なり、都邑を嚴原とす、淺海灣に四ヶの砲臺を設けたり、海草、

海魚、煙草等を産し、穀類は總て之を内地に仰げり。

壹岐と同時に外船の侵掠する所となる、二島の民それ同じく我が國

民なり、同胞たるもの大に察し憐まざるべけんや。

○琉球

琉球。九州の南に位し、東北の沖繩群島西南の宮古群島とより成り、其

島數大小總て五十五あり、其大なるものは、沖繩島、宮古島、石垣島、入俣

島、此三島は宮古群島に屬す等なり、全面積百五十六方里にして、地勢

山多きも皆低し、地味又肥瘠相半ばす、人口凡そ三十七萬にして、氣候

暖温にして、四時寒を知らず、然れども風常に吹きて涼を送るを以て

煩熱に苦むことなし。

那覇港は沖繩島にありて首府たり、港内水淺くして大船を入ること

能はず、市中には沖繩縣廳あり、人口凡そ二萬六千あり、首里は那覇の

東一里許の丘上にあり、往時王尙氏の城のありし處にして、現時は第

六師團の分營たり、人口二萬五千あり。

宮古群島の海中には暗礁多く且つ潮流の通路に當るを以て舟行甚

だ險なりとす、其南端の島を波照間島とす、我が邦極南の土地とす。

産物は、芭蕉布、泡盛酒、甘藷、漆器等重なるものにして、其他漁鹽の利

少なからず。

風俗は窄袖の長衣を纏ひ、結髮簪を用ふ、家屋は低く、牆は高し、是れ風

多き土地なるを以てなり、食物は甘藷を以て常食とし好んで蘇鐵の果を食ふ、其料理に至りては巧妙驚くべきものあり、故に家々蘇鐵を培養せり、性質温厚質朴にして言語文字は殆んど内地に等しとす、其下賤のものは男女共に事業に従ふも中位のもの、男子は逸遊して女子其職を勤むるの風あり。

飯匙倩と稱する毒蛇ありて往々人畜を害するの恐あり。

保元の亂に源為朝、伊豆の大島に流さるゝや進んで此地に入る、時に權臣利勇なるもの、亂に會せしかば爲朝義兵を起して利勇を討滅し己れの子尊敦に王位に即かしむ、之を舜天王とす、爾來子孫相傳へて王たり、明太祖好を通せしより支那との交通開け爾來常に其冊封を受けたり、尙寧王に來り我が國に久しく朝貢の禮を缺きしを以て島津家久、徳川氏の許可を得て之を伐つ王捕へられて降る徳川氏家久に此地を與へしかば、是れより島津氏に屬して毎歲方物を納めたり、

り、明治五年に至り其王を華族に列し西海道に附し沖繩縣を置く。

○第九章 北海道誌。

○位置及境界

位置及境界。本道は我が邦の東北部に位し、東南太平洋に面し、北は千島海峡と宗谷海峡とを以て、魯西亞に對し、南は津輕海峡を隔て、本土に相對し、西は日本海、東北はマコック海に面す。

○地勢

地勢。本島は石狩より苫小牧の間の平原を界として東西二部に分ち、東部は其中央山脈起伏して最も高峻に大河の源をなす、且つ原野に富めり、而して其海岸に至りては各所皆低平なりとす、西部は山岳起伏甚しと雖も、峻峻に至らず、千島群島は本島の東北に延長、其東北端は魯領カムサツカと僅かに海水を以て相隔つのみなり。

○氣候

氣候。土地廣茫なるを以て寒暖一ならずと雖も、概すれば、西南部は本土より少しく寒烈なれども、東北部は酷寒にして、氷雪の河川を埋め

○地味

て人跡を絶つに至る而して夏季は日子の少なきも比較的其温度甚だ高しとす。

地味。未開墾の土地多きを以て充分の調査を遂ぐる事能はざるも石狩平野の如きは肥沃といふべし而して穀類、桑、麻、菓木等は土質に適するもの、如し、現今砌りに開拓に従事すれども明治二十三年末の調査によれば全道の面積六千九百方里總論と同じからず、對し宅地、田畑、牧場等を合し僅かに四萬七千二百餘町に過ぎず、尤も開拓の豫算は少なくも一百万町歩を得べしといふ。

○山岳

山岳。石狩岳は石狩の東隅本島の中央に聳え高さ六千尺餘、地勢是れより四方に傾けり、夕張岳は石狩岳の山脈の南に走りしものにして、石狩と日高との境にあり。宗谷岳は北見の北隅にありて、石狩岳の山脈の北に走りしもの、中にあり、高さ四千尺餘、其脈東南に延びて天鹽山脈に連る。

○河

天鹽山は天鹽にありて十勝岳は十勝にあり、共に高峻なるものとす。後方羊蹄山は後志にありて、東南隅に峙ち高さ六千五百尺餘、本道第一の高山にして消火山たり、其形狀の似たるを以て蝦夷富士の稱あり。駒ヶ岳は渡島の東部にありて、又内浦岳ともいふ、往古より噴火山にして其害を蒙ひりしこと甚なからず。其他渡島の恵山、大川嶽、藤振の有珠嶽、釧路の阿寒岳等皆火山にして、阿寒岳の雄峯は今尚ほ噴火せり。河湖。石狩川は石狩岳に發源し、屈曲して西南に流れ、日本海に注ぐ、長さ百六十七里、我が國第一の大河にして、下流數十里は船を通ずることを得るを以て運輸の便あり、且つ灌溉の利多く、鮭の獲獲又盛なりとす。

天鹽川は天鹽に在り、源を十勝、石狩の二山に發し、西北に流れて海に

入る長さ七十餘里あり。

大津川は石狩十勝の境に發源し、南流太平洋に注ぐ長さ四十四里、支流を十勝川とす、長さ僅かに二里餘、又太平洋に注げり。

釧路川は釧路に在りて久壽里川ともいふ、長さ三十七里餘、又太平洋に注ぐ。

其外北見の常呂川根室の西別川共に三十里の長さあり、新冠川、日高、十勝の界にありて長さ二十六里餘あり。

湖沼の最も大なるものを北見の猿馬湖とす、周回十八里、一條の海砂を以て僅かに海水を限れり。

其他ヲレン湖は根室にありて周回十五里、洞爺湖は膽振にありて周回十里餘、阿寒湖は釧路にあり、大沼十勝にありて皆著名なるものとす、其小なるものに至りては尙ほ許多あり。

瀑布及温泉。石狩瀑は石狩岳にありて六條となり、其二條は高さ百五

○湖

○瀑布

十丈幅六間、他の四條は高さ三十丈幅二間に過ぎず、其水石狩川の源たり。

阿寒瀑は釧路に、ラッキベツ瀑は千島群島中の擇捉島にあり、此瀑高さ五十丈餘、巾二十間にして直ちに海中に飛注し、頗る壯觀なりといふ。

温泉は渡島に惠山湯、河汲湯あり、膽振に登別湯あり、何れも著名なり、其他尙ほ許多の温泉あれども未だ著はれざるなり。

海岸。箱館は安政六年開港し、我が國五港の一なり、渡島の東南海岸にあり、箱館山其南端に聳え、以て港口を扼す、灣内水深く能く風濤を拒ぎ、大艦巨舶を入るゝに足る、港の辨天岬に燈臺を設く。

小樽港は後志にありて本道西岸中最も安全なる碇泊地とす、其市の中に燈臺あり。

厚岸港は釧路にありて仙鳳趾、醜丹の二岬を以て扼したる灣中にあ

○温泉

○海岸

○港

り東南部第一の佳港とす。

根室港は根室の東隅にありて港内の辨天島に燈臺あり、千島群島に渡航すべき要港たり。

其他膽振に室蘭、有珠の二港、石狩に石狩港、渡島に江差、福山の二港、日高に幌泉港、北見に網走港等あり。

渡島灣は渡島の兩角即ち鹽首岬と白神崎とを以て擁せし灣をいふ。内浦は膽振の南端繪鞆岬と渡島と相對して成せる灣をいふ、此灣盛んに臘肭獸の獵あり、其灣口は即ち室蘭港なり。

壽津灣は後志の辨慶岬と於加茂井岬とにより擁せられたるものにして、小樽灣は後志の北端高島岬の南にあり、厚岸灣は厚岸港のある所、根室灣は根室の納沙布岬と北見の知床岬とより成れり。

前條に於て擧げる岬崎の外尙ほ渡島の東端に惠山岬、後志の北端に高島岬、白糸岬あり、日高の南端に襟裳岬あり、太平洋に突出す、往昔は

○岬崎

之を以て口蝦夷、奥蝦夷を區分せりといふ、根室に野付岬、北見に宗谷岬あり、此岬は樺太の自主岬と相對して日本海とチコック海とを分てり。

○海峡

津輕海峡は渡島の白神岬と陸奥の龍飛崎との間にして又松前海の稱あり。

宗谷海峡は北見の宗谷岬と樺太島との間にして根室海峡は根室灣と千島の國後島との間にあり。

屬島は渡島に大島、小島、後志に寶島、奥尻島、天鹽に天瓜島、燒島、根室に

水晶島、北見に禮文島、利尻島等あり。

都市。函館は北海道咽喉の地にして人口五萬二千六百餘、全道の輸出入品皆此に集る北海道廳の支廳を始め、會社、銀行、學校、病院、博物館、區役所等あり。

福山は渡島の西南海岸にありて人口一萬餘、松前氏の城趾たり、江差

○都市

○島嶼

は西海岸にありて人口二千餘あり。
小樽は後志にあり人口凡一萬餘、札幌に通ずる鐵路あるを以て甚だ
殷盛なり。

札幌は石狩の廣瀨たる平野に在り人口一萬四千三百餘、北海道廳の
在る處にして農學校、病院及び諸會社あり。
其他各國小邑少なからず。

○風俗

風俗。本道都邑の人民は大抵内地より移住のものなるを以て茲には
單に土人即ちアイノ種の風俗を擧げん。

男女皆斷髮、黥面にして耳に環を貫き衣服は木皮より製したるもの
或は獸皮を纏へり、袖窄く裾短かし且つ身體毛深くして男子は殊に
甚しとす。

食物は山獸、海魚、海藻、木實等を常食とし、最も酒と煙艸とを嗜む。
家屋の制、數多の丸木を地中に建て、礎となし、床を設けず、其屋を葺

- 物産
- 水産
- 林産
- 農産
- 礦産

くには蘆荻若しくは海草類を以てし家を周らすに柴牆を以てせり。
足には魚獸の皮を穿つものわれども多くは徒跣なり、男女勞を共に
し、男子は弓箭を執て山野に獵し、海濱に漁し、女子は衣服の原料を製
出するに従事せり。

敬神の心、非常に篤く大獵あれば木幣を以て神を祀り、喜び舞ふを常
とせり、蓄財の心なく文字なく唯口に相傳ふのみ。

物産。水産物には鰻、虎、鰩、鮑、鱈、鱈、鮭、昆布、鱈魚、鮫等にして、
林産には檜、樺、落葉松、桂等あり、土人の製作品はアツシ織、花紋を彫刻
せる器皿などにして、農産は漸次盛大を來すべし。

礦産には本道中礦坑十數ヶ所ありて其六は硫黃坑にして採出毎歲
百五十貫に及び他は皆石炭坑とす、其他石油坑、金、銀、銅等の數坑あり
と雖も採出多からず。

右の外大理石、珊瑚、亞鉛等を産せり。

史談。本道は全國中最も久しく王化に歸せざりし地たり、景行帝の時、武内宿禰之を巡視し、後日本武尊の鎮定あり、齋明帝の時、安倍比羅夫の討平あり、尋で坂上田村麿の征服あり、是に至りて全く王化に歸するに至れり、元來本道は蝦夷地と稱し、近年迄此語を用ひたり。後方羊蹄山は後志にありて、阿部比羅夫の郡領を置きし處、其福山は渡島にありて、松前氏世々の城趾たり、初め足利氏(享保年間)の時、若狹の人、武田信廣なるものは、是の地に據りて、姓を蠣崎と改め、子孫相繼ぎ、徳川家康に至りて、姓を松前と改めたり、爾來魯人屢、本道の各所に至り、以て移住せんと企てしを、以て松前氏に要地を徴して、箱館奉行を置けり。

五稜廓は箱館の近傍にあり、明治元年、榎本武揚、大島圭助等の幕府の爲めに、兵を集め、以て官軍に抗せし處、其鷲木港、江差、箱館灣、津輕海峡等は、當時の戦區たり。

○千島群島

日高の沙流川の河源には、義經神社あり、蓋し義經陸奥に於て死せず、終に此地に入り、尙ほ進みて深く外地に赴きしならん。

五稜廓の亂後、開拓使を置き、北海道と改名し、明治十九年、開拓使を廢して、北海道廳を置く。

千島群島。本島より東北三百六十里の間に、連鎖狀をなして、散布する三十有餘の島嶼より成り、太平洋とオホーツク海とを分てり、今西南端即ち根室灣より漸次東北へ其重なる島を擧ぐれば、國後島、色丹島、擇捉島、得撫島、新知島、計吐夷島、羅處和島、松輪島、雷公計島、捨子古丹島、越輕磨島、加亞連古丹島、温彌古丹島、磨勘留志島、波羅茂里島、阿頼度島、占守島等とす。

國後島は本道の本島に最近の地にして、占守島は我が國極北の地たり、一葦海水を隔て、魯領カムサクカと相對す、現今郡司大尉、其地の要處たるを察し、移住の計畫あり、北門の鎖鑰、忽かせにすべからざる

なり。
 擇捉島は群島中の最大なる島にして得撫島以北は無^む人島なり、其近海臘虎甚だ多く外船の密獵するもの屢なりといふ。
 群島火山多く海岸波荒くして近づくべからず、夏は霧深くして呎尺を辨せず、冬は寒威凜冽なり、人口僅かに六百七十餘。
 得撫島より以北占守島に至るの數島は元來魯領なりしが明治八年樺太島と交換し以て千島群島に屬せり。

○附編 萬國誌。

○第一章 亞細亞洲。

○位置及境界

位置及境界。東半球の東北に位して世界第一の大洲たり、東太平洋に面し、西歐羅巴亞非利加之二洲に界し、南は印度洋西は北氷洋に接す、而して高山の多きと、高原の廣きと、半島の大なると、人民の繁きとは、共に他洲に其比を見ざる所なり。

○朝鮮

朝鮮。我が邦條約國の一にして、北は長白山を以て支那と境し、正北の一小部僅かにシベリヤに接し、他は日本海及び黃海に臨めり。
 全國を八道に分つ、即ち平安咸鏡黃海京畿江原忠清全羅慶尙是れなり、京城は京畿道の漢陽にありて人口二十五萬あり。
 釜山元山津仁川を此國の三港と稱し、我が領事廳は釜山にあり。
 氣候寒暑共に烈しく土地肥沃なれども、民皆遊惰にして產物少なし

其風俗は支那明代の制を用ひ、文字は漢學の外に又自國のものあり、此國古は三韓なりしが其後新羅となり、高麗となり、今は即ち朝鮮となる。

○支那

支那。我が邦條約國の一にして本洲東部の一大帝國たり、西方極めて高く漸く東南に下る故に諸川多く西より東に流る。

境域廣大にして本洲の四分の一を占む、此國古より定まりたる國號なく今は清といへり。

全國を支那本部、滿洲、蒙古、新疆、西藏の五大部に分つ。

支那本部。北京は京城にして直隸省の中央にあり、人口凡そ一百万、世界大都の其一なり、宮殿美麗、市街方正にして道路雑踏を極むるも路上不潔にして乞食多く氣候寒暑共に烈しく十月より河水堅氷を結ぶ。

上海は此國第一の良港にして我が領事廳あり、市中に烟館とて女子

に客を引き以て鴉片を吸はしむるもの殊に多し、抑鴉片は毒藥にして之を飲めば生命を失ふ支那人之を知らざるにはあらざれども一度用ひては其快忘るゝこと能はずといふ、我が國にては之を嚴禁せり。

香港、天津、港、廣東共に貿易場にして南京は華奢風流の都會なり。

川には黃河、揚子江最も大に運輸の便あり。

萬里の長城は本部北邊蒙古の界にありて長さ五百十數里あり、臺灣は厦門に對する大島にして先年我が邦問罪の擧ありし處なり、河南の西に洛陽城あり、周の天子の故都たり、四川は古蜀の地にして成都は即ち其古城なり、此處諸葛孔明の遺跡多しといふ、山東省は昔の魯國にして孔子の生れし地なり。

本部の風俗は滿洲の制に従ひて男は頭髮を剃り中央に少しく止め編みて後に垂れ女子は耳環を穿ち足を括りて小ならしむ、其物産に

至りては陶器、茶、輸出品として其名高く尙ほ五穀、金銀等を出す。
滿洲。支那本部の東北に位し黒龍江の大河北境を流る本洲は清帝
の本國たり。

蒙古。支那本部の北方興安山脈を隔てたる大地にして、大半は沙漠
なり故に耕作する者甚だ尠し、且つ人民多くは水草を逐ふて一定の
家居なく多く游牧を生業とす、其貨物の運搬は皆駱駝を使用せり。

新疆。蒙古の西に位し、又ズンガリヤともいふ首府をヤルキャンと
いひ隣國と貿易の要地たり。

西藏。世界第一の高原にして海面を抜くこと一萬二千尺崑崙山北
境にあり、首府をラッサといふ住民雜種にして佛教頗る盛んなり、國
民の大半は僧尼なりといふ。

安南。又交趾支那とも稱し、佛蘭西の保護を受く、カンホチヤ河の近傍
は肥沃にして農業に宜し、此國犀象の類甚だ多く氣候炎熱にして一

○世界第一の高原

○安南

○暹羅

年内雨節、乾節の二期あり、霧深く、颶風暴雨の難屢ありといふ。

暹羅。安南の西にありて、首府をバンコックといふ、我が國にシヤモト
唱ふる家鶏は此國より渡りしものなり、南部の半島をマレー半島と
云ふ、此半島概ね暹羅に屬すれども最南のマラッカは英領なり、其極
南にシンガポール港あり、東洋第一の繁華地とす。

此國近時百般の文物大に開化に向へり氣候炎熱なれども、寒を覺ゆ
ること往々あり一年を暑節、雨節、寒節の三季に分つ。

緬甸。暹羅の西にありて、英吉利の領地なり、首府をマンダレイといふ、
イラハダイ河は大川なり、此國古強國なりしが數十年前、英國と屢戰
ひて敗北せしより、終に其支配を受くるに至る、象多くして耕耘戰闘
皆之を使用す。

○印度。國の半は沙漠にして十分の九は英領たり、首府をカルカタとい
ふ英國の總鎮あり。

○緬甸

○印度

○世界第一の高山

ヒマラヤ山脈北境に連亘し山中最も高さものは二萬九千尺あり、世界第一の高山とす、サンブ、恒河、印度川の三大川皆ヒマラヤ山に發し沿岸皆肥沃なり、南海に錫蘭島あり、島内寶石に富めること又世界第一なりといふ。

此國は古の天竺國にして釋迦出世の地なり、國內猛獸多く、獅子、虎、象、犀、コブラと稱する大蛇等あり、人類の階段殊に甚しく上位の人の下を視ること恰も犬馬の如どしいふ。

榕樹と稱する樹木は此國に生し、世界に於て奇異なるものと稱せらる、其枝垂れて地に入るときは悉く根を生じ、歳を経るに従て其數を増し、一木三百幹の多きに及ぶものありといふ。

○阿富汗斯坦及俾路芝斯坦
阿富汗斯坦及俾路芝斯坦。印度の西に位し甲は北部にありて首府をカブルといひ、乙は南部にありて首府をケラットといふ、人民の住居半は家に、半は帳幕にして多く牧畜を業とす。

○波斯

國內盜賊夥しく行商するものは皆隊を組み兵器を携へて之を防ぐといふ。

波斯。土地高くして沙漠多く、南部は不毛にして北部は肥沃なり、首府をテヘランといふ、此國昔は強國にして其近傍は大抵屬國なりしも、今や衰へて小國となれり。

○亞拉比亞

亞拉比亞。東にペルシヤ灣、西に紅海南にアラビヤ海あり、紅海に臨める地は土耳其に屬せり、國の南端に亞丁港あり、英國に屬し、紅海出入の船舶は皆此に碇泊す。

メッカ、メソナの二府あり、メッカは回教の開祖マホメットの生れし地にして、メソナは死したる地なり、其信徒毎年土耳其、印度、波斯、中亞細亞、亞非利加等より此に詣するもの多く、皆隊を組み來りて拜すれども歸途に就くもの至て少なく、概ね長途の疲れに堪へずして此地に死すといふ。

産物は馬を以て天下の最良種とす。

沙漠に住めるの民は常に奪掠を事とするを以て國內の商人此を通
行する時は必ず隊を組み又駱駝を使用す。

亞細亞土耳其。歐羅巴洲の土耳其と一國たるを以て首府は歐洲内に
あり、此地耶蘇の降誕せし所なるを以て神聖地と稱し巡拜するもの
甚だ多し。

露領亞細亞。コウカサス、ブツカリヤ、シベリヤ等の總稱にして、本洲の
北部に位し、其面積殆んど本洲の三分の一を占む。

シベリヤは、烏拉山より東方カムチャツカ、カラフト等に至る廣大な
る國なれども、不毛の地多し、トボルスク、オムスク、トムスク、イルクス
ク等の都會あり。

朝鮮の近地に、ウラギチナストツク港あり、東海の要路たり、
シベリヤの中間、深林中に居るものは、皆魯西亞本國の罪人なり、毎年

○亞細亞
土耳其

○露領亞
細亞

本國より此地に流さるゝもの凡そ一萬二千人、其内罪の輕きは地面
を與へて妻子と共に生活せしめ、重きは礦山の業に就かしむといふ。

○第二章 歐羅巴洲

位置及境界。亞細亞洲の西に位し、東は烏拉兒山脈を以て亞細亞洲に
界し、南は地中海を隔て、亞非利加洲に對し、西は太平洋北は北氷洋
に面す。

本洲の廣さ亞細亞洲の五分の一にして最小なるものとす。
地勢。平野多く殆んど全洲の半を占め、東北より起りて西岸に達せり、

山脈は平野の南に多くアルプス山脈最も著名なり。
海岸。黒海は高加索山脈の西にありて、裏海は東にあり、白海は本洲の
北にあり、地中海は亞非利加洲との間にあり、其他バルチック海、北海
等あり。

○位置及
境界

○地勢

○海岸

○露西亞

半島はスカンヂナビヤ半島、堪抹半島、西班牙、葡萄牙の半島、以太利の半島、希臘の半島等あり。
 チナバルタル海峡は本洲と亞非利加と相對して地中海の口を鎖せり。
 露西亞。帝國にして疆域の大なること世界第一なり、亞細亞を三分して其一を有ち歐羅巴を二分して其一を有てり。
 ホルガ河は歐洲第一の大河にして、ウラル河は亞細亞の境を流る、其他ベスチエラ河、ニプル河等の大川あり。
 首府をセントペイトルスボルグといふ壯麗なる大都なり。
 外國との貿易は重もに亞細亞地方と英國獨逸なりとす。
 リガ、クロンスタット等の地方は共にバルチック海邊にあり、五穀、木材、麻苧の類を輸出すること多く、チヂサ府は黒海の濱にありて、五穀の交易場なり、又アストラカンは裏海の濱にあり、漁業の名區にし

○瑞典諸

○世界極北の港

○獨逸

て、亞細亞と隊商互市の要地なり。
 瑞典諸國。共にスカンヂナビヤの半島にありて、キチレン山脈を以て境とせり。
 諸國は通商甚だ盛んにして、都府をキリスマヤ、ヤといひ、ベルケン、は佳港なり、ハンメルヘストは世界極北の港にして鱈を産すること實に夥多なりとす。
 瑞典は鐵道運河ありて内外通商の便甚だ盛んなり。
 兩國統御の君は一人にして人民書を讀むを好み研究する所多しといふ、北邊に至りては二ヶ月間日光を見ざる所あり、されど時々北光の光を放つあり、夏又二ヶ月の長き晝間あり。
 獨逸。二十六邦同盟の一帝國にして、其内普魯士は最も強大にして人民も亦多し。

普魯士は即ち盟主にして獨逸國の帝を兼ね、首府をベルリンといふ